

市 川 市 新 山 遺 跡

—北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書II—

1 9 9 0

日本鉄道建設公団
財団法人 千葉県文化財センター

市川市新山遺跡

—北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書II—



1 9 9 0

日本鉄道建設公団
財団法人 千葉県文化財センター

序 文

近年の首都圏の拡大に伴い北総地域は人口の増加が著しく、交通網の整備が急務となっております。そこでこの問題を解決すべく、都市交通審議会の答申に基づき千葉ニュータウンと都心を結ぶ北総開発鉄道の建設が計画されました。

一方、路線の予定地となる北総台地は自然環境に恵まれ、古くから各時代にわたる多くの遺跡が発見され、埋蔵文化財の宝庫となっています。このため千葉県教育委員会では当該事業地内の埋蔵文化財の取扱いについて、日本鉄道建設公団をはじめ関係諸機関と慎重に協議を重ね、日本鉄道建設公団が直接施行する区域内の、松戸市彦八山遺跡と市川市新山遺跡については発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなりました。

発掘調査は千葉県教育委員会の指導のもとに、当センターが実施することになりました。このうち松戸市彦八山遺跡については、すでに発掘調査、整理作業が終了し「松戸市彦八山遺跡」として報告書を刊行しております。市川市新山遺跡については昭和63年度に発掘調査を実施し、古代の道路跡のほか、多數の先土器時代石器を検出しました。これらはこの地域の原始・古代の人々の生活や文化を解明するうえで、貴重な資料になると言えるでしょう。

このたび整理作業も終了し、発掘調査の成果を「市川市新山遺跡」として刊行することとなりましたが、これは北総開発鉄道建設に伴う発掘調査報告書としては第2冊目にあたるもので、本書が学術資料としてはもとより文化財の保護と普及のため、広く一般の方々に活用されることを願って止みません。

終わりに、業務の遂行に当たり御指導・御協力をいただいた、地元関係者、日本鉄道建設公団、千葉県教育委員会、市川市教育委員会の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査、整理作業に協力された調査補助員の皆様に心から謝意を表します。

平成2年3月

財團法人 千葉県文化財センター
理事長 岩瀬 良三

凡　　例

1. 本書は、市川市国府台 6 丁目2,423-7 他に所在する新山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は日本鉄道建設公団による北総開発鉄道建設工事に先立ち、千葉県教育委員会の指導のもとに財団法人 千葉県文化財センターが実施した。調査面積は1,260m²である。
3. 調査で使用したコード番号は、203（市町村コード）-001（遺跡コード）である。
4. 現地作業は、調査部長 堀部昭夫、調査部長補佐 古内 茂、班長 大原正義の指導のもとに、主任調査研究員 上守秀明が担当した。
調査期間は昭和63年4月1日から6月23日である。
5. 整理作業は、調査部長 堀部昭夫、調査部長補佐 西山太郎、班長 谷 匡の指導のもとに主任技師 山口典子、上守が行った。
整理期間は平成元年4月1日から7月31日である。
6. 先土器時代遺物の実測及びトレイスに関して、技師 田島 新の協力を得た。
7. 本書の執筆は、班長代理 田村 隆、主任技師 田形孝一、山口、上守が行ったが、分担は目次及び各文末に記したとおりである。編集は田村、山口の助力を得て上守が行った。
8. 写真撮影のうち遺跡・遺構関係と、整理作業に伴う遺物のうち土器を上守が、先土器時代石器を山口が担当した。但し、空中写真については、京葉測量株式会社の撮影によるものを使用した。
9. 本書に使用した地形図のうち、第45図は国土地理院発行の1:25,000松戸（NI-54-25-2-1）船橋（NI-54-25-2-2）を編集して使用した。
10. 本書に使用した図面の方位は、座標北を示すものである。
11. 先土器時代石器属性表の見方は、第3表(本文67ページ)の末尾に付した。
12. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、日本鉄道建設公団関東支社、同栗山工事事務所、千葉県教育庁文化課、市川市教育委員会の関係各位、ならびに化学療法研究所付属病院、安藤政雄、堀越正行、古里節夫、平久宇吉の各氏には御指導、御協力賜りました。また当センター調査補助員の方々にも、発掘作業・整理作業において協力頂きました。合わせてここに謝意を表します。

本文目次

序 文

凡 例

序 章

1. 新山遺跡の立地と周辺の遺跡（山口・上守）	1
2. 調査に至る経過と調査の概要（上守）	3

第1章 第2黒色帯上部の石器群（田村） 6

1. 調査	6
2. 石器の製作技術と形態・構成	8
3. 石器生産・廃棄空間とブロック	10

第2章 検出された上層の遺構と遺物 68

1. 001号遺構（道路跡）（山口）	68
2. 道路跡について（田形）	70
3. 繩文時代の遺物（上守）	71

挿図目次

第1図 遺跡周辺の地形図	1	第16図 ナイフ形石器・削器	26
第2図 小グリッド	3	第17図 削器・楔形石器	27
第3図 遺構配置図（1/1,000）	4	第18図 楔形石器	28
第4図 先土器時代遺物分布図（1/1,000）	5	第19図 石刃・二次加工のある剝片	29
第5図 遺物分布図（1/200）	7	第20図 二次加工のある剝片・使用痕のある剝片	30
第6図 遺物の垂直分布	7	第21図 二次加工のある剝片・使用痕のある剝片	31
第7図 遺物分布図地区割り図	17	第22図 使用痕のある剝片	32
第8図 遺物分布図1（1/50）	18	第23図 使用痕のある剝片	33
第9図 遺物分布図2-1（1/50）	19	第24図 使用痕のある剝片	34
第10図 遺物分布図2-2（1/20）	20	第25図 使用痕のある剝片	35
第11図 遺物分布図3（1/50）	21	第26図 石核	36
第12図 遺物分布図4（1/50）	22	第27図 石核	37
第13図 遺物分布図5（1/50）	23	第28図 石核	37
第14図 遺物分布図6-1（1/50）	24	第29図 石核	38
第15図 遺物分布図6-2（1/20）	25	第30図 石核（接合資料）	40

第31図 石核	41	図版4 (1) 遺物出土状況
第32図 打削器	42	(2) 遺物出土状況
第33図 石槌	43	図版5 (1) 遺物出土状況
第34図 石槌	44	(2) 遺物出土状況
第35図 石砧	45	図版6 (1) 001号遺構全景
第36図 接合資料1	46	(2) 001号遺構近景
第37図 接合資料2	47	図版7 ナイフ形石器・削器・楔形石器
第38図 接合資料3	48	図版8 楔形石器・石刃・二次加工のある剝片・使用痕のある剝片
第39図 接合資料4	49	
第40図 接合資料5	50	図版9 二次加工のある剝片・使用痕のある剝片
第41図 接合資料6	51	図版10 使用痕のある剝片・石核
第42図 001号遺構(1/100)	69	図版11 石核
第43図 001号遺構出土土器	70	図版12 石核(接合資料)
第44図 繩文式土器	71	図版13 打削器・石槌
第45図 遺跡位置図と主な周辺遺跡(1/25,000)		図版14 接合資料
第46図 新山遺跡の地形(1/2,500)		図版15 石砧・001号遺構出土土器・繩文式土器

図版目次

- 図版1 新山遺跡周辺の空中写真(1/10,000)
 図版2 新山遺跡の空中写真(1/2,500)
 図版3 (1) 新山遺跡近景
 (2) 調査区全景

表目次

- 第1表 石器属性表 52
 第2表 石器組成表1 63
 第3表 石器組成表2 63

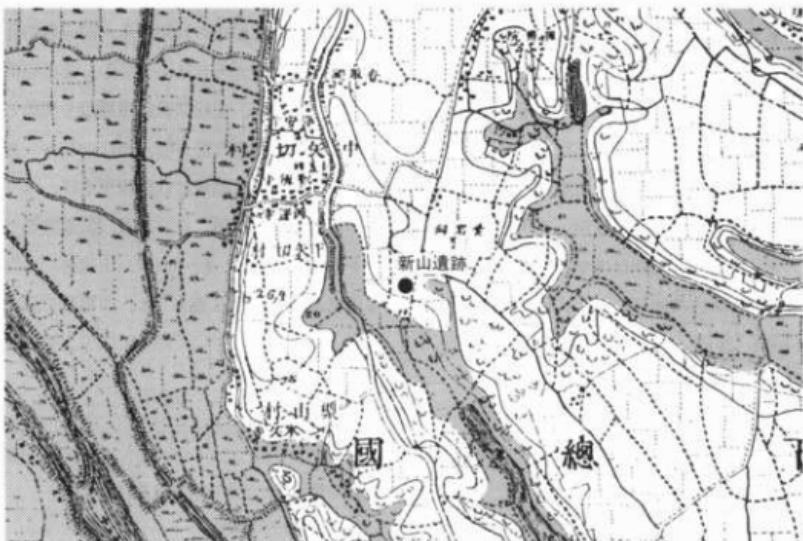
序 章

1. 新山遺跡の立地と周辺の遺跡(第1・45・46図、図版1・2)

新山遺跡は市川市国府台6丁目2,423-7他に所在する。市川市は、千葉県の北西端に位置し、西側は東京湾に注ぐ江戸川を挟んで東京都と接しており、北側は松戸市との市境となっている。国府台地区は市川市域北西端に位置し、松戸市南西端の矢切地区と隣接する。第46図の本調査区西端に接する市道は、この市境の一部となっている。

市川市域のうち南部は東京湾に面し、東京湾に注ぐ河川によって形成された沖積地が広がっている。また北部には下総台地と呼ばれる低くなだらかな台地が広がっており、市の約3分の1にあたる地域は、この下総台地によって占められている。この台地は東京湾に注ぐ河川によって開析されるが、中でも北にのびる国分谷と北東にのびる大柏谷の大きな二つの谷は、国分川と大柏川によって開かれた谷で、市域の台地を大きく3つに分断している。そしてこれらの台地のうち国分谷と江戸川低地に挟まれた台地は、国分台と呼ばれる。国分台は、国分谷から分岐し北西にのびる六反田支谷によって更に二分され、谷の西側は国府台と呼ばれている。

このように市川市は海に面した温暖な地域で、古来より自然環境に恵まれていた。また古代の交通の要所で下総国の国府が置かれたこともあり、著名な遺跡が数多く存在する地域である。堀之内・姥山・曾谷貝塚といった大馬蹄形貝塚や下総国分僧寺・尼寺等の国指定史跡をはじめ、



第1図 遺跡周辺の地形図（明治13年参謀本部陸軍部測量局測量）

現在150箇所以上の遺跡が確認されているが、その多くが国分谷・大柏谷の両側の台地上に立地する。

新山遺跡は六反田支谷の奥部に面した国分台に位置し、標高は23.5m～24.0mである。遺跡周辺は早くから削土や埋め立て等の土地の改変が進められたよう、往時の様子を捉えにくく、第1図等から推察すると遺跡東側には小支谷が入り込み、遺跡の立地する台地はこれと六反田支谷に挟まれていたと思われる。今回調査区の北東側は、この小支谷に面した台地端部から斜面部となっている。現況から判断すれば遺跡周辺は早くから宅地化が進み、南側は病院、他の三方も宅地となっているが、おそらく遺跡はこれらにまで広がっていたと思われる。調査区はこれらに囲まれながらも畠地として利用されており、本遺跡は採集遺物から、縄文後期加曾利B式期と平安期の散布地として周知されていた。

新山遺跡周辺の遺跡について、調査が行われた主要な遺跡を中心に概観してみたい。

先ず、六反田支谷の谷口周辺は、下総国分僧寺・尼寺のほか下総国府推定地があり、これと関連が考えられる集落跡が多数確認されている。下総国分僧寺・尼寺は六反田支谷の右岸台地上にあり、市川市が主体となり主要伽藍や寺域の確認調査が継続して行われ、貴重な成果を挙げている。また下総国分尼寺の北に接する地域も下総国分の遺跡として調査され、国分僧寺・国分尼寺と関連のある遺跡として注目される。下総国府推定地は下総国分僧寺・尼寺の対岸、六反田支谷左岸台地上にあり、多数の墨書き土器をはじめ「和銅開珎」等が出土し、市指定史跡となっている。また台地から一段降りた段丘上には、弥生・奈良・平安期の標識遺跡として著名な須和田遺跡が所在する。

国分谷の奥部、新山遺跡の東側では、主として縄文時代の遺跡が知られている。国分台の北部には、やはり国分谷の支谷である道免き谷津が、西から東に深く入り込んでいる。この谷周辺の北国分地区（隣接する松戸市大橋地区の一部を含む）は近年、北総開発鉄道建設を契機として土地区画整理事業等が計画され、これらに伴って埋蔵文化財の実態が明らかになりつつある地域である。すなわち道免き谷津の北東の堀之内遺跡、その更に北東には権現原遺跡、八反割A・B遺跡、東山作遺跡、市川市・松戸市にまたがる大橋向山遺跡、松戸市彦八山遺跡等がある。これらの遺跡は縄文時代中期後半～後期前半を中心とするが、松戸市彦八山遺跡では弥生時代から古墳時代の竪穴式住居跡が検出され、権現原遺跡や彦八山遺跡では、当地域で調査例の少ない先土器時代の調査成果があった。

(山口・上守)

主要参考文献

『市川市史』 市川市史編纂委員会 1971

『下総国分の遺跡』 和洋女子大学 1974

『市営総合運動場内遺跡』『昭和55年度 埋蔵文化財発掘調査報告書』 市川市教育委員会 1981

『下総国分尼寺 I～IV』 市立市川考古博物館 1983・1984・1985・1986

2. 調査に至る経過と調査の概要(第2・3・4図)

本調査は当センターと日本鉄道建設公団との委託契約に基づき、実施されることとなった。調査に際しての留意事項として、調査区内に化研病院進入路が現道としてあるため、確認調査の結果如何での協議が必要であることが確認された。調査対象面積は1,260m²で、調査期間は昭和63年4月1日より5月31日の予定で、開始された。

調査は先ず上層の確認調査から行った。その結果、調査区西寄りに区内を横断する溝状の遺構プランを確認したのみで、この他に遺構は検出されなかったため、この部分についてのみ本調査に移行した。これと並行して上層遺構の検出されなかった部分については、下層の確認調査を実施した。その結果、下層については先述の進入路周辺の6箇所のグリッドで、いずれもVII層前後の遺物を検出し、広範な遺物の分布が予想され本調査が必要となった。

この結果を受けて関係機関で協議した結果、契約内容の変更を行い、調査期間は6月30日まで延長、進入路の取り扱いについては、これを除いた部分の調査を進め、調査を終了した時点で東側調査区内に仮設道路を敷設し、その後に進入路部分の調査を行うこととなった。以上の手順で本調査を実施し、6月23日に現地の調査を終了し、引き続き30日まで遺物の基礎整理と、調査記録の整理を行った。

調査に当たっては、国土地理院国家座標(第IX座標系)を使用した基準点測量を行い、20m毎に方眼の地区割りを行った。これを大グリッドとし、さらにこの内を4m毎の小グリッド25個に分割した。そして小グリッドには北西から南東へ順を追って00～44の番号をふり、大グリッドの名称と組み合わせて呼称とした(第2図)。

整理作業は平成元年度事業として4月1日から7月31日まで行い、平成2年3月までに報告書を刊行し、全ての作業を終了した。

検出された上層遺構は調査区西寄りの溝状遺構1条で、これを001号遺構とした。本調査の結果、底面に2～3条の硬化面が認められ、道路跡と判断した。調査区西端に接する市道は元来、江戸期よりの古道で、道路跡はこれに隣接してほぼ並行する点で、興味が持たれた(第3図)。

下層では調査区東寄りのVII～IX層で約400点の石器類が検出された。これらはやや集中する傾向があるもののほぼ一様に台地先端部を覆い尽くすかのような分布を示した(第4図)。

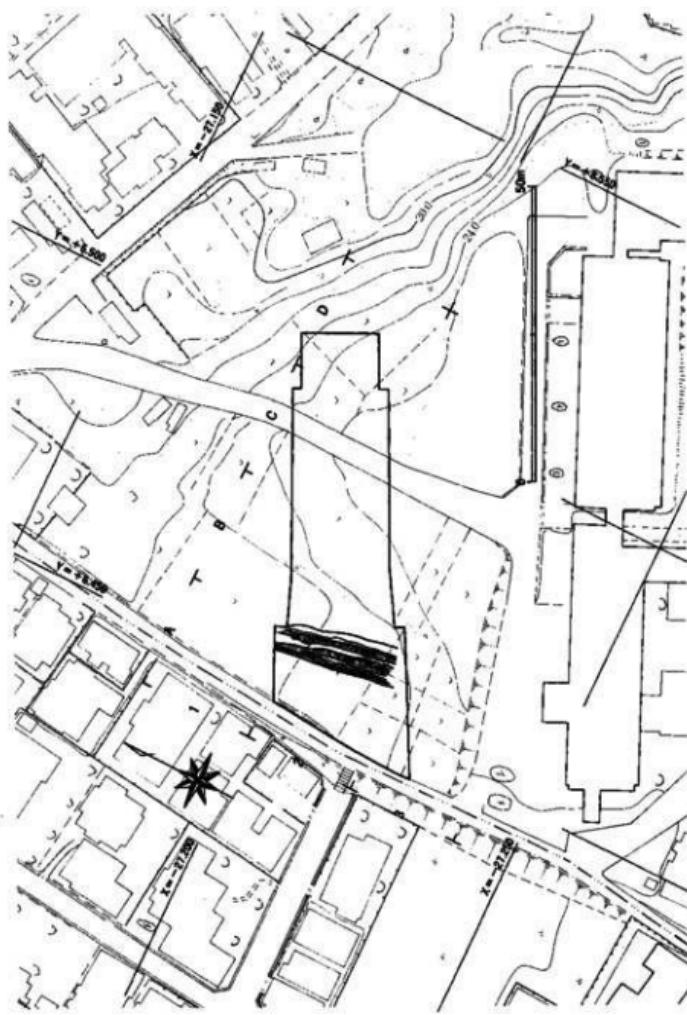
00	01	02	03	04
10	11			
20		22		
30			33	
40				44



第2図 小グリッド

(上守)

第3図 連絡配管図



第4図 先土器時代遺物分布図



第1章 第2黒色帯上部の石器群

1 調査

1・1 概要

本遺跡から検出された立川ローム層中の石器群は、極少量の例外を除くと、何れも立川ローム層第2黒色帯上部を産出層準としている。遺物総数は約400点で、それらは舌状に張り出した小台地の、平坦面から斜面部にかけていくつもの集中地点を形成していた。しかし、なお未調査の部分があり、相当の占地面積をもつ遺跡としてよいだろう。石器群の構成としては、剝片を主体としており、使用痕の観察されるものも多い。また、楔形石器が比較的纏まって検出されているが、その大半は兩極石核と判定された。細部加工の認められる石器は殆ど検出されなかつたが、おそらく、それはかつてこの地点が担った集落としての機能を反映しているものと考えることができよう。また、遺跡内に撒入された母岩数は極めて多く、この遺跡の形成に関与した集團の規模と形成期間が、一般に想定されがちな、小集團・短期間といったものでないことを暗示している。このように、本遺跡の内容は極めて示唆に富むものであり、本報告においては、限定された紙面に最大の情報を盛り込むことに配慮したつもりである。

1・2 土層と遺物産出層準

新山遺跡の標準土層、特に立川ローム層の堆積状況を第5図に示した。この土層図は調査区南側の東西断面を図化したものであるが、各層はほぼ水平に堆積しており、安定したテフラの降下を窺わせる。南北方向の断面図は省略したが、各層は南から北に向かって穏やかに傾斜している。しかし、各層の層相には全く差異は認められなかつた。立川ローム層を構成する各層の状況は以下の通りである。

III層 黄褐色ソフトローム層。人為的に削平されて遺存していない部分が多い。

IV層 黄褐色ハードローム層。削平は本層にも及んでいるが、遺存状況の良いところでは層厚が20cm位ある。

V層 褐色ハードローム層。立川ローム層第1黒色帯に相当する。

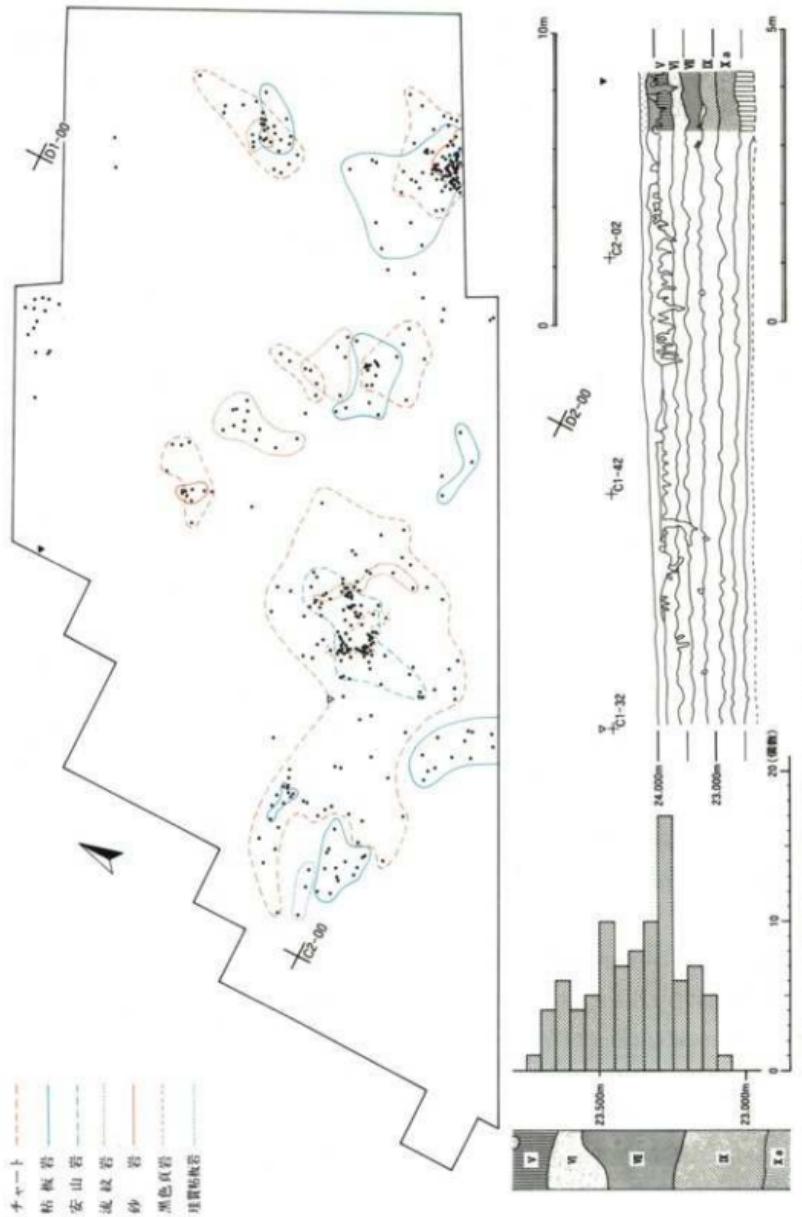
VI層 明黄褐色ハードローム層。ATの層準である。

VII～IXa層 暗褐色スコリア質ローム層。立川ローム層第2黒色帯上部に相当する。VII層とIX層の境界は不鮮明であったが、一般的に両層の層厚に顕著な差は認められない。

IXc層 濃暗褐色スコリア質ローム層。立川ローム層第2黒色帯下半部に相当する。なお、明褐色ローム層として黒色帯間に介在するIXb層は確認できなかつた。

Xa層 褐色の弱粘性ハードローム層。有色スコリアが混入する。

Xb層 褐色の弱粘性ハードローム層。白色スコリアが少量混入する。立川ローム層最下層に相当する。



第6図 遺物の垂直分布 (C1-42他) 第5図 遺物分布図

遺物の垂直分布状況は第6図にC1-42グリッドの状況を示したが、VII~IXa層に集中している。これ以外の資料に関しても同様の分布状況が確認されており、本遺跡の遺物産出層準は第2黒色帯上部に位置するものと判定される(第6図)。特に、IXc層の上面付近に分布のピークがある。後に述べる石器群の様相を参考にすると、大体下総台地標準層位IXa層を遺物産出層準と見做してよいであろう。

1・3 遺物出土状況

遺物の平面分布状況を見ると、東西約22m、南北約16mの範囲にわたっている。これは舌状に張り出した台地の先端部分をほぼ覆い尽くすような状態であり、その分布傾向から更に南側の未掘部分に広がることは確実と見られる(第5図)。この分布範囲内には顕著な分布の疎密があり、C1-42区、C1-31区などに稠密な分布域が認められ、その周辺に広く石器類の散布する状態が看取される。これらの分布状態を手掛かりとして7ヶ所前後の遺物の纏まりを抽出することも可能であるが、後に触れるように、今回の報告書では全体を一つの纏まりと理解したい。第8図から第15図に遺物の器種別分布図を掲げたが、各図の範囲は第7図に示した。図中の遺物番号は石器属性表の番号と一致する。

2 石器の製作技術と形態・構成

2・1 石器製作システム

剥片生産を主体とし、次に生産された剥片の変化過程を観察する。剥片の生産方法は大きく見て2種に分化している。これを野見塚遺跡の報告書に従ってmode 1・mode 2とする。

mode 1 磨山技法として抽出されている粗製の石刃生産手法である。石核293(流紋岩1)、接合資料310+312(流紋岩5)、同362+367(黒色頁岩1)を基準としているが、検出個体数は少ない。なお、流紋岩18、19の石刃もこの仲間と見られるが上層遺構内採集資料ということであり一応除外する。石刃には明確な細部加工の加えられたものは認められないが、298・314などが石刃素材であるとすれば、その一部は有背尖頭刃器や削器に変形された可能性を生じる。

mode 2 諸種の一般的剥片剥離手法による石器製作体系である。叙上の資料を除外した大半のものがこれに含まれると見られる。石核には(1)円錐の側縁に沿って打点を移動するものと、(2)厚手の剥片の縁辺に沿って打点を移動するものの両者がある。前者はしばしば石核の反転を伴う。作出された剥片の一部は刃器として即時に供用されているが、簡略な二次加工の施される場合もある。また、楔形石器のブランクとして選別されるものも多い。楔形石器から剥離された剥片には明瞭な使用痕のあるものがある(42・88・317・37等)ので、楔形石器の一部が両極石核として機能したことが推測され、第三の剥離手法としての(3)両極技法が設定される。

2・2 石器の分類

第2表に本遺跡の石器組成を示したが、細部調整の介在する定型的な石器を殆ど含んでいない反面、使用痕や簡略な刃付けの行われた剥片類（刃器）の多い点が指摘される。礫素材の大形石器は少量の検出であった。また楔形石器の多いことも重要な特徴としてよい。この様相は下總台地IX層上半～VII層石器群の状況を典型的に示している。以下分類項目毎に概観したい。

ナイフ形石器（298） 背部をもつ剥片製尖頭器である。一例ある。断面三角形の積付剥片の基部に部分的な背部加工がある。また尖頭部に横位の腹面剥離が認められる。

削器（39・101・220・314・326） 剥片の一側縁に連続的な刃付けの認められるもの。定型的な資料はない。39は石核の再利用。101は楔形石器から剥離された剥片の一端に小剥離の認められるもの。220は折取られた剥片の側縁に比較的入念な刃付けが施される。314は截頂石刃の可能性もある。326はもしかするとナイフ形石器の破片かもしれない。

楔形石器（42・63・81+83・88・93・279・321・386） 12点と纏まった量の資料が検出された。これから剥離された剥片類も多い（247・263・270・274・317+318+320）。接合資料を観察すると、多面体ブロック状のブランクを台石上に固定し、これを石槌で連続加撃することにより小型の剥片が生産されている。この種の剥片が選択的に刃器として利用されていることは既に指摘したとおりであり、石核としての評価が適切である。

大型の円礫製の石器（356+357・349+350・355・353） 少量であるが、

打割器（356+357）

石槌（349+350・355）

石砧（353）

と一応の器種が網羅されている。

2・3 石器の石材

石器の石材には13種ある。第3表に各種石材の利用状況を示した。チャートが圧倒的に多く、次いで粘板岩、安山岩、流紋岩、砂岩、黒色頁岩等が用いられている。これ以外の9種は何れも少量ずつの検出であった。しかし、チャートは総量こそ165点、598g²と多くを占めているものの、その内部には33個体もの母岩を含んでおり、1個体あたりの母岩保有量は決して多いとは言えない。このうちチャート2・チャート3はそれぞれ28点、25点と比較的多量の個体を保有しており、また、接合資料をもち、特定地点に集中して分布していることから、数少ない遺跡内消費母岩と考えられる。チャート6・7・8なども10点以上の資料を含んでいるので同様の母岩とも見られるが、その消費は限定的である。

粘板岩・安山岩等もチャートとよく類似したあり方を示しており、極少量の限定的消費母岩と少量の個体別資料しか保有しない母岩群によって構成されている。従って、遺跡全体では、多種多様な石材が少量ずつ各所に廃棄され、処々に剥片剥離に伴う廃棄遺物の集積が看取され

ことになる。これ以外の石材に関しては何れも10点未満の検出であり、遺跡内における母岩消費の痕跡を留めていない。従って、全体的傾向として、未加工の原石の状態で搬入された母岩は殆ど存在せず、大半のものが石核、あるいは剥片の状態で将来されていることになる。このことは、母岩の消費が集団の移動に伴って各地で少量ずつ行われていること、また、全体では96種もの母岩が識別されることから、複数の集団により各種の石材が少量ずつ集合的に搬入されている可能性が指摘されるであろう。

石材の原産地に関しては特定しうる資料を欠いているが、松戸市野見塚遺跡(田村 印刷中)において黒色頁岩a種としたものが含まれること、安山岩・流紋岩が比較的多く用いられていることなど北関東を指向する要素が多くあることを指摘しておきたい。ただし、頻出母岩であるチャート、粘板岩等は関東地方各地域にいくつもの產出地点が知られており、その產出地点の候補地は多い。なお、ここで一つ注意しておきたいことは、叙上の母岩構成は下総台地第2黑色帶上部石器群の典型的なものであり、就中、粘板岩・粘板岩質ホルンフェルスの多用はこの時期の著しい特徴と言えよう。

3 石器生産・廃棄空間とブロック

3・1 個体群とその分布

既に触れたように本遺跡の13種の石器石材は96個体の母岩(個体群)に分離された。ここでは各母岩の空間的分布状況を確認する。初めに分布密度(分布面積と分布個体数)を一つの目安として、分布密度に階級を設定しておきたい。

rank 1 小範囲に多数の個体が分布するもの。

rank 2 中範囲に多数の個体が分布するもの。

rank 3 広範囲(小範囲)に少數の個体が分布するもの。

なお、ここで分類基準はごく便宜的、かつ常識的なものであり、如何なる汎用性をも持たないが、分布範囲長径1.5m、3m前後を基準として小範囲・中範囲・大範囲を、また、分布個体数10点程度を境にその多少を区分することにした。以上の各 rank に帰属する母岩数を求めるところ、

rank 1 粘板岩15・流紋岩3・砂岩1・黒色頁岩1等4母岩

rank 2 チャート2・同3・安山岩1・同4・粘板岩2・粘板岩15等6母岩

rank 3 その他86母岩

という結果を得る。第5図に主要石材別の分布状況を示したが、これと全体の石器分布状況を対照すると、見かけ上の分布の疎密が各 rank の分布と密接な関係を持っていることが判明しよう。すなわち、各 rank の分布の仕方によって遺物分布の疎密は規定されている。

第5図から読み取られるように、本遺跡の遺物の平面的分布状況より、C1-40・41区、C2-02

区、C1-42区、C1-03区、C1-23～24区、D1-11区、D1-31区等に遺物の特に集中する様に見える地点がある。特に、C1-42区、D1-31区には濃密な分布域が看取される。この事実から9ヶ所前後の「ブロック」を想定することが一般的なのであろう。この傾向に一概に反対する必要はないのであるが、若干の検討を要する必要があるかもしれない。

まず始めに「ブロック」と先に設定した分布密度階級との関連性について観察したい。最も見やすいのは、C1-42区、D1-31区等に顕著な濃密な分布域には必ずrank 1が含まれていることである。換言すれば、分布密度が周囲に比較して明らかに高い部分は各種の母岩が雑多に集合しているのではなく、特定母岩が纏まって集中している部分である。このような分布域においてはまた、C1-42区の例のように接合資料が高率で含まれていることも多く経験する。このことから一般にこのようなあり方は、特定石材の消費・就中、石核からの剥片の剝離過程の存在が直接的に、あるいは間接的に推定されている。

次に、rank 2の状況を観察すると、大きく2種の分布状況が識別される。すなわち、(1)rank 1と重複するように分布する場合、(2)C1-40区、C2-02区、C1-03区、C1-23・24・34区、D1-11区等のように独自の分布域を形成する場合がある。このことの背景としていくつかのプロセスが想定されるが、母岩の消費・供用・廃棄過程（石器群の時間的分節性）と各過程の遺跡内における偏在的分布（石器群の空間的分節性）に還元することができる。それは、例えば次のような過程によるものかもしれない。

1 a 母岩消費、特にコア・リダクションの過程の差異。石器製作過程を単純に原石を加工して石核原型を生じるまでの段階（段階1）、石核から剥片を生産する段階（段階2）、剥片に細部加工を施して所定の器種を生産する段階（段階3）に分けてみると、段階3までの総過程の相当部分が特定地点で繰り返し実施された場合（一般的消費）と、各段階の極一部分のみが行われた場合（限定的消費）とが想定される。この二様の消費過程が同一地点において、時間的繰り返し性をもって、異種の母岩を対象として行われた場合、廃棄物の分布パターンはrank 1 + rank 2となる。

1 b 母岩消費に時間的間隔が認められる場合。消費形態が一般的な場合であれ、限定的な場合であれ、時間差をもつ特定地点における反復的母岩消費は、1 bと同等の効果を生む。この場合先行する消費過程に由来する廃棄物は諸種の変換（n/c : n/cに関しては3・2項参照）を媒介として rank 1 → rank 2という階級的変容を遂げることが予測されるが、詳細は帰納論的な検討を要する。

2 a 石材の限定的消費地点周辺における最終的廃棄以降の諸種の変換（n/c）。

2 b 特定石材の選択的使用地点周辺における最終的廃棄以降の諸種の変換（n/c）。rank 3に関しては、過程2 bに準じた廃棄形態が予測される。

ここでは特に問題となるのは、各rankが複合的に立ち現れる点であろう。勿論、遺跡によつ

ては各 rank が単独で観察される場合も多く経験するが、本遺跡にあっては、第 5 図から窺われるよう、諸種の母岩は交錯した分布状況を呈しており、従ってまた、各 rank は様々な重複状況を見せていた。これについては過程 1 a としてプロセスを推定したが、その全てを説明しうるものではない。おそらく、叙上の各プロセスの複合体として初めて理解されるのであろう。

ところで、現在では石器群の集中は、その分布の濃淡に従って「ブロック」として処理されるのが一般的であり、これに大きな意義を差し挟む必然性はないにせよ、遺跡内に各種の石器類が廃棄されていくプロセスと「ブロック」の形成過程に関して十分な論議がなされてきたであろうか。認定された「ブロック」を先駆的な前提とする逆立した論議が横行しているように見える。もし、そうであるとすれば、現在人口に論及している「ブロック」とはどのように理解しうる概念なのか。まず、その点を検討し、従来の認識過程の孕む幾多の概念を明確にすることから視点の転換を企図したい。

3・2 「ブロック」とは何か

「野川・月見野以降」と、各方面から賞賛されている神奈川県月見野遺跡群の概報（明治大学考古学研究室月見野遺跡群調査団 1969）において、調査団の諸氏は特に、「遺物の平面的遺存状態—ブロックについて」という一節を付し、

包含層の破壊、攪乱がほとんどなく、遺物が in situ の状態で遺存する先土器時代の遺跡では、一群の遺物が、せいぜい数枚の径を越えない狭い地点に集中し、広範囲にわたる大遺跡の場合でも、こうした遺物群のいくつかの集合体としてとらえられるのが普通である。

このような遺物の集中として分布する状態を、われわれは発掘調査の過程で、仮に「ブロック」と呼んだ。

かくして「ブロック」が認識されることになる。そのような「ブロック」認識の意義としては、「ブロック」あるいは「ブロック」群の厳密な分離に立脚した石器群の認定による編年研究の質的向上とともに、「遺跡の構造に関するさまざまな示唆」を得ることが挙げられていた。このことの背景としては、「ブロック」とは、

あるいは、先土器時代における最小単位の一生活面—例えば一住居の残骸であるかもしれない、同一層準におけるその集合体は、したがって、一集落を示す可能性が強い

という想いが籠められていたことは、その後の展開に重要な意味をもつものとして記憶されてよい。月見野におけるこのような問題提起に対する具体的回答とも言える、埼玉県砂川遺跡の報告書においては、稀に見る良好な遺存条件を前提として、各「ブロック」の個別資料の詳細な分析が実施された。この分析の有効性に関しては既に定評があり、敢えてここで論及する必要はない。しかし、ここで特に注意したいのは、報告書における分析が、(1)「ブロック」の設定→(2)個別資料の分類→(3)分類型の抽出とその行動型への変換→(4)「ブロック」の機能の推定、という手続きに従っている点である。また、この延長線上に、

砂川遺跡の A 地点や F 地点のような數個程度のブロックのまとまりは、先土器時代における最小の生活・居住の単位を示している可能性がつよい。したがって、ブロックがかたちづくられている過程を復元することができれば、それは先土器時代の具体的な生活の場としての「集落」の成り立ちをさぐることも可能である(安蒜 1983)。

という展望が語られる時、その始点において方法的範疇として設定されたはずの「ブロック」が、いつしか実体的概念に換置される、という一種の逆立した構造が浮上する。その極端な事例として栗島義明の次のような指摘を挙げておきたい。

一見したところ、遺物のまとまりにしか過ぎないブロックは、こうして見るとその形成に関して、ナイフ形石器などの石器の製作を前提とした個体の計画的な管理と消費が関与したものと推測されてくる(栗島 1988)。

春成秀爾はこのような議論に対して、「ブロック」=住居址説に疑問を投げ掛けると共に、「石器は別としてなぜわずか一個の原石一大きさにして10~15cm×5cm×5cm程度の小さな石の残核・剝片・碎片が「ブロック」からまとまって出土しないのだろうか」という砂川遺跡の調査者と同一の問いかけを行い、

一つは、下耕地や砂川遺跡の報告者の述べているように、点々と場所を移動しながら石器製作を行ったため、それぞれの場所に剝片・碎片が落ち、最後の場所にそれらに加えて残核がのこされたと考えることであり、もう一つは、一箇所で石器製作は行われたが、その工程にてた剝片・碎片・残核はいくつかの場所(「ブロック」)に分けて廃棄されたと考えることである(春成 1976)。

と、遺物の廃棄と廃棄とを厳密に検討する必要性を指摘された。これに関連して、岡村道雄は長野県石子原遺跡の石器群の分布状況を再検討した論文を公表し(岡村 1978)、砂川遺跡での分析方法が「生活痕跡はそれぞれの場に廃棄され、原位置を留めていると前提または潜在的に考えられている」と批判し、遺物出土状況、「ブロック」構成遺物の内容、剝片飛散実験の結果等から、石子原遺跡の「ブロック」が廃棄された石器の集積地点であることを論じるとともに「ここで述べた廃棄とする論拠は、他の遺跡にも普遍化できよう」と積極的な廃棄論を展開した。

一方、このような議論とは別に、近年、従来の「包含層の破壊、攪乱がほとんどない」といった前提条件に対する疑義が提出されている(塙田 1985、御堂島・上本 1987)。これらの研究は何れもシファーによる n/c 変換(Shiffer 1976)に焦点をあてたものであるが、最終的廃棄以降、検出時に至るまでの変換過程(n/c)のもつ考古学的意味の重要性を指摘したものとして重要である。それは、「ブロック」の成因を廃棄と考えるにせよ、あるいは廃棄とするにせよ、最終的廃棄時点以降の様々なバイアスを考慮することが成因分析の一つの前提となると同時に、従来の「ブロック」認識における廃棄・廃棄形態の行動型への変換過程の狭隘性と限定性を示

嘆するものであった。

さて、これまで極めて雑駁な形ではあったが、「ブロック」を巡る様々な見解を振り返ってきた。要約的に述べれば、現在においてもなお、その形成過程に関する議論は、春成の指摘した遺棄論と廃棄論との両極的様相の狭間に位置していると評価し得よう。しかし、諸種の交換過程(n/c)の介在が不可避の前提であるとすれば、問題は「ブロック」設定にまで進行しなければなるまい。これまで、再三にわたり先駆的な「ブロック」の設定の方法的逆立性を指摘してきたのも、この点を重視したいからに他ならない。栗島のように先駆的「ブロック」を主体として行動を語るのではなく、行動を主体として「ブロック」を語りたいのだ。

3・3 石器の生産・消費・廃棄の分節性

ここで改めて新山遺跡を始めとする諸遺跡における遺物の空間的分布を覗見してみよう。われわれは既に3・1項において、多数の母岩の内容と分布形態を検討して、その分布の疎密と偏在的特性に注目した。それは次のように纏めることができる。

i 遺跡内に分布する石材を母岩単位に分離し、石器の生産・消費過程と対応させると、大きくコア・リダクション(石核消費)の想定される母岩のグループと、遺跡内にそうした過程を残さない母岩のグループとに二分される。前者を消費型母岩、後者を生産型母岩と仮称する。消費型母岩はさらに(1)一般的消費、(2)限定的消費とに細分される。このような母岩の構成は遺跡内における母岩の分布状況と密接な関係があり、これを便宜的にrank 1、rank 2、rank 3と呼称した。概ね、次のような対応関係が成立している。

消費型母岩 一般型消費 rank 1

限定的母岩 rank 2

生産型母岩 rank 3

ii 従来の基準に従って「ブロック」を想定した場合、消費型母岩、とりわけ一般的消費母岩を焦点として明瞭な集中地点、すなわち「ブロック」が識別される。すなわち、砂川遺跡A地点に典型的なように、明瞭な分布の焦点は剥片生産地点の有無によって規定される。

iii 限定的消費母岩と生産的母岩の分布はランダムな場合も多いが、消費型母岩の分布とはしばしば重複的・交差的に立ち現れることがある。特に、一般的消費母岩→限定的消費母岩→生産的母岩という同心円状の重複関係が指摘される。もしも、相接してこの種の重複関係が交差した場合、相互の境界は不鮮明なものになり、しばしば恣意的な「ブロック」設定が行われる要因ともなる。砂川遺跡A地点はこの典型と見られ、母岩の「ブロック」間での共有・移動関係は恣意的な「ブロック」の境界設定に起因する可能性が高い。

iv 一般的消費母岩を欠き、限定的消費母岩と生産的母岩の両者によって分布域が規定されている場合、分布は散漫となる。この分布状況が単独で検出される場合は比較的容易に「ブロック」が設定されるが、しばしば広範囲にわたり散漫な分布が広がる場合があり、そこにおいて

はもはや「ブロック」の設定は恣意的にならざるを得ない。本遺跡のC1-23・24区、D1-20区等にこの事例が観察される。先に触れた石子原遺跡の事例もこの種の分布を示している。

v これまで述べてきた各 rank の分布状況から、居住地点周辺における石器の廃棄・遺棄は諸種の行動があるエリア内部で反復された結果と解釈される蓋然性が高い。従って、遺物の分布密度の差異は、そこにおける行動が変換されたものと見做すことができる。

新山遺跡における各種の分布形態の形成要因に関しては、その可能性の一端を 3・1 で想定したが、上述した i～v の諸形態は、石器の生産・使用・廃棄の時間的かつ空間的分節性に還元可能である。一般的には、シファーや岡村の定式に従って、次のように説明することが出来る。すなわち、これらの一連の過程は、

搬入 (P) → 製作 (M) → 使用 (U) • メンテナンス (m) • リサイクル (r) → 廃棄 (D)

という線条的なプロセスを辿るが、実際の経過は、その分節的特性に従って、

$$1 \quad P \rightarrow M \rightarrow U \cdot m \cdot r \rightarrow D$$

$$2 \quad P \rightarrow M \rightarrow U \cdot m \cdot r \rightarrow D$$

$$3 \quad P \rightarrow M \rightarrow U \cdot m \cdot r \rightarrow D$$

$$\dots$$

$$n \quad P \rightarrow M \rightarrow U \cdot m \cdot r \rightarrow D$$

という繰り返しになろう。問題は以上の過程、そしてより現実的にはその過程の一部が、同一地点内で反復される可能性があることである。また、搬出・入の過程に組み込まれた各母岩に対してこのプロセス、あるいはその一部が繰り返し適用されるのであり、さらに D 以降の諸変換 (n/c) によるバイアスを考慮して、考古学的文脈における特定地点（遺跡）の廃棄形態 (R) は、それら分節的過程の時間的かつ空間的統合として、

$$R = \Sigma n \quad (P \rightarrow M \rightarrow U \cdot m \cdot r \rightarrow D) \cdot (n/c)$$

と定義されよう。

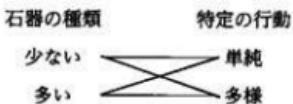
したがって、「ブロック」とは $n=1$ という最も単純なもの (fine grained) から、 n の増大に従って極めて錯綜した内容を提示するもの (coarse grained) まで、極めて多様な変化が予測されることになる。一方、その過程を動態的に見ると、「ブロック」を構成した集団の行動に帰着するが、それに伴う石器の廃棄・遺棄への変換には、時間的・空間的におよそ次のような媒介項を必要とするであろう (Gamble 1986)。

i このような行動がどのように組み合わされていたのか。

ii この組合せに含まれる特定の行動がどの程度の頻度で反復されたのか。

iii これらの行動に関連する道具（石器）の組成はどのようなものか。

iv 道具（石器）の組成と行動の間にどの様な結びつきが想定されるのか。一般的には、



という多様な結びつきの可能性があり、一義的な対応関係は想定できない。

▼道具（石器）の廃棄率（遺存率）はどうであったのか。

以上述べた諸項目は、特定地点における特定集団の一連の行動にたいして考慮しなければならないものであるが、媒介項 i・ii がこの地点内における極限されたエリア、例えば住居内で展開されたと考える必然性が全くないことは明らかであり、この過程において複数の「ブロック」が異所的に、あるいは重複して形成される可能性は特に強調しておかなくてはならない。更に、よく指摘されるように、集団の構成と占地期間の差異によっても「ブロック」の規模と内容は大きく左右されることは明らかであり、特に、回帰的な特定地点の占拠は *palimpsest* の大きな要因となることが説かれている。

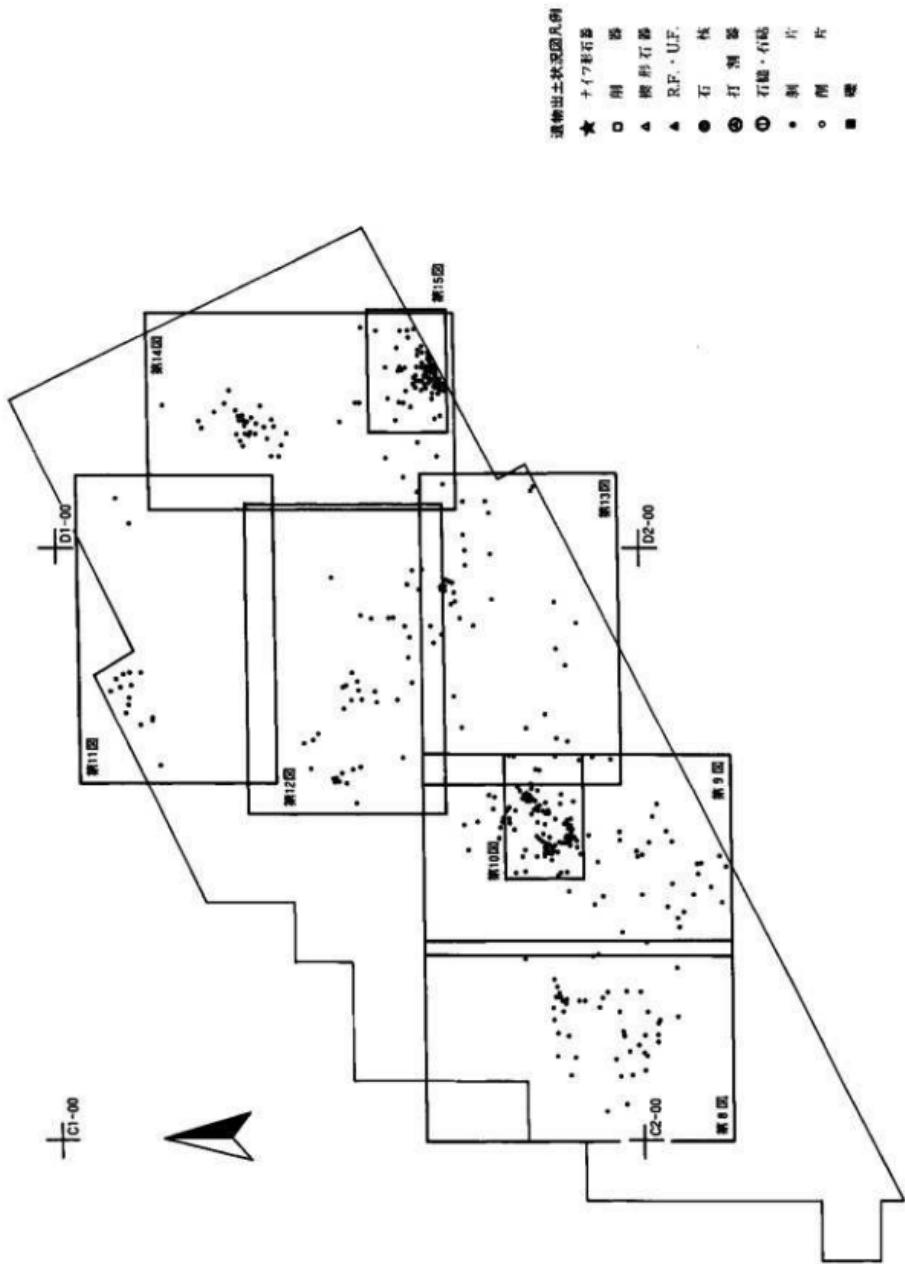
さて、以上の一般的考察に従う時、单一「ブロック」あるいは「ユニット」を單一世帯に還元するような短絡的見解が到底成立しないことは原理的に明らかであり、また「ブロック」を居住単位と認定することに格別の根拠を認めることも困難であろう。従って、また、「ブロック」を集落分析の基本単位とする現在の方法論自体が、極めて危うい前提の上に成立していることをも併せて指摘しないわけにはいくまい。野川、砂川という画期は、一方で(安藤 1975・1977・1978)等に見られる個別資料の綿密な分析に立脚した豊かな成果を結実させた反面、その狭隘で固定的な「ブロック」に対する認識は、それ以前からの技術形態学・文化史学への傾向とあいまって、その後の研究の足枷となつたことも事実である。

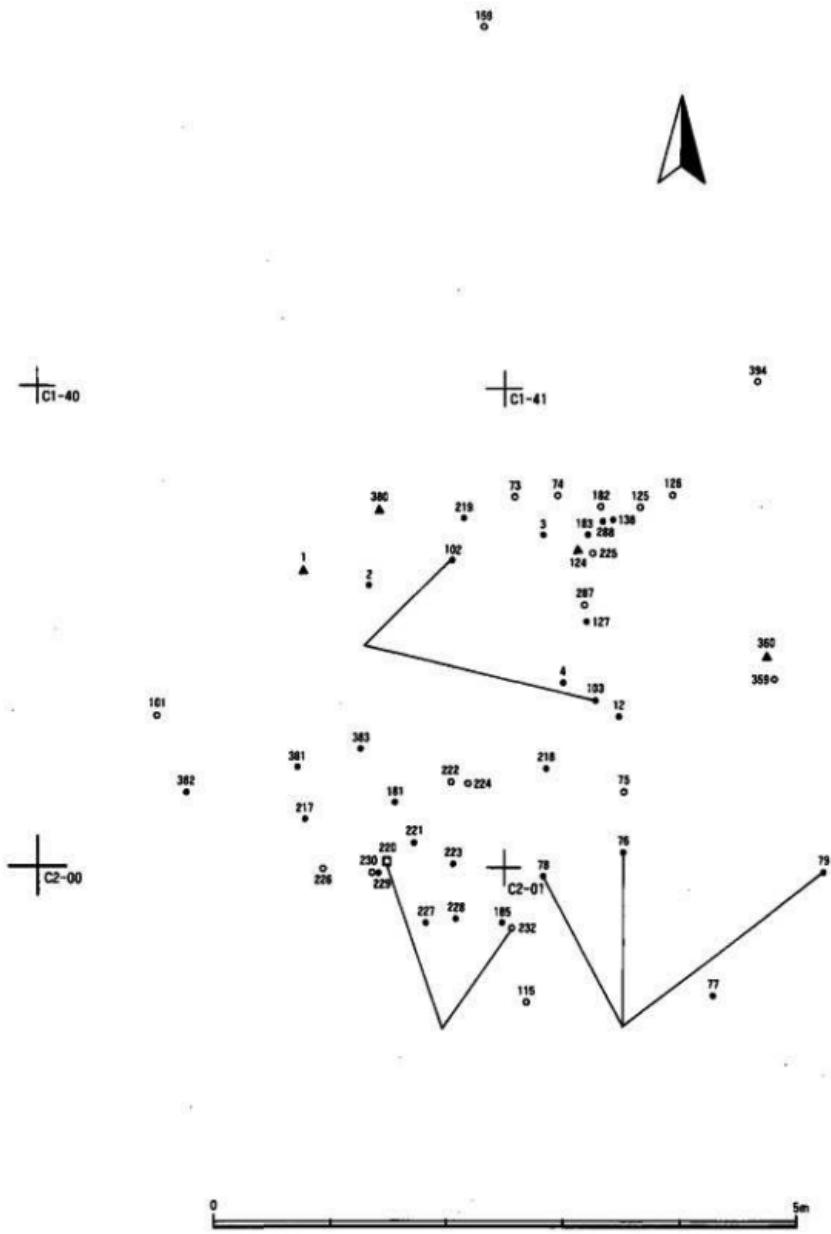
しかし、われわれは「ブロック」時代を根底的に否定しているわけではない。「ブロック」を設定することにはいささかの異論もないでのあるが、重要なのは、月見野遺跡群の調査段階において、既に明確に規定されていたように、それはあくまでも方法的概念として成立するものであり、なんら実体的概念としては存立しえない点にあるのだ。「ブロック」の実体化は、先に述べた様々な媒介項を実資料に即して帰納的視点から明らかにすると同時に、その「ブロック」のおかれた地域において展開されたに違いない先史集団の狩獵・採集戦略の社会進化的視座内部への演繹的構造化という両極的戦略が必要であろう。

本来、新山遺跡の石器群を詳細に分析することによって、このような課題の一端を解明する必要があったのであるが、その前提問題を是非とも明確にしておく必要があり、また、時間的に大きな制約があり、抽象的議論に終始したことをお詫びしたい。また、紙面の都合で引用・参照文献は省略した。最後に、田島新氏のご協力に感謝致します。

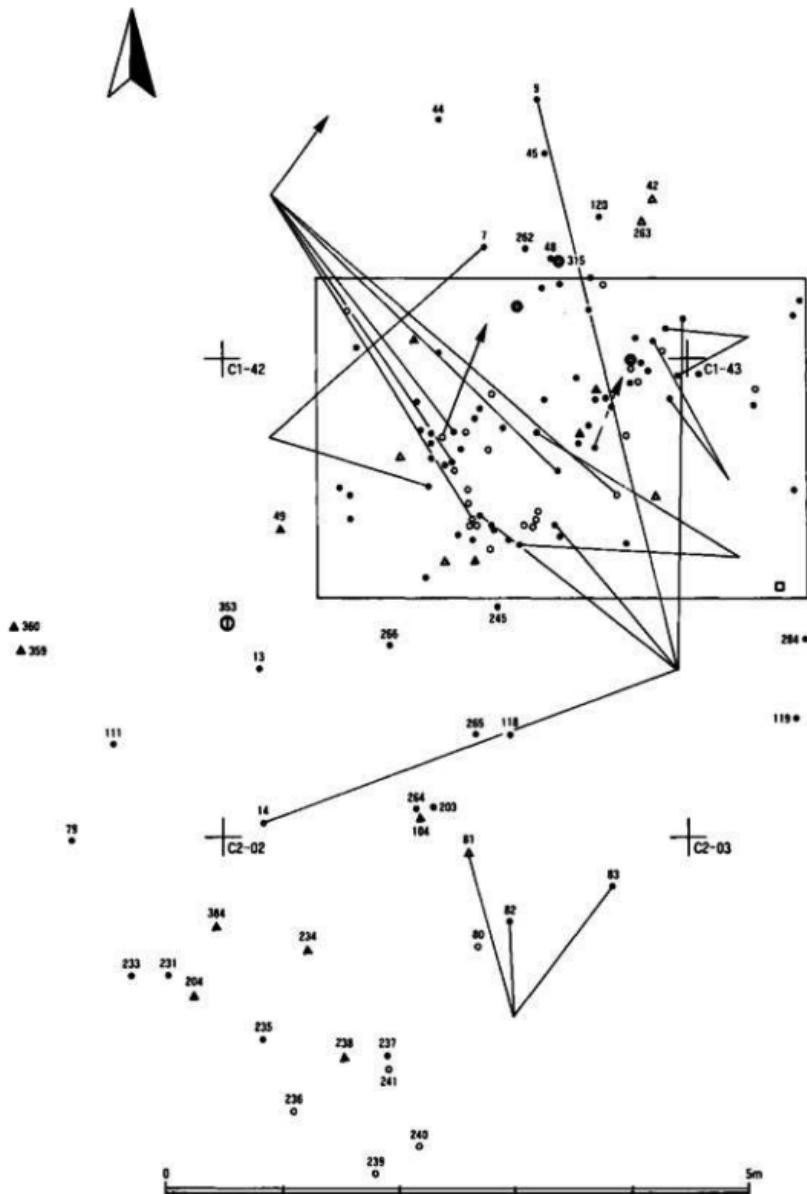
(田村)

第7図 遺物分布図(地区割り図)





第8図 遺物分布図1



第9図 遺物分布図 2-1

314

□

313

315

■

316

○

317

●

318

▲

319

△

320

◆

321

◆

322

◆

323

◆

324

◆

325

◆

326

◆

327

◆

328

◆

329

◆

330

◆

331

◆

332

◆

333

◆

334

◆

335

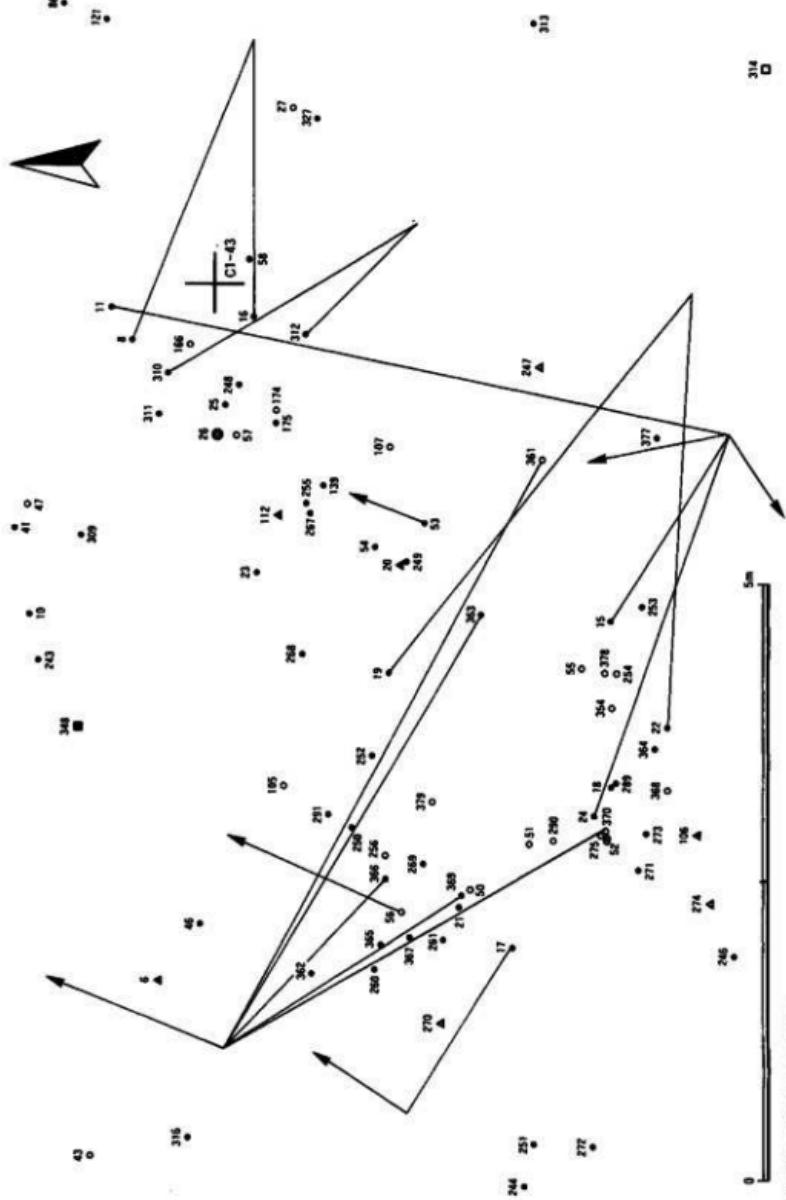
◆

336

◆

337

◆



第10図 遺物分布図 2-2

5m

第11圖 滲物分布圖 3



283

282

281

280 151

279

278

277

276

275

274

273

272

271

270

269

268

267

266

265

264

263

262

261

260

259

258

257

256

255

254

253

252

251

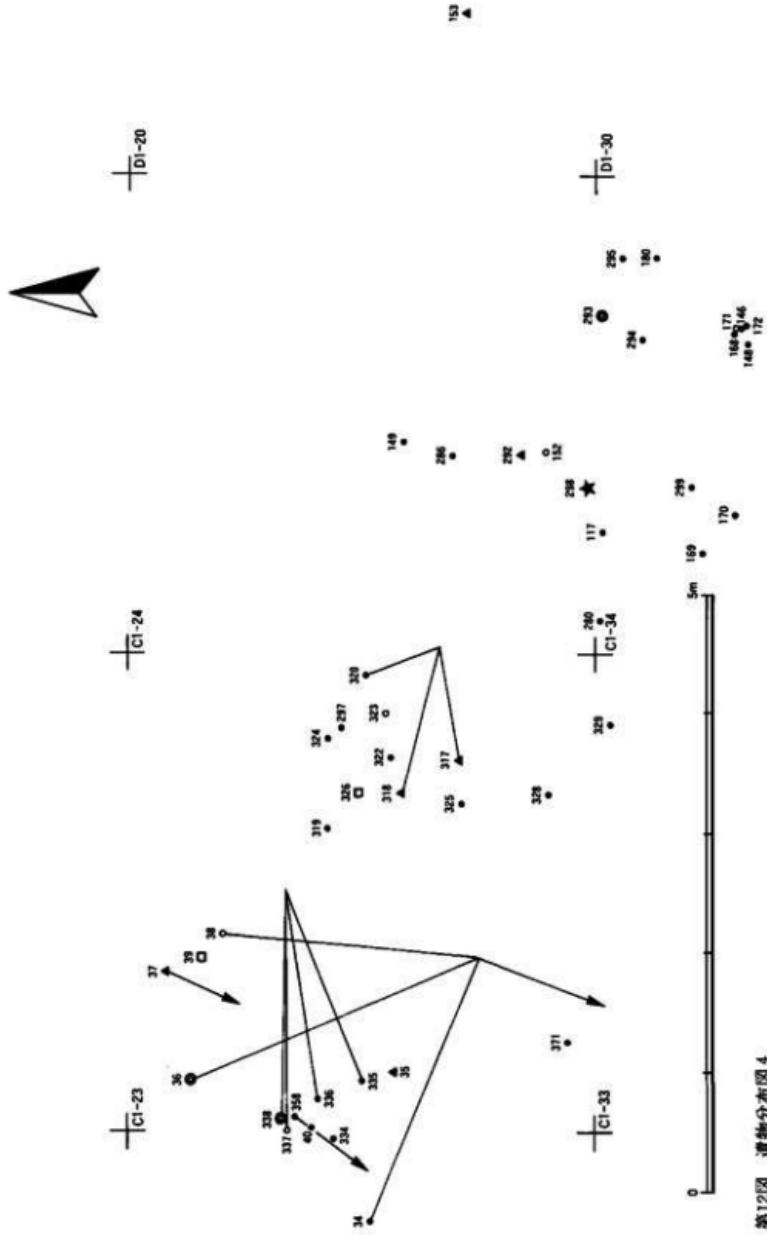
250

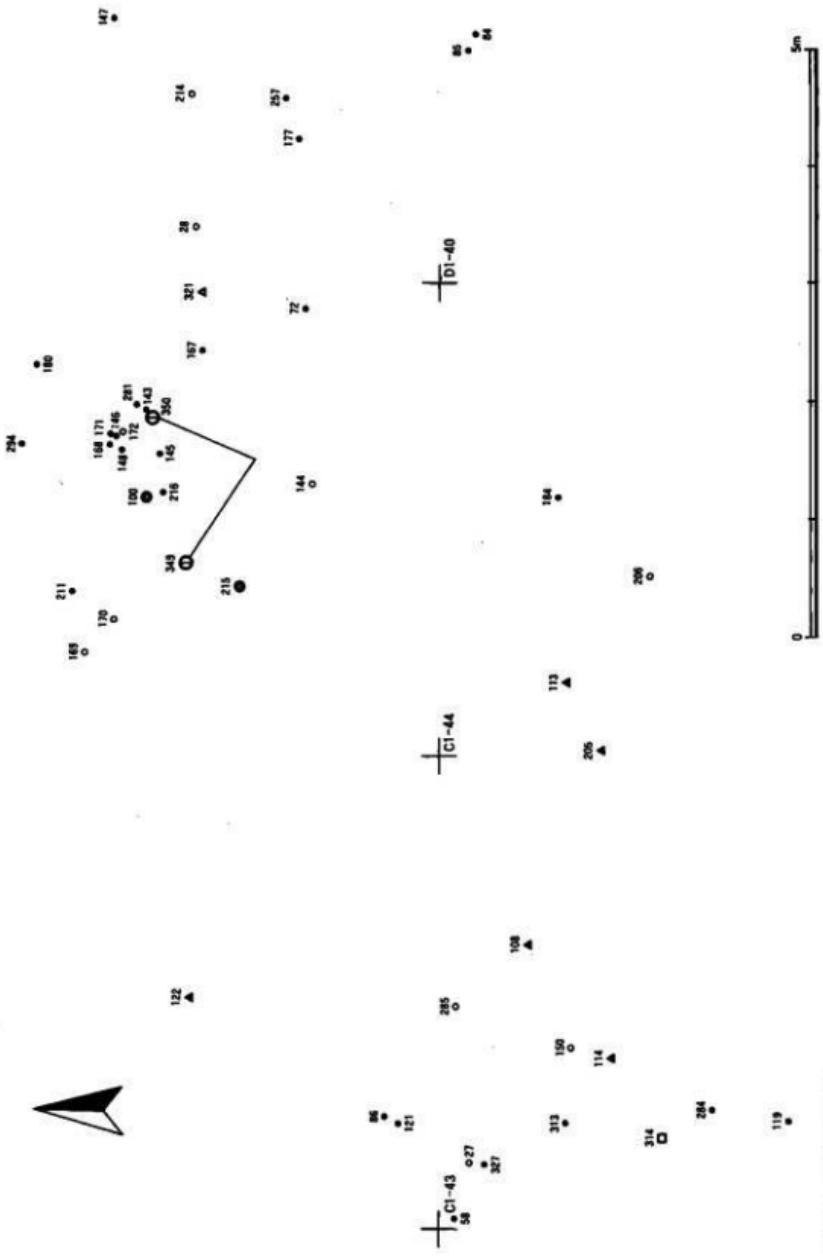
D-10

C-14

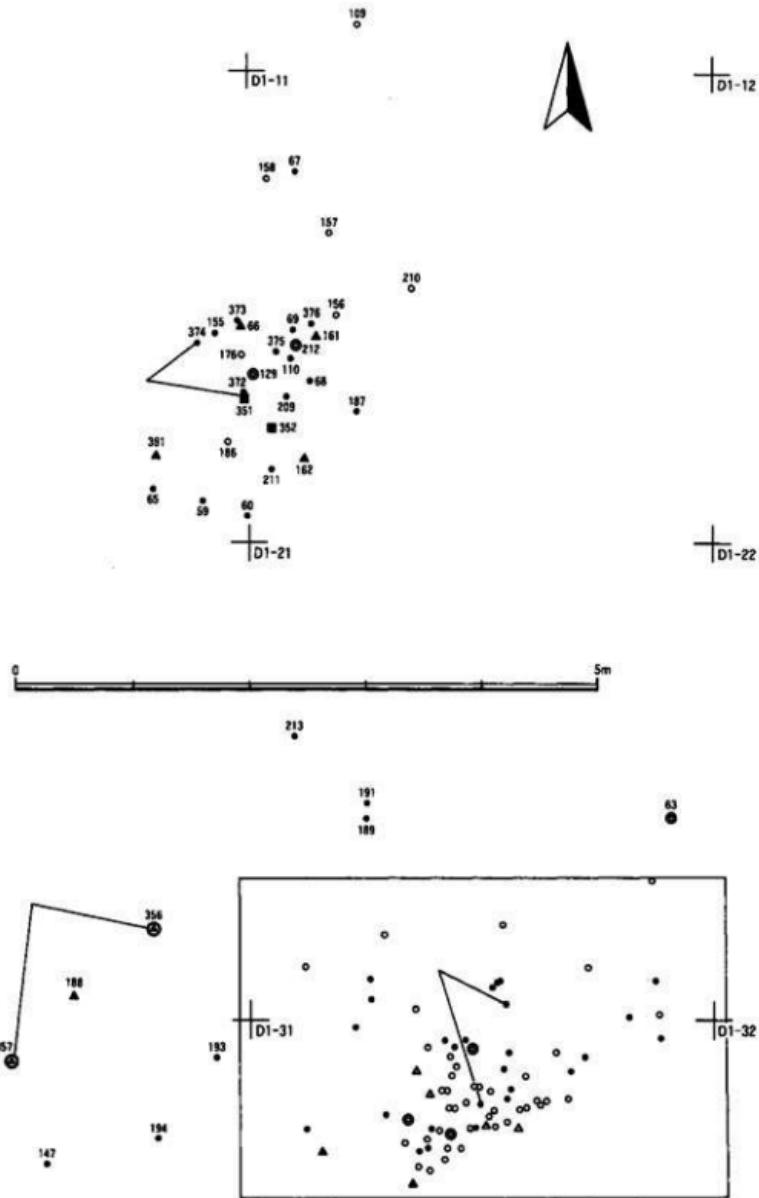
C-13

第12圖 遺物分布図4

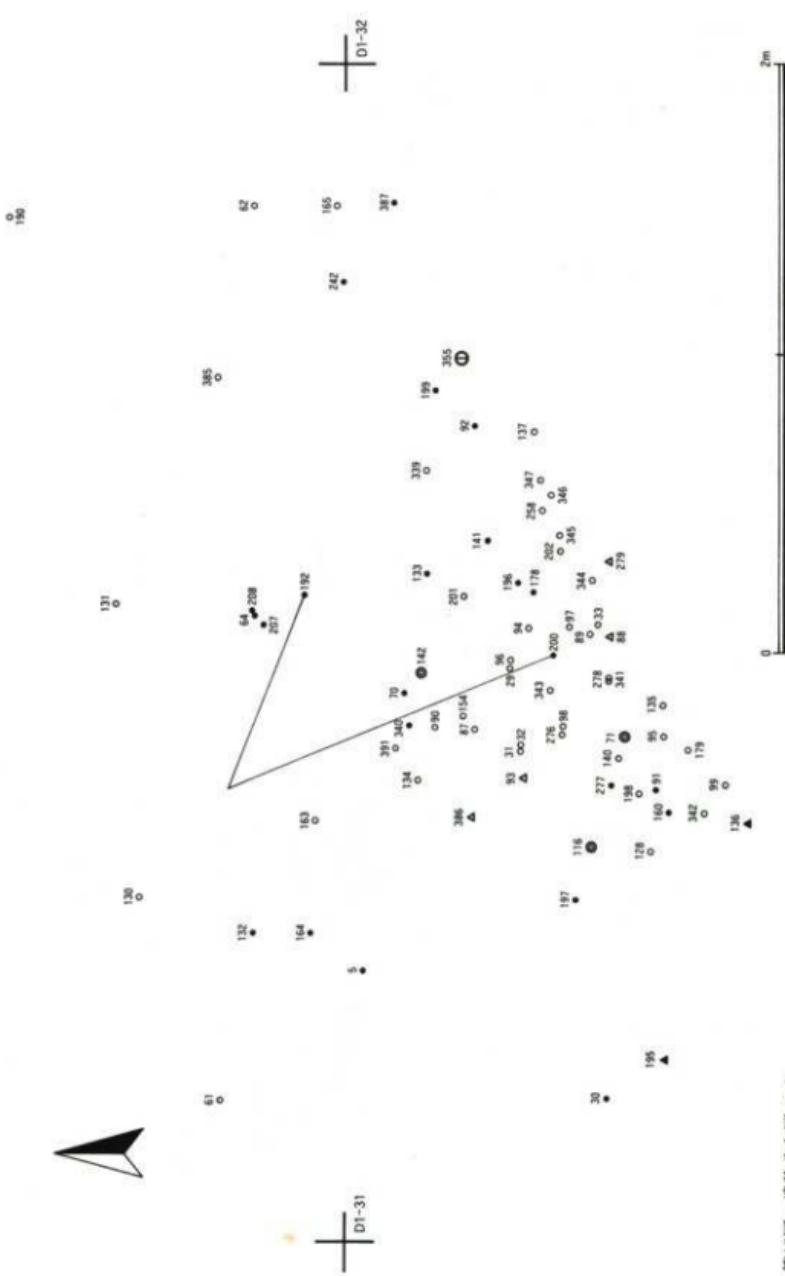




第13図 遺物分布図 5



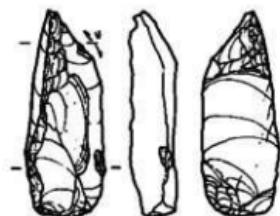
第14図 遺物分布図 6-1



第15圖 遺物分布圖 6-2

ナイフ形石器

流紋岩 2

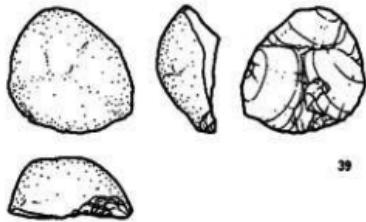


296

0 5mm

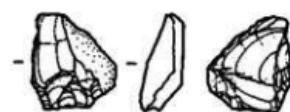
削器

チャート 3



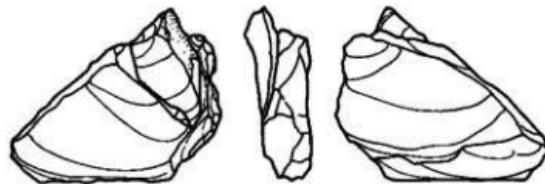
39

チャート 8



101

粘板岩 15



232+220



232

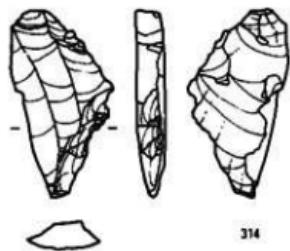


220

第16図 ナイフ形石器・削器

削器

流紋岩 7



流紋岩 14



楔形石器

チャート 3

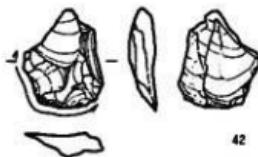


チャート 4

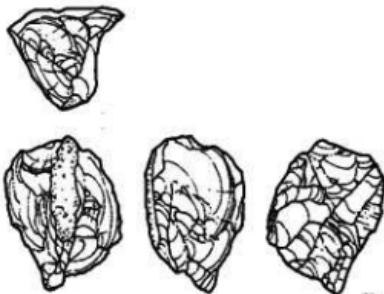
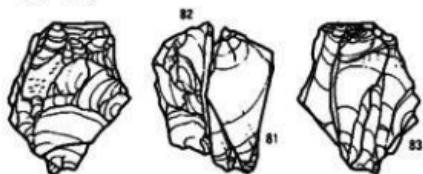
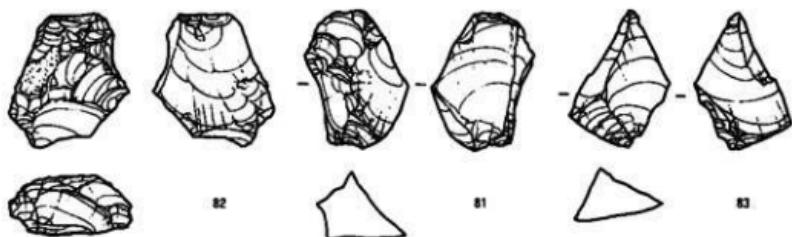


チャート 6



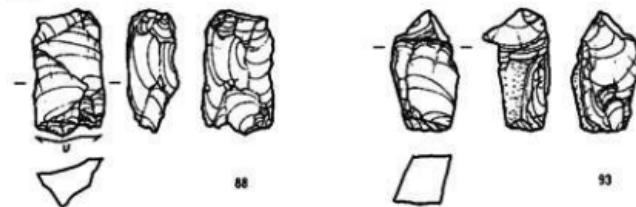
0 5mm

82+81+83

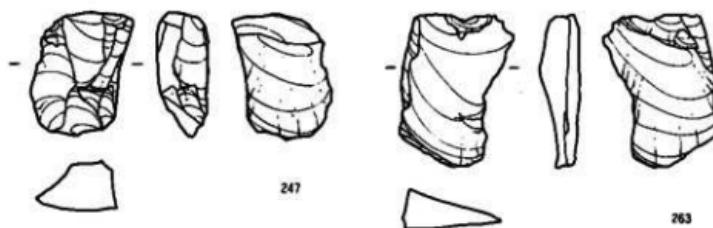


第17図 削器・楔形石器

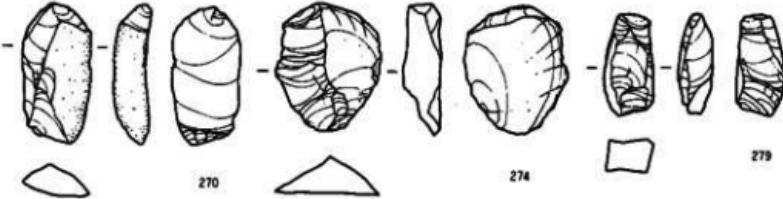
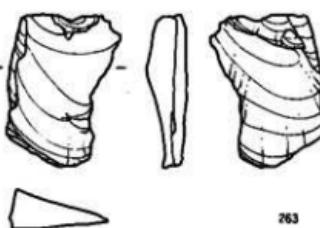
チャート 7



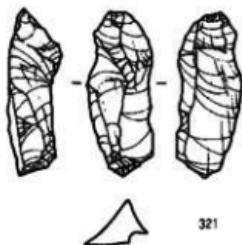
安山岩 1



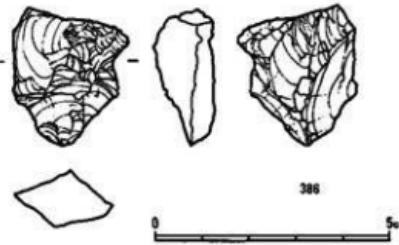
安山岩 4



流紋岩 11



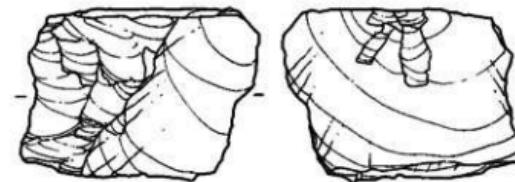
珪化凝灰岩 1



第18図 楔形石器

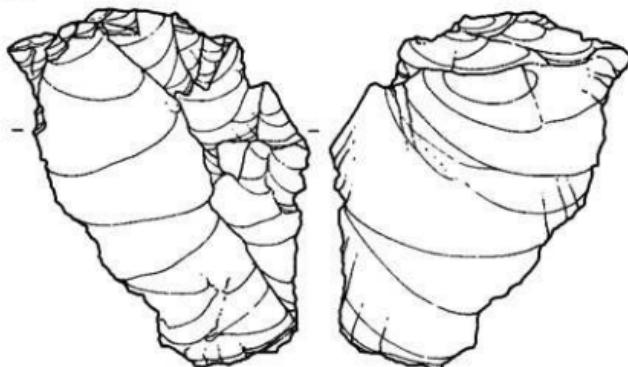
石刀

流紋岩 18



331

流紋岩 19

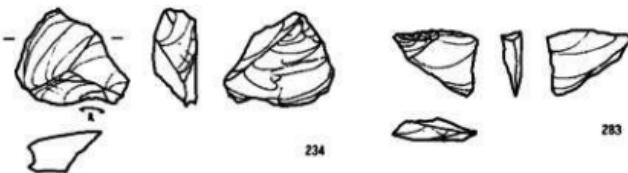


332

二次加工のある剥片

粘板岩 15

安山岩 8



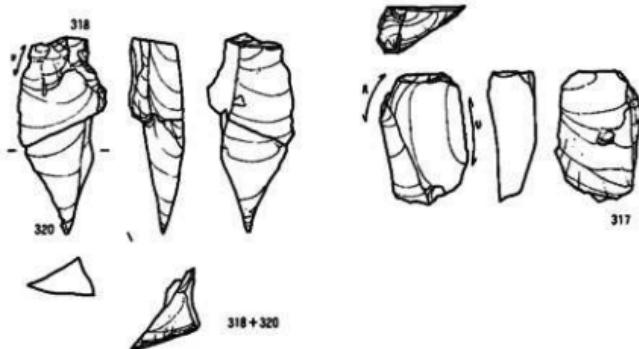
234

233



第19図 石刀・二次加工のある剥片

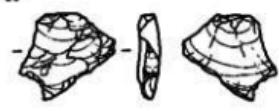
流紋岩 10



第20図 二次加工のある剥片・使用痕のある剥片

二次加工のある剥片

流紋岩 20

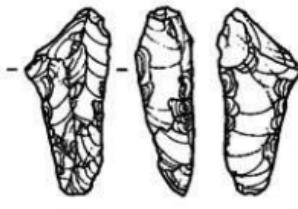


233

メノウ 2



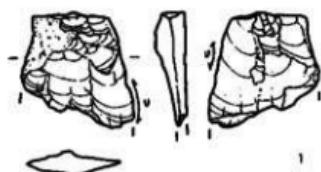
389



390

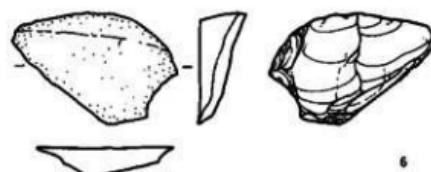
使用痕のある剥片

チャート 1



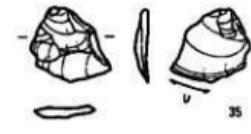
1

チャート 2

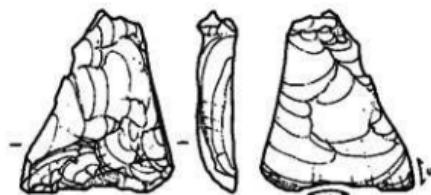


6

チャート 3



35



20



49



第21図 二次加工のある剥片・使用痕のある剥片

チャート 3

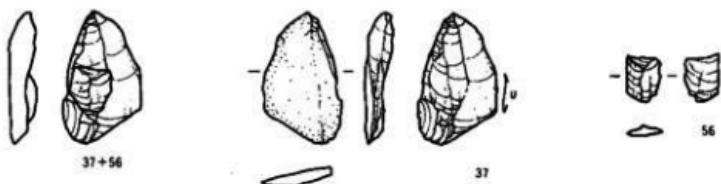
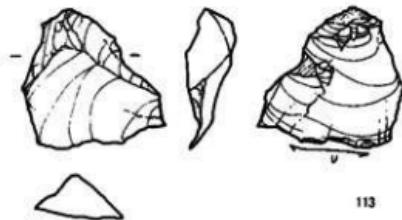
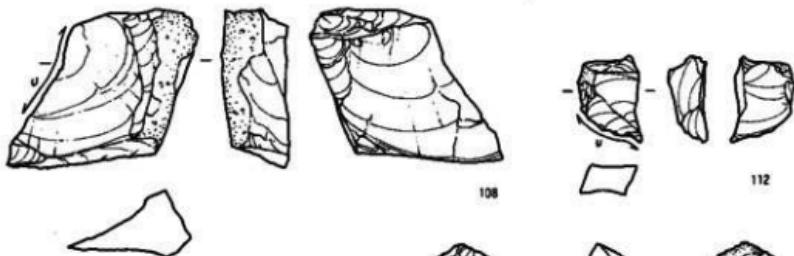
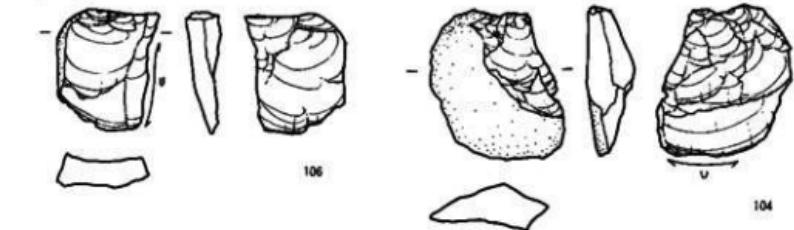


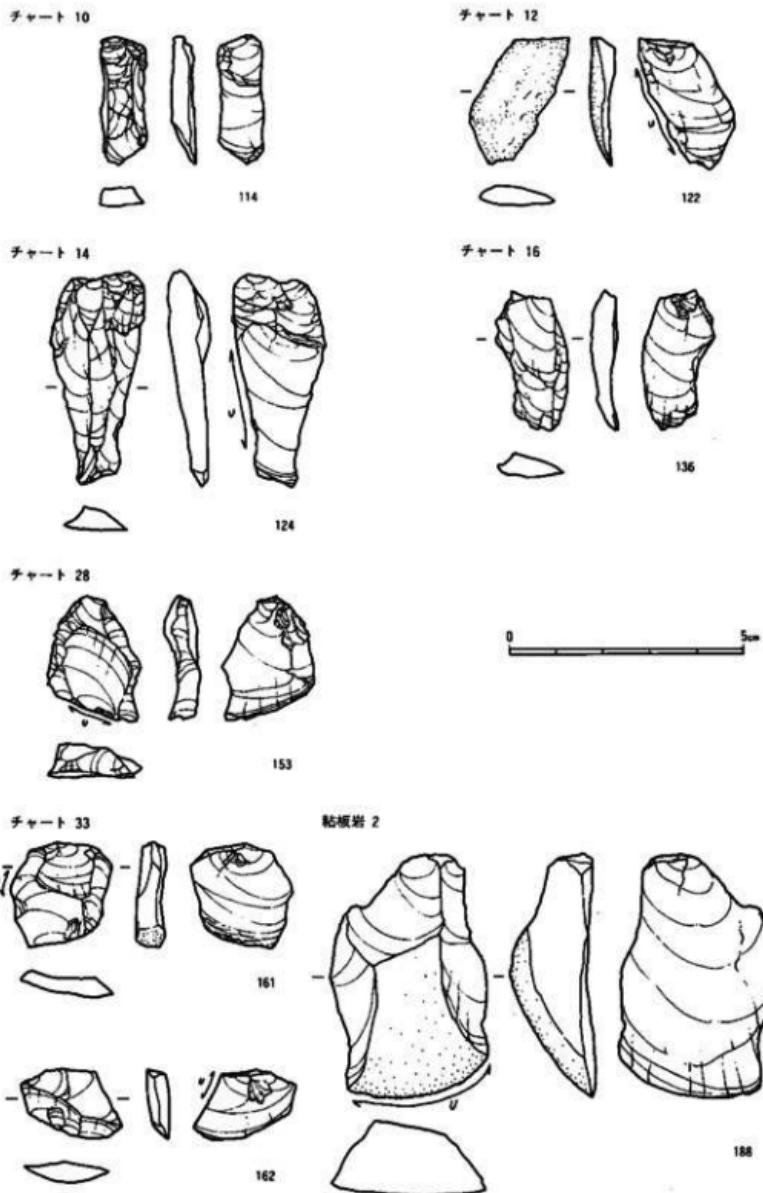
チャート 5



チャート 8

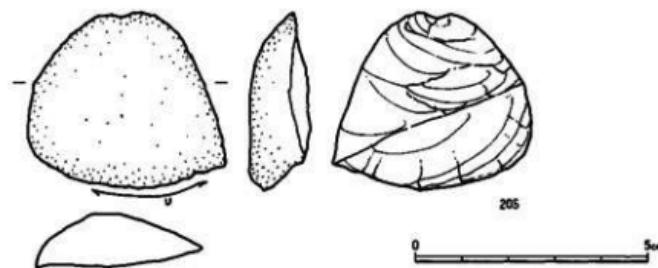


第22図 使用痕のある剥片

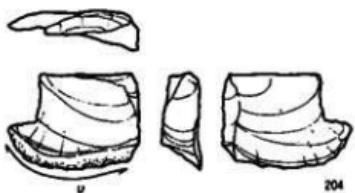


第23図 使用痕のある剥片

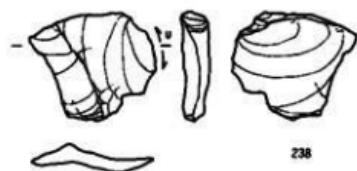
粘板岩 4



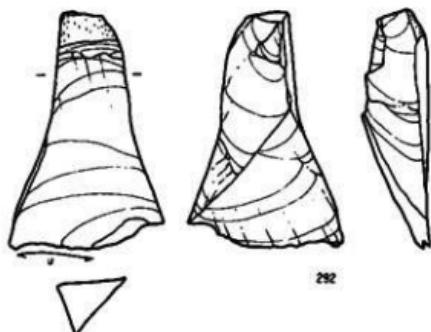
粘板岩 3



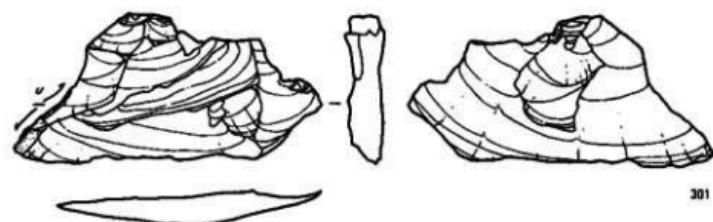
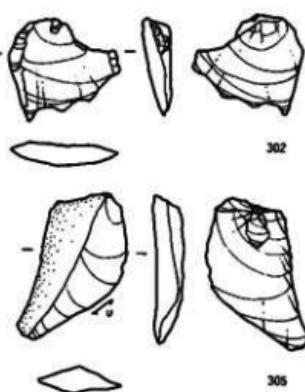
粘板岩 15



流紋岩 1

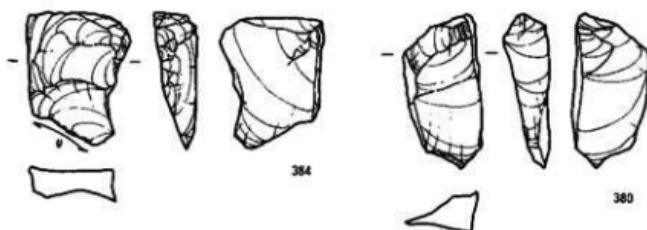


流紋岩 3

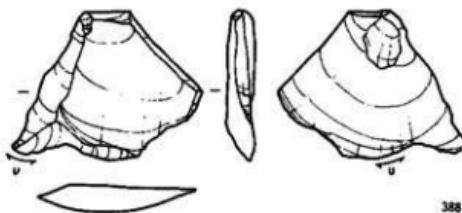


第24図 使用痕のある剥片

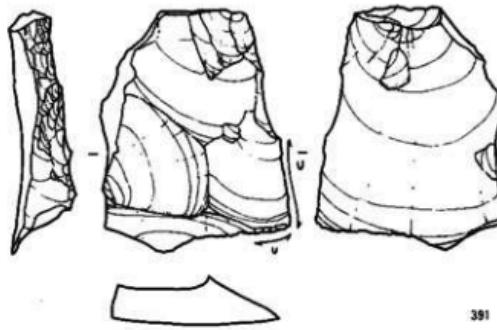
珪質粘板岩 1



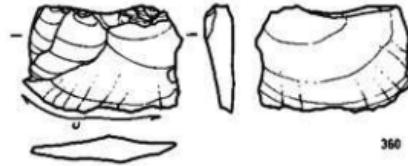
メノウ 1



珪化流紋岩

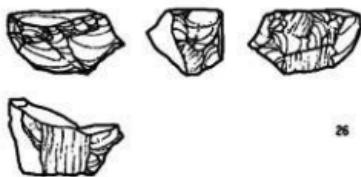


黒色頁岩 1



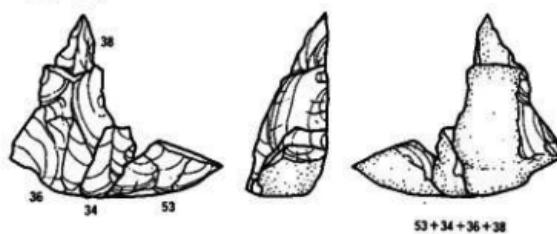
第25図 使用痕のある剥片

チャート 2

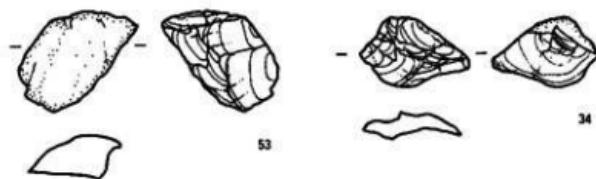


26

チャート 3

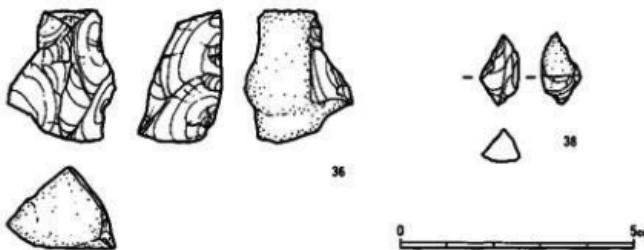


53 + 34 + 36 + 38



53

34



36

36

第26図 石核

チャート 5

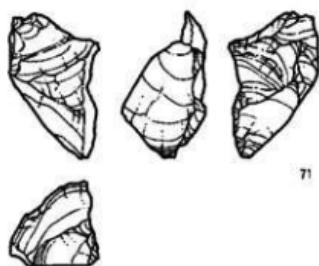


チャート 8

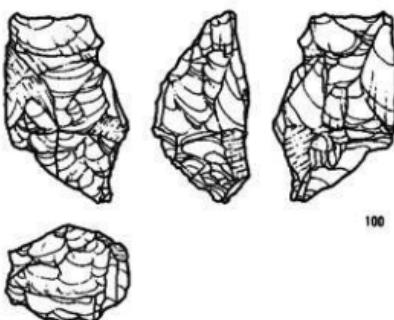


チャート 10

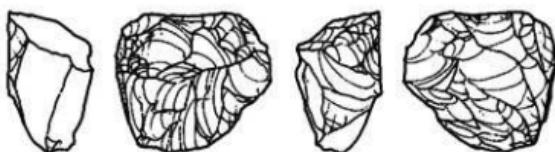


チャート 15

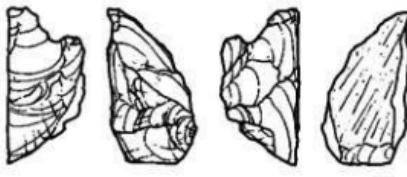
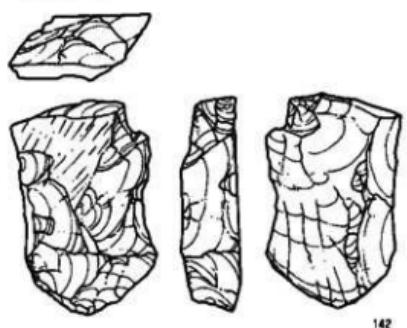
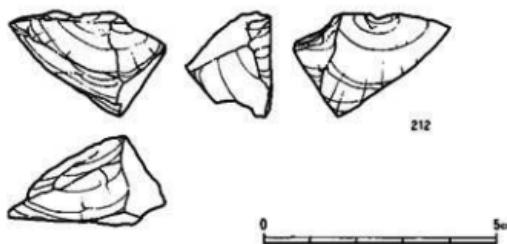


チャート 19



第27図 石核

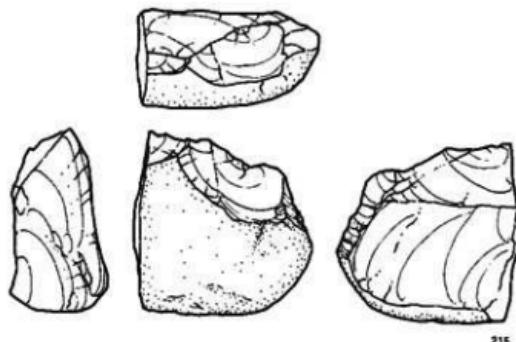
粘板岩 7



212

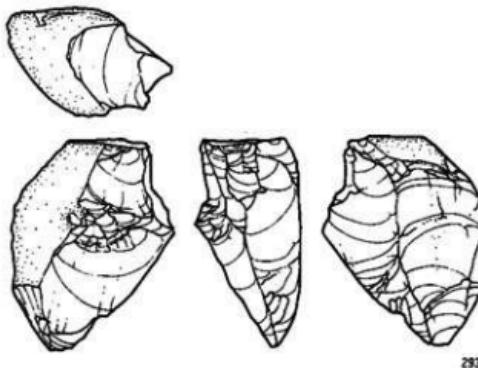
0 5cm

粘板岩 10



215

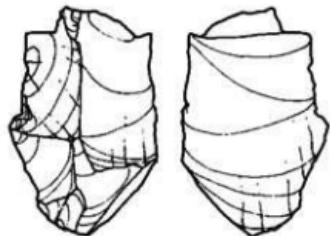
流纹岩 1



293

第28图 石核

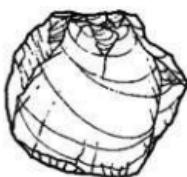
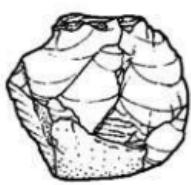
流紋岩 4



308

0 5cm

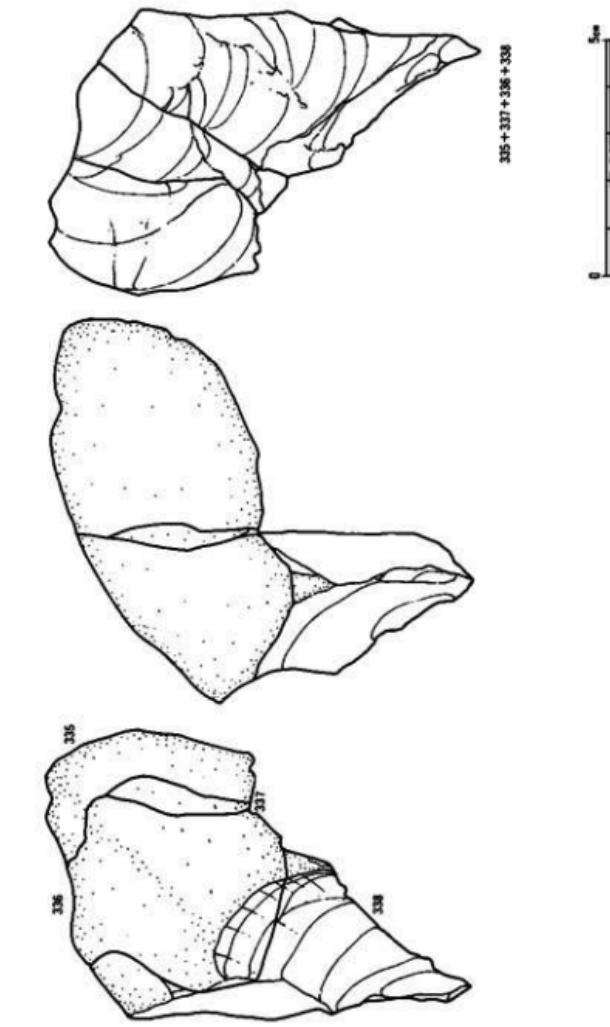
流紋岩 8



315

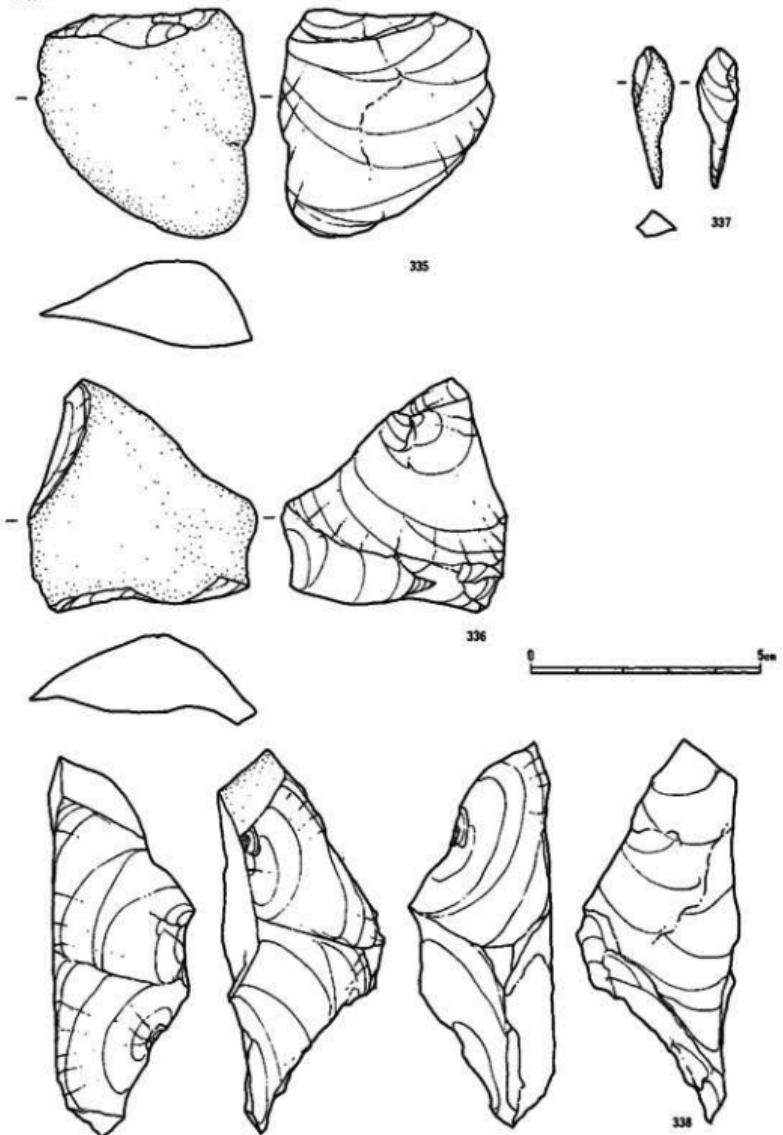
第29圖 石核

第30图 石核（综合资料）



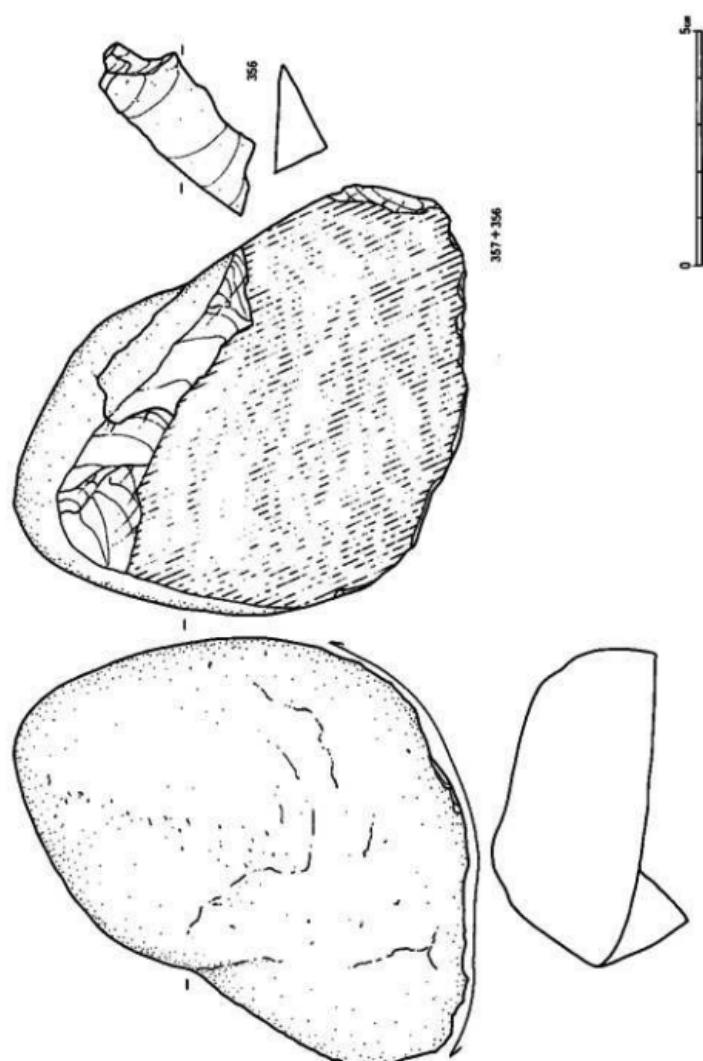
砂岩 1

砂岩 1

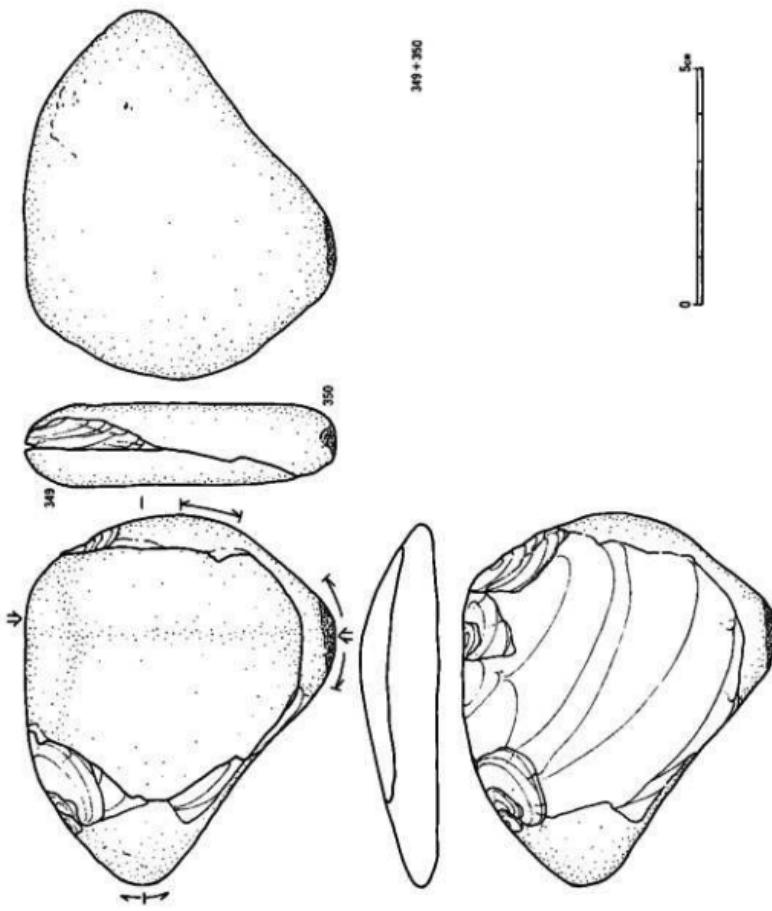


第31図 石核

第32图 打制器



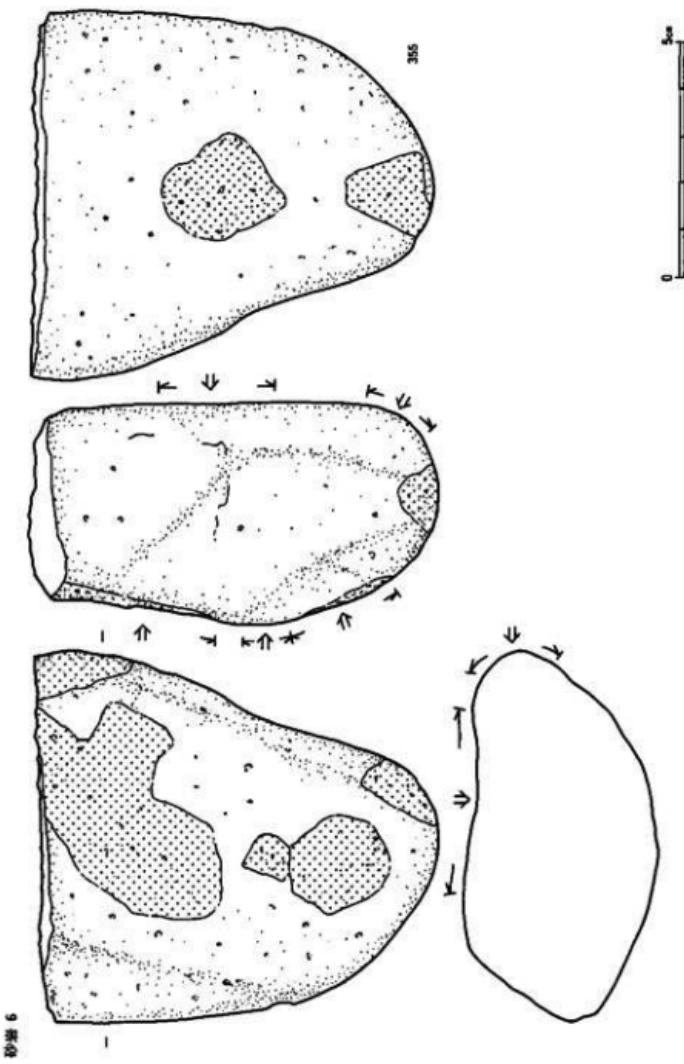
砂量 7



图版 3

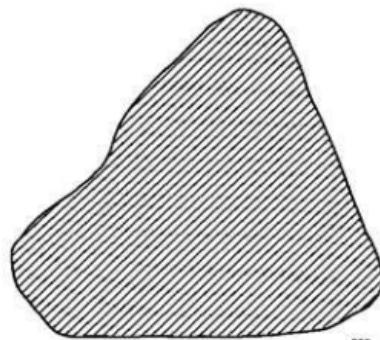
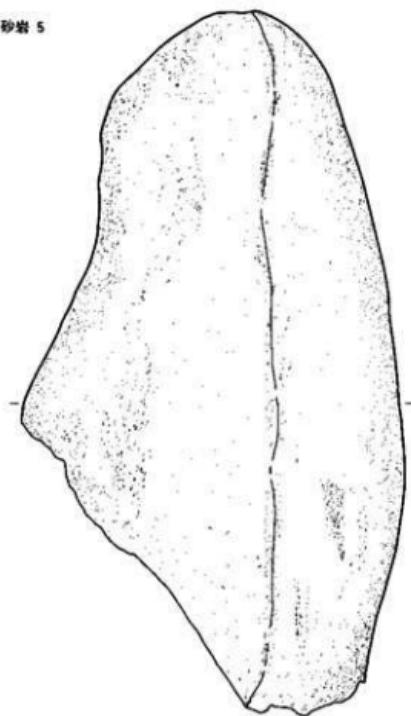
第33页 行列

第34图 石船



砂岩 6

砂岩 5

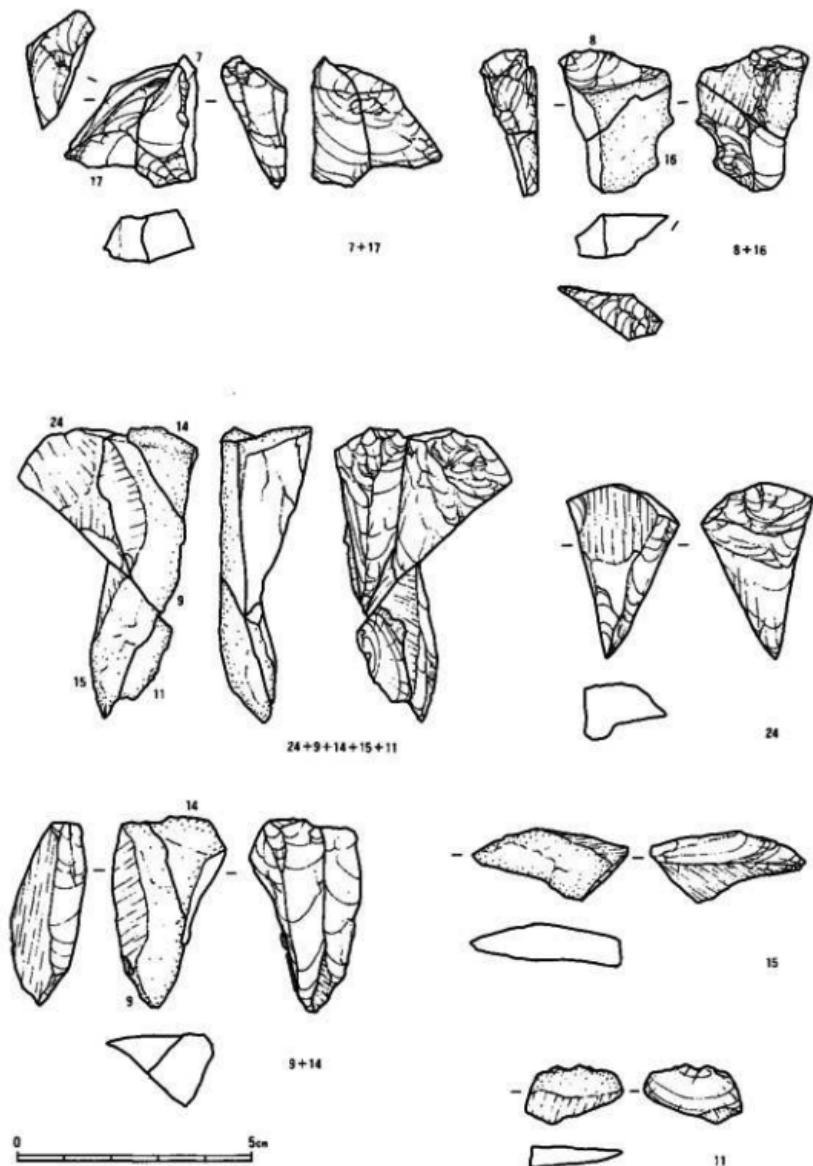


353



第35図 石片

チャート 2



第36図 接合資料 1

チャート 2

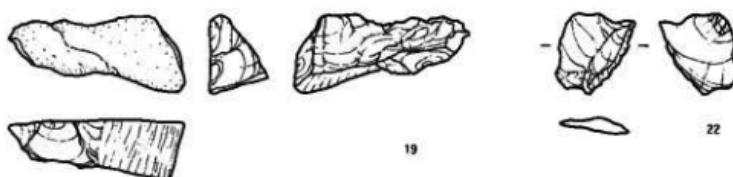
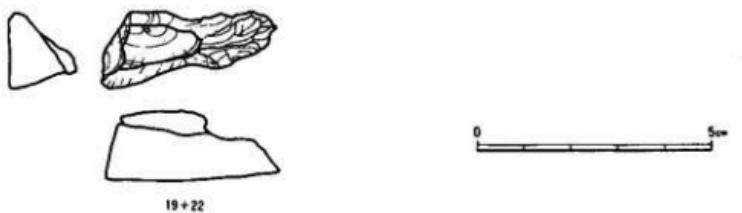
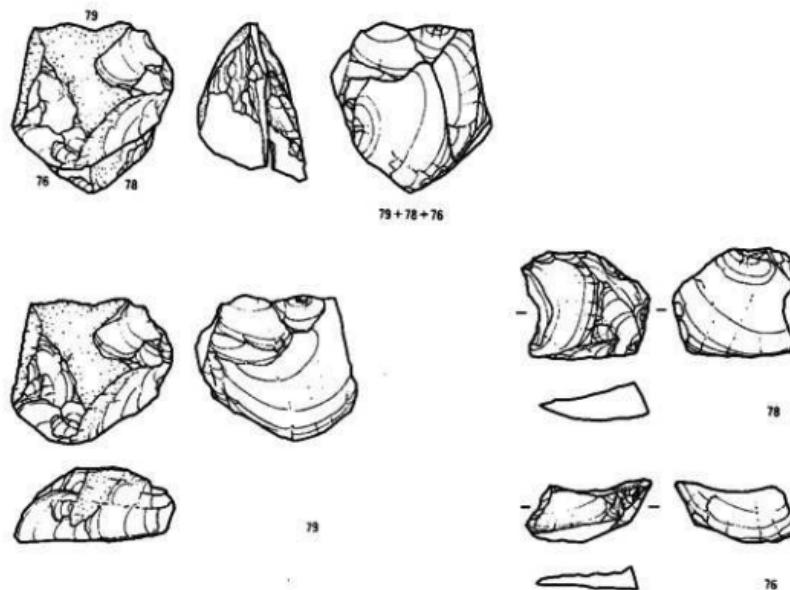
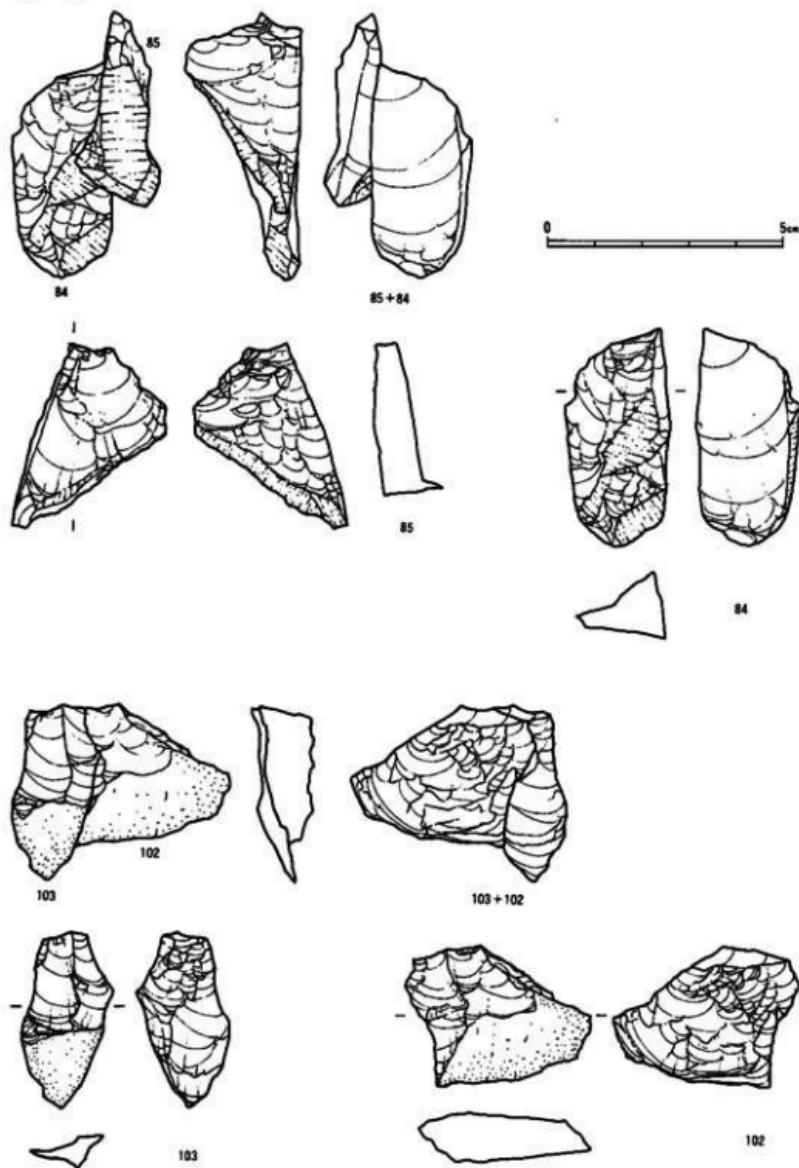


チャート 5



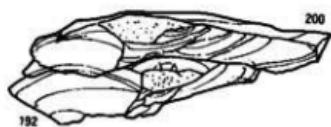
第37図 接合資料 2

チャート 6

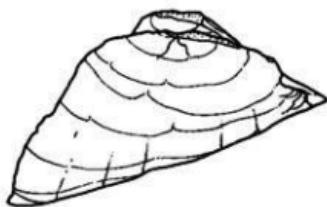
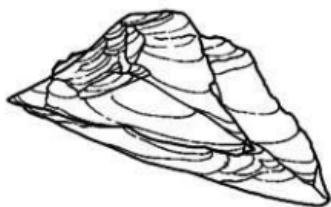


第38図 接合資料 3

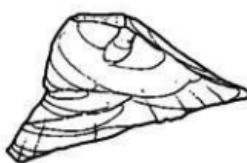
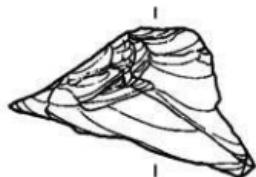
粘板岩 2



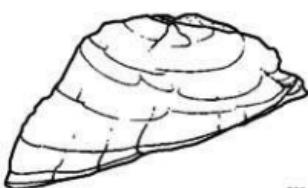
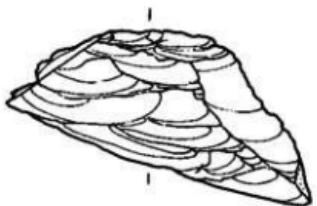
200



192 + 200



192

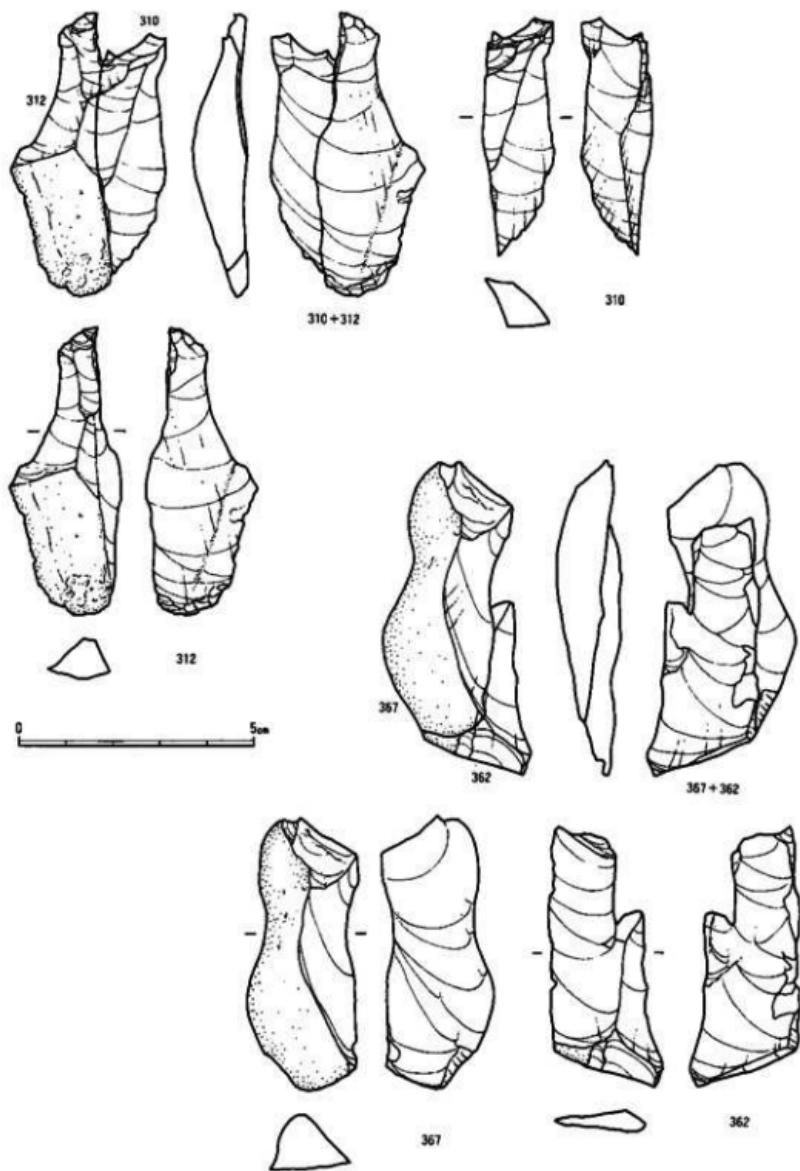


200



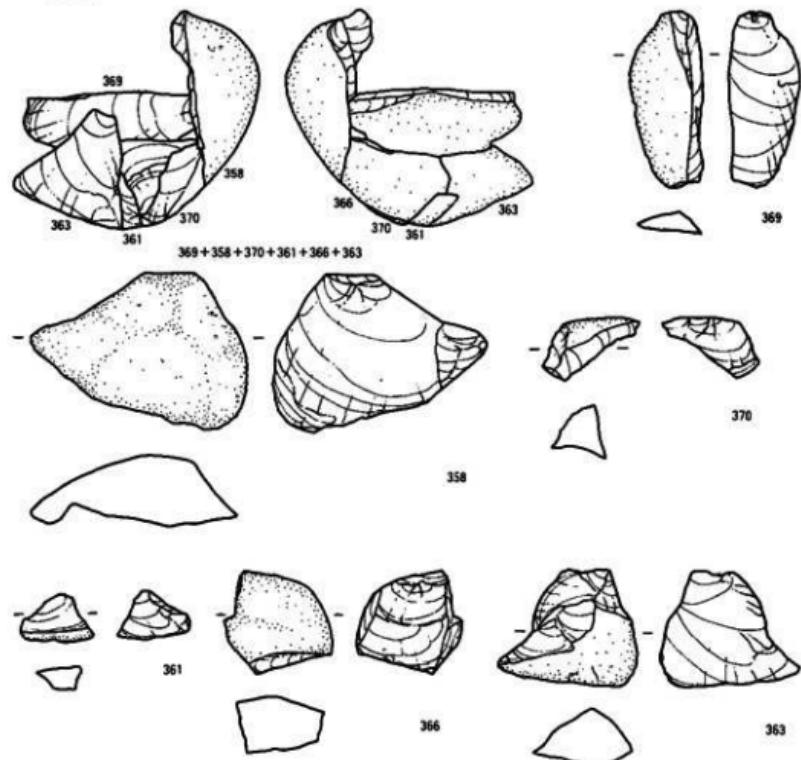
第39図 接合資料 4

流紋岩 5

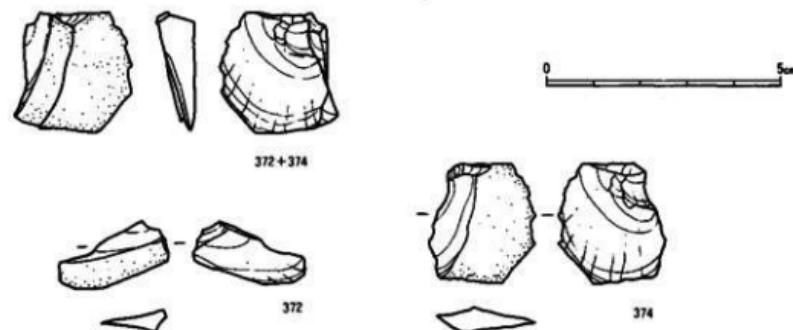


第40図 接合資料 5

黑色頁岩 1



黑色頁岩 3



第41図 接合資料 6

第1表 石器属性表

チャート

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	回	打削	打削 (\square)	打削面×幅×高(mm)	背面構成	末端	邊存	使用痕	保存 番号
1	C1-40-0002	U.F.	24.0×23.7×6.5	2.67	21	I	85	16.5×4.5	I+C	H	完	+	1
2	C1-40-0015	刮片	16.3×21.5×8.2	1.82		I	136	21.0×5.0	I+C	O	完		1
3	C1-41-0003	刮片	29.5×32.4×19.6	11.32		I	65	30.5×14.5	I	F	完		1
4	C1-41-0010	刮片	24.5×26.2×17.2	10.39		C	100	24.0×16.5	II	F	完		1
5	D1-31-0001	刮片	21.5×20.8×12.2	4.36		I	59	17.0×7.5	I+C	S	完		1
6	C1-32-0001	U.F.	35.6×24.5×19.0	5.60	21	C	54	32.0×9.0	C	S	完	+	2
7	C1-32-0002	刮片	29.0×14.5×11.5	4.21	36	I	120	16.0×9.5	I+III	F	R		2
8	C1-32-0008	刮片	28.0×15.0×7.5	2.00	36				I+C	S	B		2
9	C1-32-0014	刮片	39.0×16.0×6.0	3.55	36				C	F	L		2
10	C1-32-0019	刮片	25.0×24.0×8.5	5.38		I	100	12.0×5.0	C	F	完		2
11	C1-32-0024	刮片	21.0×11.5×4.0	1.03	36	L		10.0	C	F	完		2
12	C1-41-0012	刮片	17.5×14.0×4.0	0.73		II	125	10.0×4.0	II	S	完		2
13	C1-42-0003	刮片	8.0×14.5×3.0	0.77					I+F	F	B		2
14	C1-42-0004	刮片	40.0×16.0×14.5	6.55	36	C	74	14.0×16.0	C	F	R		2
15	C1-42-0048	刮片	23.5×14.5×10.0	2.81	36				C	F	B		2
16	C1-42-0051	刮片	22.5×18.5×13.5	4.06	36	II	302	21.0×10.5×3.5	I+C	H			2
17	C1-42-0062	刮片	30.0×13.5×11.0	2.76	36				I+III	F	L		2
18	C1-42-0066	刮片	24.0×24.5×9.5	4.70					F	M			2
19	C1-42-0070	刮片	38.5×15.5×12.5	5.67	37	II	69	38.0×10.5	II+C+F	F	完		2
20	C1-42-0072	U.F.	46.5×32.5×17.5	8.45	21	II	117	10.0×7.0×1.0	I+II	S	完	+	2
21	C1-42-0079	刮片	17.5×12.5×12.5	10.02		I	95	37.0×7.0×1.0	I+II+C	F	完		2
22	C1-42-0088	刮片	14.0×20.5×5.0	0.82	37	L		15.0	I+F	F	完		2
23	C1-42-0092	刮片	17.5×18.5×6.5	1.25		I	120	15.0×5.0	I	F	完		2
24	C1-42-0098	刮片	36.5×24.0×12.0	7.29	36	C	121	11.2×6.0	I+F	F	完		2
25	C1-42-0102	刮片	17.0×9.5×7.5	1.07		I	87	6.0×6.0	I+C	H			2
26	C1-42-0104	石核	24.0×14.5×13.5	5.40	26								2
27	C1-43-0011	刮片	15.5×8.5×6.5	0.94									2
28	D1-30-0007	刮片	15.5×11.0×8.0	0.97									2
29	D1-31-0008	刮片	4.0×4.0×1.0	0.02									2
30	D1-31-0016	刮片	42.0×40.5×11.5	17.96		II	113	31.5×8.5×5.0	F	S	完		2
31	D1-31-0029	刮片	7.5×4.0×2.0	0.03									2
32	D1-31-0029	刮片	5.0×3.5×1.0	0.01									2
33	D1-31-0050	刮片	8.5×7.5×2.5	0.14									2
34	C1-22-0002	刮片	22.5×15.5×7.5	1.72	26	C	99	22.5×8.0×7.0	I	F	完	+	3
35	C1-23-0014	U.F.	18.0×13.5×2.0	0.45	21	L		4.0	I	F	完	+	3
36	C1-23-0018	石核	18.5×31.5×17.5	9.11	26								3
37	C1-23-0019	U.F.	27.0×16.5×5.5	2.05	22	P			I	H	+		3
38	C1-23-0020	刮片	14.5×7.5×7.5	0.61	26								3
39	C1-23-0023	刮器	25.0×28.5×13.5	8.45	16								3
40	C1-23-0024	刮片	18.5×12.5×4.0	0.64					C	S	B		3

41	C1-32-0007	制片	16.5×9.0×2.5	0.36	I	116	6.0×2.0	I	F	完		3
42	C1-32-0011	楔形石器	20.5×18.0×5.0	1.46	17					完	+	3
43	C1-32-0012	刮片	13.0×10.5×5.5	0.41								3
44	C1-32-0013	刮片	15.5×13.0×8.5	1.30	I	110	5.0×3.5	I+II	F	完		3
45	C1-32-0015	刮片	25.0×10.0×11.0	1.96	不明				不明	F	完	3
46	C1-32-0017	刮片	16.0×14.5×2.5	0.59	L		11.0	I+C	S	完		3
47	C1-32-0020	刮片	19.5×10.0×4.5	0.71								3
48	C1-32-0022	刮片	19.0×16.0×5.5	1.76	I	110	11.0×5.0×1.0	I+C	S	完		3
49	C1-42-0001	U.F.	22.0×15.5×8.0	1.84	21			I	F	B	+	3
50	C1-42-0083	刮片	15.0×8.5×1.0	0.14								3
51	C1-42-0084	刮片	9.0×14.5×4.5	0.42								3
52	C1-42-0086	刮片	10.5×18.5×2.5	0.39	I	92	15.0×2.0					3
53	C1-42-0090	刮片	27.0×18.0×12.0	4.87	26	不明			不明	不明	破片	3
54	C1-42-0091	刮片	20.0×14.0×8.5	2.00	II	105	8.0×4.0	I	S	L		3
55	C1-42-0097	刮片	17.5×9.0×1.5	0.14								3
56	C1-42-0101	刮片	9.0×7.0×2.5	0.15	22							3
57	C1-42-0110	刮片	9.0×8.5×2.0	0.09								3
58	C1-43-0009	刮片	25.5×20.5×9.0	3.42				C	F	B		3
59	D1-10-0002	刮片	20.5×15.0×3.0	0.90	I	93	16.5×2.0	I+C	F	完		4
60	D1-10-0010	刮片	31.5×23.0×8.0	5.57				I+II+C	不明	B		4
61	D1-21-0004	刮片	29.5×13.5×8.5	1.52								4
62	D1-21-0007	刮片	10.5×11.0×3.0	0.35								4
63	D1-21-0010	楔形石器	31.5×23.0×20.5	12.93	17					完		4
64	D1-21-0013	刮片	40.0×30.0×25.5	11.37	C	74	21.0×8.0	I+F	F	完		4
65	D1-10-0003	刮片	20.5×15.5×4.5	0.86	I	98	14.0×3.0×-1.0	I		H		5
66	D1-10-0011	U.F.	24.5×18.0×7.5	3.04	22	I	119	10.5×8.0	I+II	H	+	5
67	D1-11-0004	刮片	11.5×20.5×6.0	1.09	I	113	10.5×6.5	I	F	完		5
68	D1-11-0010	刮片	15.5×14.5×3.5	0.50	P			I+II	F	完		5
69	D1-11-0016	刮片	19.0×15.0×5.0	1.02	I	118	10.5×4.0	I	S	完		5
70	D1-31-0009	刮片	15.5×11.0×4.0	0.51	L		4.5	I+III+F	F	完		5
71	D1-31-0032	石核	33.5×36.5×19.5	7.04	27					完		5
72	C1-34-0002	刮片	63.0×26.5×11.5	22.66	II	116	19.0×7.0×-1.0	I+II+F+C	F	完		6
73	C1-41-0001	刮片	11.5×9.5×2.5	0.21								6
74	C1-41-0002	刮片	10.0×7.0×3.0	0.16								6
75	C1-41-0013	刮片	9.5×4.5×2.5	0.09								6
76	C1-41-0014	刮片	27.5×12.5×5.5	1.40	37			I+II	F	B		6
77	C2-01-0004	刮片	21.0×14.5×3.5	0.82	L		16.0	III	F	完		6
78	C2-01-0005	刮片	28.0×23.5×7.5	4.54	37	I	106	13.0×7.0	I+II	H		6
79	C2-01-0006	刮片	32.5×37.0×15.0	17.28	37	II	121	19.0×7.0×1.5	I+II+F+C	F	完	6
80	C2-02-0005	刮片	13.5×14.0×7.0	0.95								6
81	C2-02-0006	楔形石器	29.0×22.5×14.5	5.82	17					完		6
82	C2-02-0007	刮片	27.5×25.0×13.0	8.15	17	L		7.0	I+III+C	F	完	6
83	C2-02-0008	刮片	28.0×19.0×10.5	3.58	17	P			I+III	O	完	6
84	D1-40-0001	刮片	43.0×21.5×14.0	11.75	38			I+F	F	B		6

85	DI-40-0002	制片	42.0×25.0×18.5	10.85	38	不明			I + F		H		6
86	C1-33-0003	制片	22.5×9.0×9.5	1.37	L		8.0		I + II	F	完		7
87	DI-33-0005	制片	18.5×10.0×8.0	1.45							完	+	7
88	DI-31-0006	楔形石器	26.0×15.5×11.0	3.93	18								7
89	DI-31-0007	制片	24.5×10.5×9.0	1.06									7
90	DI-31-0019	制片	12.5×7.0×3.0	0.23									7
91	DI-31-0022	制片	27.0×14.0×5.5	1.68	C	42	27.0×7.0	I		F	完		7
92	DI-31-0026	制片	15.0×14.5×6.5	0.95	P				I + III	S	完		7
93	DI-31-0027	楔形石器	26.0×14.5×14.0	4.48	18						完		7
94	DI-31-0035	制片	17.5×11.5×2.5	0.39									7
95	DI-31-0039	制片	21.0×12.5×6.5	1.40									7
96	DI-31-0041	制片	9.0×3.5×2.5	0.02									7
97	DI-31-0042	制片	7.5×6.5×2.5	0.07									7
98	DI-31-0048	制片	17.0×9.0×2.0	0.25									7
99	DI-31-0057	制片	12.5×9.0×1.0	0.13									7
100	C1-34-0018	石核	45.0×27.5×21.5	19.57	27						完		8
101	C1-40-0003	制器	22.5×17.5×8.5	2.70	16						完		8
102	C1-40-0014	制片	40.5×29.5×11.5	11.89	38	I	114	21.1×1.1	I + C	S	完		8
103	C1-41-0011	制片	36.5×19.5×8.5	3.07	38	I	115	12.6×4.1	I + C	F	完		8
104	C1-42-0006	U.F.	30.5×26.0×9.0	6.38	22	C	115	16.5×5.0	I + C	F	完	+	8
105	C1-42-0056	制片	18.5×13.5×6.0	1.43									8
106	C1-42-0067	U.F.	25.0×21.0×7.5	3.15	22	C	97	19.0×4.0	I	S	完	+	8
107	C1-42-0073	制片	18.5×17.0×11.0	1.78									8
108	C1-43-0001	U.F.	32.0×38.5×14.0	15.58	22	I	119	27.1×30.0	I + F + C	S	完	+	8
109	DI-01-0001	制片	21.0×15.0×5.5	1.46									8
110	DI-11-0017	制片	19.0×19.0×4.5	1.81	L		3.4		I + C	S	完		8
111	C1-41-0016	制片	11.0×15.0×3.0	0.40					I + C	F	B		9
112	C1-42-0109	U.F.	17.0×12.5×8.0	1.86	22	L		19.0	I + II + F		完	+	9
113	C1-44-0002	U.F.	29.0×32.5×9.0	5.86	22	C	100	14.0×5.0	I + II	S	完	+	9
114	C1-43-0005	U.F.	26.5×10.5×4.0	1.37	23	L		10.5	I + II	F	完	+	10
115	C2-01-0007	制片	9.5×24.5×4.0	1.05						C			10
116	DI-31-0017	石核	24.5×30.0×18.5	19.22	27						完		10
117	C1-34-0011	制片	14.0×14.0×8.0	1.42	L		7.0		I + C		H		11
118	C1-42-0043	制片	37.5×27.5×16.5	13.15	I	101	12.2×7.7	I + F	S	完			11
119	C1-43-0002	制片	20.0×21.5×7.5	2.23	I	127	13.5×5.0	I	S	完			11
120	C1-32-0010	制片	28.0×34.0×11.5	12.46	I	125	30.9×10.0	H + C	S	完			12
121	C1-33-0002	制片	25.5×15.5×5.0	1.51	L		8.0	I + F	S	完			12
122	C1-33-0004	U.F.	26.0×18.5×5.0	2.24	23	I	105	12.0×5.0	C	F	完	+	12
123	B2-33-0001	制片	21.5×18.5×9.0	6.02	不明				不明	不明	破片		13
124	C1-41-0004	U.F.	43.5×21.0×8.5	5.73	23	I	137	21.5×13.0	I	F	完	+	14
125	C1-41-0006	制片	17.0×10.5×2.5	0.41									14
126	C1-41-0007	制片	6.5×10.5×2.5	0.20									14
127	C1-41-0009	制片	16.0×21.0×4.5	1.38	I	127	6.5×4.0	I + C	S	完			14
128	DI-31-0003	制片	4.5×5.0×3.5	0.24									14

129	D1-11-0018	石核 刮片	28.5×28.5×15.0 11.0×5.5×2.0	8.54 0.14	27					完	15		
130	D1-21-0002										15		
131	D1-21-0012	刮片	10.5×3.0×9.0	0.23		106	5.0×3.0				15		
132	D1-21-0014	刮片	15.0×18.5×0.2	0.69				1	S	完	16		
133	D1-31-0013	刮片	18.0×14.0×1.5	0.32	L		13.5	1	S	完	16		
134	D1-31-0014	刮片	9.5×17.0×3.0	0.47							16		
135	D1-31-0049	刮片	8.5×18.5×1.0	0.10							16		
136	D1-31-0055	U.F.	28.0×14.5×4.0	1.62	23	L	7.7	1	F	完	+	16	
137	D1-31-0059	刮片	6.5×15.5×3.0	0.33								16	
138	C1-41-0005	刮片	14.5×16.5×3.5	0.74	1	100	7.5×3.0	I+C	S	完		17	
139	C1-42-0105	刮片	13.0×16.5×3.5	0.82	1			I+B+F	S	完		17	
140	D1-31-0038	刮片	12.0×18.0×5.5	0.49								17	
141	D1-31-0034	刮片	42.0×27.5×11.5	13.88	C	78	21.0×11.5	I+C	F	完		18	
142	D1-31-0020	石核	30.0×44.0×11.5	18.49	27					完		19	
143	C1-34-0021	刮片	38.0×18.5×12.0	6.44				F+C	M			20	
144	C1-34-0020	刮片	14.0×9.5×0.8	0.86								21	
145	C1-34-0005	刮片	28.0×34.5×7.5	10.72	I	99	12.0×3.0	I+F	S	完		22	
146	C1-34-0022	刮片	22.0×32.0×14.5	4.37	C	77	15.0×9.0	I+F	H			22	
147	D1-30-0002	刮片	32.5×27.5×15.0	9.30	(II)	66	21.5×12.5	I+F	H			23	
148	C1-34-0025	刮片	19.5×6.0×5.5	1.12	I	106	5.0×4.0	I+F	H			24	
149	C1-24-0005	刮片	27.0×14.5×7.5	3.28	I	136	6.0×4.0	I+III	F	完		25	
150	C1-43-0007	刮片	12.0×11.0×2.5	0.24								26	
151	C1-03-0007	刮片	14.8×15.5×4.5	0.72	I	118	11.5×4.5	I	S	完		27	
152	C1-24-0003	刮片	7.5×5.5×3.0	0.10								27	
153	D1-20-0001	U.F.	23.0×20.5×6.5	2.75	23	I	77	11.0×4.0	III+C	O	完	+	28
154	D1-31-0024	刮片	15.5×14.0×4.0	0.97									29
155	D1-10-0009	刮片	38.5×27.5×13.5	15.14	不明			不明	不明	刮片			30
156	D1-11-0008	刮片	16.5×12.5×9.5	1.92									30
157	D1-11-0009	刮片	23.0×19.0×18.5	2.00									30
158	D1-11-0013	刮片	18.5×11.0×5.5	0.60									30
159	C1-30-0002	刮片	13.5×7.5×2.0	0.24									31
160	D1-31-0018	刮片	41.5×18.0×8.0	6.42	不明			不明	O	完			32
161	D1-11-0002	U.F.	23.0×21.0×6.0	2.45	23	II	92	18.0×3.0×1.0	I+III	O	完	+	33
162	D1-11-0006	U.F.	14.0×23.0×4.5	1.20	23	II	130	11.0×4.0	I+III	S	完	+	33
163	D1-21-0003	刮片	15.0×12.5×2.5	0.24									33
164	D1-21-0005	刮片	22.5×13.5×4.5	1.24	L		3.5	I+III	F	完			33
165	D1-21-0006	刮片	9.5×6.5×2.5	0.13									33

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	回	打開	打角(°)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用痕	個體 編號
166	C1-32-0021	削片	16.5×8.3×4.1	0.53					I + II	F	完		1
167	C1-34-0003	削片	26.1×17.4×8.5	3.19	I	101	8.0×6.0	I + II	F	完			1
168	C1-34-0007	削片	17.8×7.2×3.1	0.51	I	88	7.0×2.0	I	F	完			1
169	C1-34-0014	削片	9.0×18.6×5.0	0.99						M			1
170	C1-34-0015	削片	13.4×14.2×4.4	0.74					C				1
171	C1-34-0024	削片	8.8×14.2×5.0	0.58	I	129	7.0×3.5	I	F	完			1
172	C1-34-0026	削片	12.5×8.4×4.0	0.35									1
173	C1-42-0086	削片	4.0×10.0×2.5	0.08									1
174	C1-42-0093	削片	7.5×12.0×1.7	0.20									1
175	C1-42-0112	削片	5.5×8.0×3.5	0.53	不明				不明	不明	破片		1
176	D1-10-0007	削片	19.3×9.2×4.2	1.64	I	91	7.0×3.0	C	F	完			1
177	D1-30-0006	削片	17.0×36.0×12.0	3.66	II	64	33.0×10.0×2.0	I + II + III	F	完			1
178	D1-31-0030	削片	12.2×21.1×5.5	1.04									1
179	D1-31-0047	削片	9.0×3.0×2.0	0.06									1
180	C1-34-0008	削片	35.5×38.5×13.0	10.77	C	105	26.1×12.6	I	F	完			2
181	C1-40-0009	削片	28.0×41.8×6.5	8.93	I	100	31.5×5.5	I + C	H				2
182	C1-41-0019	削片	15.0×13.3×3.0	0.43									2
183	C1-41-0022	削片	21.5×27.2×3.5	2.13	I	115	13.5×3.0	I	S	完			2
184	C1-44-0003	削片	37.5×26.0×12.5	11.3	II	129	26.0×12.0	I + C	F	完			2
185	C2-00-0004	削片	19.0×33.6×8.0	4.86	I	101	9.0×5.5	I	H				2
186	D1-10-0005	削片	11.0×18.6×1.0	0.11									2
187	D1-11-0005	削片	58.5×48.5×17.0	44.53	I	105	29.0×6.0	C	F	完			2
188	D1-20-0002	U.P.	51.8×33.3×16.8	23.98	23	I	88	12.5×6.5	I + C	F	完	+	2
189	D1-21-0001	削片	16.4×12.5×3.6	0.64	I	110	8.5×3.0	I + C	F	完			2
190	D1-21-0009	削片	7.5×10.0×2.0	0.15									2
191	D1-21-0016	削片	16.2×20.0×9.0	2.91	I	91	17.0×8.5	C	F	完			2
192	D1-21-0019	削片	31.5×51.0×13.1	11.20	39	I	115	41.8×9.7	I + II	O	完		2
193	D1-30-0008	削片	13.0×28.6×4.0	1.73	I	107	22.1×2.0	I	F	完			2
194	D1-30-0009	削片	17.4×21.2×4.0	1.23	II	100	14.0×3.5×1.0	I	S	完			2
195	D1-31-0002	削片	11.5×14.0×1.8	0.27					C	F	B		2
196	D1-31-0010	削片	17.0×19.0×4.5	1.26	I		13.0×3.0	I	F	完			2
197	D1-31-0012	削片	21.5×48.2×10.5	9.10	L		13.5	I	S	完			2
198	D1-31-0028	削片	5.0×11.8×2.6	0.15									2
199	D1-31-0031	削片	20.2×9.0×9.2	1.73	不明				不明	不明	破片		2
200	D1-31-0033	削片	36.5×6.8×13.5	20.06	39	I	115	28.4×9.2	I	O	完		2
201	D1-31-0043	削片	14.0×8.8×3.0	0.34						F	B		2
202	D1-31-0044	削片	8.5×11.3×1.1	0.16									2
203	C1-42-0041	削片	37.8×26.3×12.2	13.05	I	114	18.0×10.0	I + C	H				3
204	C2-01-0001	U.P.	28.0×19.3×6.2	3.48	24	I	119	18.0×6.5	I + C	F	完	+	3
205	C1-44-0001	U.P.	43.5×30.0×12.5	38.85	24	L		43.0	C	S	完	+	4
206	C1-44-0004	削片	19.4×8.8×4.4	0.73									5

207	D1-21-0017	刮片	24.5×30.0×6.3	3.77	(II)	94	27.0×6.0×-3.0	I	S	完	6	
208	D1-21-0018	刮片	36.0×34.5×8.3	7.59	I	95	13.0×4.0	I+C	F	完	6	
209	D1-11-0001	刮片	30.0×30.8×10.7	9.36	II	95	18.5×6.0×3.0	I+C	F	完	7	
210	D1-11-0003	刮片	20.2×11.2×4.3	0.95							7	
211	D1-11-0007	刮片	32.0×22.3×7.0	5.28	I	113	22.0×7.0×1.0	I+C	S	完	7	
212	D1-11-0012	石核	31.0×20.0×17.5	9.05	26				S	完	7	
213	D1-21-0013	刮片	21.8×24.5×7.3	3.33				II+C	F	B	8	
214	D1-30-0003	刮片	24.3×9.5×4.3	0.93							9	
215	C1-34-0017	石核	38.1×36.5×19.0	33.95	28					完	10	
216	C1-34-0026	刮片	29.0×32.5×10.2	8.71	I+C	91	22.0×9.0×-1.0	I+II	F	完	11	
217	C1-40-0006	刮片	45.0×41.4×14.0	20.26	I	120	13.0×7.0	I+C	F	完	12	
218	C1-41-0015	刮片	29.5×21.3×6.0	3.08				C	F	L	13	
219	C1-40-0016	刮片	31.5×49.2×12.5	17.19	I+C	130	44.0×8.0×2.0	I+C	H		14	
220	C1-40-0007	刮器	48.0×30.0×10.0	15.19	16						15	
221	C1-40-0008	刮片	16.8×13.7×3.6	0.90	不明			不明		破片	15	
222	C1-40-0012	刮片	11.5×7.0×2.0	0.17							15	
223	C1-40-0013	刮片	15.3×28.0×4.0	1.87				I	F	B	15	
224	C1-40-0017	刮片	16.7×14.0×2.5	0.43							15	
225	C1-41-0021	刮片	12.0×14.0×2.5	0.47							15	
226	C2-00-0001	刮片	11.5×13.0×2.5	0.43							15	
227	C2-00-0002	刮片	17.6×17.7×4.0	1.02	不明			不明		破片	15	
228	C2-00-0003	刮片	12.0×18.6×3.5	0.96	不明			不明		破片	15	
229	C2-00-0005	刮片	8.0×13.5×5.0	0.41	不明			不明		破片	15	
230	C2-00-0005	刮片	7.5×12.0×4.5	0.40							15	
231	C2-01-0003	刮片	15.5×18.7×5.5	1.97				I	F	B	15	
232	C2-01-0006	刮片	22.5×15.5×7.0	1.92	16				F		15	
233	C2-01-0009	刮片	18.0×24.0×6.4	2.57	I	124	7.0×3.0	I	H		15	
234	C2-02-0001	R.F.	20.0×23.0×9.0	3.69	19						15	
235	C2-02-0002	刮片	21.2×31.8×10.0	4.97	C	103	25.0×12.0×1.0	I	S	完	15	
236	C2-02-0003	刮片	25.7×12.3×7.2	2.00							15	
237	C2-02-0004	刮片	46.8×44.5×9.2	19.35	II	69	35.0×7.5	II	F	完	15	
238	C2-02-0009	U.F.	23.8×27.0×5.5	2.77	24	II	102	17.0×6.0×2.0	I+II	S	完	15
239	C2-02-0010	刮片	22.5×8.0×4.5	0.53							15	
240	C2-02-0011	刮片	15.0×8.0×4.0	0.62							15	
241	C2-02-0012	刮片	17.0×9.0×5.5	0.67							15	
242	D1-21-0020	刮片	20.5×41.0×10.7	8.03	C	48	36.0×14.0	III	O	完	15	

宝山群

No.	遗物 No.	分 類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	回	打面	打角(°)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	邊存	使用痕	器物 編號
243	C1-32-0005	刮片	22.0×20.0×9.0	2.86	I	95	18.0×7.0	I	F	完		1	
244	C1-42-0040	刮片	24.0×13.0×7.0	2.11	I	115	11.0×5.0	I	H			1	

245	C1-42-0045	刮片	27.0×28.5×8.0	5.87				C	F	B		1
246	C1-42-0046	刮片	12.5×15.0×3.0	0.53	①	120	14.5×4.5	I+II	F	充		1
247	C1-42-0050	楔形石器	26.0×18.5×11.0	5.91	18	I	113	13.0×5.0	I	F	充	1
248	C1-42-0052	刮片	11.5×25.5×6.5	1.62	P			I	F	R		1
249	C1-42-0054	刮片	15.0×11.5×5.0	0.62				I	F	H		1
250	C1-42-0057	刮片	29.0×17.5×8.0	2.22	I	126	27.0×6.0	I	F	充		1
251	C1-42-0064	刮片	16.5×19.5×6.5	1.37	I	84	20.0×7.0	II	F	充		1
252	C1-42-0069	刮片	15.0×20.0×3.5	0.94	L		7.0	I	F	充		1
253	C1-42-0075	刮片	21.5×12.0×7.0	1.66	I	112	10.0×7.0	I	O	充		1
254	C1-42-0089	刮片	16.0×6.5×4.0	0.32								1
255	C1-42-0096	刮片	18.0×12.5×4.5	0.82				III	F	B		1
256	C1-42-0104	刮片	1.3×9.5×1.5	0.29					S	充		1
257	D1-30-0005	刮片	36.5×30.0×17.5	16.35	⑩	119	36.0×4.0×4.0	I				1
258	D1-31-0045	刮片	8.5×9.0×2.5	0.29								1
259	C1-03-0011	刮片	59.5×55.0×21.5	55.22	I	106	27.0×9.0	I+II	F	充		2
260	C1-42-0066	刮片	13.5×27.0×7.0	2.55	L		10.0	①		H		3
261	C1-42-0061	刮片	29.0×25.5×6.5	4.11	L		6.5	①	F	充		3
262	C1-32-0003	刮片	19.0×21.0×2.5	0.61	L		10.0	I	S	充		4
263	C1-32-0009	楔形石器	22.5×32.0×7.5	4.94	18							4
264	C1-42-0005	刮片	12.5×11.5×2.0	0.29	L		8.0	I	S	充		4
265	C1-42-0042	刮片	29.0×23.5×6.5	3.81	I	112	8.0×3.0	①	F	充		4
266	C1-42-0044	刮片	16.5×9.0×3.0	0.45	L		8.0	I+II	F	充		4
267	C1-42-0053	刮片	16.0×7.5×2.5	0.39	L		9.0	II	F	H		4
268	C1-42-0055	刮片	15.5×14.0×2.0	0.35	L		8.0	不明	S	充		4
269	C1-42-0058	刮片	21.0×9.0×3.0	0.73	L		17.0	①	S	充		4
270	C1-42-0063	楔形石器	28.5×4.5×7.0	3.36	18							4
271	C1-42-0065	刮片	13.5×13.0×2.0	0.37	L		14.0	I	F	充		4
272	C1-42-0066	刮片	13.5×16.0×4.5	0.66	I	111	15.0×6.0	I	F	充		4
273	C1-42-0077	刮片	24.0×21.5×4.5	1.70	L		19.0	I	F	充		4
274	C1-42-0078	楔形石器	22.5×26.5×7.5	4.05	18				F	充		4
275	C1-42-0106	刮片	9.0×10.0×1.5	0.18								4
276	D1-31-0004	刮片	12.5×6.5×2.0	0.11								4
277	D1-31-0023	刮片	23.0×16.0×4.0	1.38	L		11.5	I	F	充		4
278	D1-31-0036	刮片	10.0×10.0×1.5	0.10								4
279	D1-31-0058	楔形石器	21.0×10.5×7.5	2.21	18							4
280	C1-34-0012	刮片	33.5×31.0×8.0	9.16	①	110	16.0×7.0×1.0	I	S	充		5
281	C1-34-0004	刮片	40.0×22.0×7.5	5.12				①	F	B		6
282	D1-06-0001	刮片	40.0×39.0×13.0	13.09								7
283	C1-03-0008	R.F.	19.5×12.0×4.0	0.77	19			I				8
284	C1-43-0003	刮片	13.5×14.5×4.0	0.58	I	83	10.0×2.0	I	F	充		8
285	C1-43-0010	刮片	15.5×8.5×2.5	0.33								8
286	C1-24-0002	刮片	48.5×45.0×12.0	22.14	⑩	123	37.0×13.0×5.0	①	S			9
287	C1-41-0006	刮片	13.0×4.5×1.5	0.13	I	125		II	S	充		10
288	C1-41-0020	刮片	45.5×33.5×11.0	17.11	I							10

289	C1-42-0047	剥片	19.0×12.0×3.0	0.59	L		6.0	I	F	完	不明
290	C1-42-0085	剥片	13.0×6.5×3.0	0.21							不明
291	C1-42-0095	剥片	20.0×8.0×4.5	0.58	L		2.5	I	F	完	不明

属性表

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	面	打面	打角 ($\frac{1}{4}$)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用範	母地番号
292	C1-24-0004	U.F.	49.2×33.2×13.3	13.52	24	I	125	9.0×6.5	I+III+C	O	完	+	1
293	C1-34-0009	石核	48.1×35.6×21.8	28.70									1
294	C1-34-0010	剥片	45.4×25.7×15.6	14.46		II	110	22.0×6.0×2.0	I+C	F	完		1
295	C1-34-0019	剥片	48.8×29.2×14.8	18.33					I+II	F	B		1
296	C1-03-0012	剥片	13.5×18.6×5.2	0.99		I	121	13.0×5.0	I	F	R		2
297	C1-23-0007	剥片	14.3×8.2×5.3	0.53		II	106	8.4×1.7	I	F	完		2
298	C1-24-0001	ナイフ	43.4×16.8×11.1	7.24	16						完	+	2
299	C1-34-0013	剥片	10.7×25.8×4.9	1.17		I	117	16.0×2.0	I	O	完		2
300	C1-03-0001	剥片	9.6×13.8×2.1	0.25		I	120	5.0×2.0	I	S	完		3
301	C1-03-0002	U.F.	31.7×65.8×5.9	7.86	24	II	110	11.0×5.0×1.0	I+C	S	完	+	3
302	C1-03-0003	U.F.	22.2×23.2×4.3	1.31	24	(II)	110	19.0×4.0×3.0	I	F	完	+	3
303	C1-03-0004	剥片	23.2×42.7×10.4	6.47		(II)	116	30.0×8.0×2.0	I+C	S	完		3
304	C1-03-0005	剥片	23.4×22.3×8.2	1.79		(I)	132	7.0×5.5	I+C	F	完		3
305	C1-03-0006	U.F.	34.3×19.6×6.2	2.50	24	I	128	13.0×5.0	I+C	S	完	+	3
306	C1-03-0009	剥片	19.7×6.2×2.2	0.09									3
307	C1-03-0010	剥片	8.2×10.7×2.8	0.18									3
308	C1-03-0010	石核	59.6×31.3×18.6	18.68	29						完		4
309	C1-32-0006	剥片	37.5×54.6×18.3	15.43		(II)	118	38.0×11.0	I+C	S	完		5
310	C1-32-0023	剥片	50.5×14.3×11.2	5.13	40				I+C	S	R		5
311	C1-32-0025	剥片	52.7×37.3×13.4	18.46		I	110	25.0×8.0	I+II+C	F	完		5
312	C1-42-0094	剥片	59.7×23.4×10.9	9.15	40				I+C	S	L		5
313	C1-43-0006	剥片	41.3×21.8×10.3	7.36		I	105	10.0×4.5	I+III+C	F	完		6
314	C1-43-0004	削器	39.6×21.3×7.2	4.48	17	I	110	6.0×5.0			完	+	7
315	C1-32-0004	石核	34.4×38.9×16.7	23.46	29						完	+	8
316	C1-32-0016	剥片	29.6×28.3×6.3	2.10		I	105	8.5×3.0	I+II	F	完		9
317	C1-23-0001	R.F.	27.3×18.7×9.7	4.16	20				I+II	S	B	+	10
318	C1-23-0003	U.F.	22.8×22.2×7.8	2.85	20	I	105	12.0×7.0	I		H	+	10
319	C1-23-0006	剥片	11.2×15.3×5.4	0.86		I	99	6.0×2.5	I+III	O	完		10
320	C1-23-0009	剥片	25.8×14.4×7.3	1.50	20				I		B		10
321	C1-34-0001	楔形石器	34.3×13.6×11.4	4.13	18						完		11
322	C1-23-0004	剥片	53.2×38.3×11.3	15.86		I	116	10.0×8.0	I	F	完		12
323	C1-23-0008	削片	6.6×9.8×0.8	0.05									12
324	C1-23-0011	剥片	35.6×29.2×7.7	5.82		I	104	23.0×7.0	I+III	F	完		12
325	C1-23-0005	剥片	48.2×36.2×9.1	11.40		I	120	14.0×8.0	II	F	完		13

326	C1-23-0012	刮刀	17.4×10.8×2.2	0.42	17						充		14
327	C1-43-0008	刮片	18.2×22.2×3.2	0.85	L		11.8	I+C	F	充			15
328	C1-23-0002	刮片	18.0×23.3×5.6	2.19	I	118	9.0×3.0	I+C		H			16
329	C1-33-0001	刮片	16.1×16.5×4.9	0.62	C	116	11.8×5.0	I	S	充			16
330	D1-00-0002	擦片	25.5×26.9×12.8	6.92									17
331	B1-15-0001	石刀	37.2×51.5×14.2	19.33	19	I	86	41.0×11.0	I		H		18
332	B1-15-0001	石刀	66.2×83.4×25.7	69.71	19	⑪	131	54.0×22.0×3.0	I	F	充		19
333	001-0047	R.F.	18.3×21.0×4.5	1.65	21	H	110	7.0×2.0	I		H		20

砂岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	固	打面	打角 (°)	打面長×寬×高(mm)	背面構成	末端	進存	使用範	器皿 編號
334	C1-22-0001	刮片	62.0×38.0×18.0	42.68					I	F	B		1
335	C1-23-0015	刮片	54.0×47.0×17.0	44.19	31				C	F	B		1
336	C1-23-0016	刮片	45.5×54.5×21.0	44.82	31	①	129	16.0×7.0	I		H		1
337	C1-23-0021	刮片	8.5×31.0×4.5	0.68	31								1
338	C1-23-0022	石核	81.5×36.0×31.0	61.07	31						充		1
339	D1-31-0011	刮片	14.5×9.5×4.0	0.73									1
340	D1-31-0025	刮片	16.5×38.0×4.0	1.31	I	111	6.0×3.0	I		S	充		1
341	D1-31-0036	刮片	10.0×5.0×2.0	0.09									1
342	D1-31-0037	刮片	6.5×5.5×1.0	0.06									1
343	D1-31-0040	刮片	7.0×4.5×1.0	0.03									1
344	D1-31-0051	刮片	12.5×7.5×4.0	0.28									1
345	D1-31-0052	刮片	7.0×5.0×2.0	0.07									1
346	D1-31-0053	刮片	6.0×9.0×1.0	0.06									1
347	D1-31-0056	刮片	14.5×10.0×3.0	0.41									1
348	C1-32-0018	擦片	32.0×23.5×14.5	8.09									2
349	C1-34-0016	石錐	62.0×73.0×3.5	82.68	33	F							3
350	C1-34-0023	石錐	61.5×57.0×9.0	30.42	33	F							3
351	D1-10-0001	擦片	8.5×15.5×8.0	0.74									4
352	D1-11-0014	擦片	50.0×34.5×17.5	18.45									4
353	C1-42-0002	石錐	185.0×91.0×93.0	1560.00	35								5
354	C1-42-0111	刮片	5.0×5.0×1.5	0.05									5
355	D1-20-0046	石錐	86.5×79.0×48.0	434.00	34								6
356	D1-20-0003	打削器	43.5×19.5×11.0	8.96	32								7
357	D1-36-0061	打削器	111.5×89.0×43.5	292.00	32								7

黑色頁岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	固	打面	打角(°)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用痕	母岩 編號
358	C1-23-0017	剝片	34.3×46.8×15.4	26.27	41	I	115	11.5×5.0×-1.0	C	F	完		1
359	C1-41-0017	剝片	8.5×4.7×1.3	0.06					I	F	完	+	1
360	C1-41-0018	U.F.	22.6×33.2×6.2	3.36	25	I							1
361	C1-42-0049	剝片	9.7×14.8×6.5	0.86	41				I+II+C	O	B		1
362	C1-42-0059	剝片	55.7×24.5×6.6	5.50	40								1
363	C1-42-0071	剝片	39.8×27.2×12.6	6.53	41	L		23.0	I+C	F	完		1
364	C1-42-0076	剝片	22.6×18.7×13.3	3.31		I	107	9.0×7.0	I+II	H			1
365	C1-42-0080	剝片	30.4×17.3×5.8	2.54		I	101	2.2×4.8	I+C	S	完		1
366	C1-42-0081	剝片	21.8×22.7×12.1	6.14	41	C			C		破片		1
367	C1-42-0082	剝片	56.7×23.7×11.3	13.41	40	L		44.0	I+C	F	完		1
368	C1-42-0087	剝片	13.3×7.4×1.6	0.14									1
369	C1-42-0099	剝片	37.3×15.2×4.8	2.95	41	①	100	6.0×2.5	I+C			+	1
370	C1-42-0107	剝片	13.6×22.7×9.5	2.30	41				I+C	F	B		1
371	C1-23-0013	剝片	13.6×15.7×3.9	0.82		I	88	13.0×3.5	I		H		2
372	D1-10-0001	剝片	23.4×11.0×6.1	0.82	41	I	129	9.6×3.4×-1.0	I+C	F	完		3
373	D1-10-0008	剝片	21.4×30.6×8.2	4.08		I	72	29.6×7.3	I+II+C	F	完		3
374	D1-10-0012	剝片	25.3×23.2×7.4	2.70	41	I	113	14.0×5.0	I+C	H	完		3
375	D1-11-0011	剝片	26.4×19.0×5.4	2.14		L		18.0	I+C	F	完		3
376	D1-11-0015	剝片	19.8×11.8×5.2	1.01		I	96	13.0×2.0	II+C	F	完		3
377	C1-42-0074	剝片	14.3×15.6×3.6	0.48		I	103	7.0×2.5	I	S	完		不明
378	C1-42-0103	剝片	10.0×13.3×4.2	0.32									不明
379	C1-42-0106	剝片	15.4×9.3×2.7	0.21									不明

堆質黏土岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	固	打面	打角(°)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用痕	母岩 編號
380	C1-40-0001	U.F.	33.0×16.5×9.0	4.09	25	I	119	9.0×6.0	I+II+C	F	L	+	
381	C1-40-0004	剝片	44.5×25.0×7.5	7.58		①	123	12.0×6.0×2.0	I+C	S	R		
382	C1-40-0005	剝片	23.5×19.0×6.5	2.06		II	136	18.0×4.0×3.0	II	S	完		
383	C1-40-0010	剝片	23.5×34.0×16.5	2.07		L		11.0	I+II	S	完		
384	C2-01-0002	U.F.	28.5×22.0×9.0	5.28	25	I	109	17.0×8.0	II	F	R	+	

硅化礫岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	固	打面	打角(°)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用痕	母岩 編號
385	D1-21-0008	剝片	11.0×4.5×6.0	0.15	25								

386	D1-31-0015	楔形石器 刮片	27.0×25.0×13.5 36.0×32.0×10.0	6.83 7.19	18 不明				I	S	充	+	
387	D1-31-0054												

メノウ

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	図	打面	打ち身(?)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用状況	登録番号
388	B1-42-0001	U.F.	30.5×42.0×5.5	6.37	25	I	165	10.0×3.0	I + F	F	完	+	1
389	A1-43-0001	R.F.	29.5×29.0×6.5	4.85	21	II	91	17.0×4.0×1.0	I	S	完		2
390	B2-29-0001	R.F.	39.0×17.0×12.5	6.17	21	II	94	18.5×12.0×1.0	II+III	S	完	+	2

珪化泥岩岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	図	打面	打ち身(?)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用状況	登録番号
391	D1-10-0004	U.F.	51.0×41.0×10.0	20.36	25	I	120	19.0×9.0	I + II + III	S	完	+	
392	D1-31-0021	刮片	12.0×15.5×7.0	0.66									

黑曜石

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	図	打面	打ち身(?)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用状況	登録番号
393	B1-42-0001	刮片	9.0×7.0×3.0	0.16									

頁岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	図	打面	打ち身(?)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用状況	登録番号
394	C1-31-0001	刮片	8.5×8.5×3.0	0.26									

片麻岩

No.	遺物 No.	分類	長×幅×厚(mm)	重量(g)	図	打面	打ち身(?)	打面長×幅×高(mm)	背面構成	末端	遺存	使用状況	登録番号
395	B2-14-0001	刮片	14.5×14.5×3.5	0.94									

第2表 石器組成表1

母岩番号	ナイフ	削器	複形石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剝片	刮片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
チャート	0	2	5	0	0	19	7	0	0	79	53	0	165	41.8	598.26	13.8
粘板岩	0	1	0	0	1	4	2	0	0	41	28	0	77	19.5	402.91	9.3
安山岩	0	0	5	0	1	0	0	0	0	33	9	1	49	12.4	200.90	4.6
流紋岩	1	2	1	2	2	5	3	0	0	22	3	1	42	10.6	357.90	8.2
砂岩	0	0	0	0	0	0	1	2	2	4	10	5	24	6.1	2632.42	60.5
黒色頁岩	0	0	0	0	0	1	0	0	0	16	5	0	22	5.6	79.95	1.8
珪質粘板岩	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	5	1.3	21.80	0.5
珪化凝灰岩	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0.8	14.17	0.3
メノウ	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	0.8	17.39	0.4
珪化泥灰岩	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0.5	21.22	0.5
角砾石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.3	0.16	0.0
頁岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.3	0.26	0.0
片麻岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3	0.94	0.0
总数	1	5	12	2	6	35	13	2	3	199	112	7	395	100	4348.30	100
組成比 (%)	0.3	1.3	3.0	0.5	1.5	8.4	3.3	0.5	0.8	50.4	28.4	1.8				

第3表 石器組成表2

チャート

母岩番号	ナイフ	削器	複形石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剝片	刮片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
チャート 1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	5	3.0	30.56	5.1
チャート 2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	19	6	0	28	17.0	104.21	17.4
チャート 3	0	1	1	0	0	3	1	0	0	10	9	0	25	15.2	45.04	7.5
チャート 4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	6	3.6	32.64	5.5
チャート 5	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	6	0	7	4.2	14.06	2.4
チャート 6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	9	4	0	14	8.4	85.24	14.7
チャート 7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	9	0	14	8.4	18.06	3.0
チャート 8	0	1	0	0	0	3	1	0	0	3	3	0	11	6.7	68.82	11.5
チャート 9	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3	1.8	8.12	1.4
チャート 10	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1.8	21.64	3.6
チャート 11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	1.8	16.80	2.8
チャート 12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3	1.8	16.15	2.7
チャート 13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.6	6.02	1.0
チャート 14	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	5	3.0	7.96	1.3
チャート 15	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.6	6.54	1.4
チャート 16	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	5	8	4.8	4.10	0.7
チャート 17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	1.8	2.58	0.4
チャート 18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.6	13.88	2.3
チャート 19	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.6	18.49	3.1
チャート 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.6	6.44	1.1
チャート 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.6	0.85	0.1
チャート 22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1.2	15.09	2.5

チャート 23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.6	9.30	1.6
チャート 24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.6	1.12	0.2
チャート 25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.6	3.28	0.5
チャート 26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.6	0.24	0.04
チャート 27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1.2	0.82	0.1
チャート 28	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.6	2.75	0.5
チャート 29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.6	0.97	0.2
チャート 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4	2.4	19.66	3.3
チャート 31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.6	0.24	0.04
チャート 32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.6	6.42	1.1
チャート 33	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2	0	5	3.0	5.26	0.9
总数	0	2	5	0	0	19	7	0	0	79	53	0	165	100	598.26	100
組成比 (%)	0	1.2	3.0	0	0	11.5	4.2	0	0	47.9	32.1	0				

粘板岩

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削面	石錐	剝片	削片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (kg)	重量比 (%)
粘板岩 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8	0	14	18.1	14.10	3.5
粘板岩 2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	7	0	23	29.9	157.97	39.2
粘板岩 3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2.6	16.53	4.1
粘板岩 4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.3	18.85	4.7
粘板岩 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.3	0.73	0.2
粘板岩 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2.6	11.36	2.8
粘板岩 7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	4	5.2	24.64	6.1
粘板岩 8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.3	3.33	0.8
粘板岩 9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.3	0.93	0.2
粘板岩 10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.3	33.95	8.4
粘板岩 11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.3	8.71	2.2
粘板岩 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.3	20.20	5.0
粘板岩 13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.3	3.08	0.8
粘板岩 14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.3	17.19	4.3
粘板岩 15	0	1	0	0	1	1	0	0	0	10	16	0	23	29.9	71.34	17.7
总数	0	1	0	0	1	4	2	0	0	41	28	0	77	100	402.91	100
組成比 (%)	0	1.3	0	0	1.3	5.2	2.6	0	0	53.2	36.4	0				

安山岩

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削面	石錐	剝片	削片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (kg)	重量比 (%)
安山岩 1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12	3	0	16	32.7	43.60	21.7
安山岩 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.0	55.22	27.5
安山岩 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4.1	6.66	3.3
安山岩 4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	11	3	0	18	36.7	25.61	12.7
安山岩 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.0	9.16	4.6
安山岩 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.0	5.12	2.5

安山岩 7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2.0	13.09	6.5
安山岩 8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	6.1	1.66	0.8
安山岩 9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2.0	22.14	11.0
安山岩 10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4.1	17.34	8.6
安山岩不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	6.1	1.38	0.7
总数	0	0	5	0	1	0	0	0	0	33	9	1	100	200.90	100
組成比 (%)	0	0	10.2	0	2.0	0	0	0	0	67.3	18.4	2.0			

斑状岩

母岩番号	ナイフ	折器	楔形石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	崩片	その他	総数	数量比 (%)	重量比 (%)	質量比 (%)	
流紋岩 1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	4	9.5	75.01	21.0
流紋岩 2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4	9.5	9.93	2.8
流紋岩 3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	2	0	8	19.0	20.45	5.7
流紋岩 4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2.4	18.68	5.2
流紋岩 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	9.5	48.19	13.5
流紋岩 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.4	7.38	2.1
流紋岩 7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	4.48	1.3
流紋岩 8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2.4	23.46	6.6
高級岩 9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.4	2.10	0.6
高級岩 10	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	4	9.5	9.37	2.6
高級岩 11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	4.13	1.2
高級岩 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	7.1	21.73	6.1
高級岩 13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.4	11.68	3.2
高級岩 14	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	0.42	0.1
高級岩 15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2.4	0.85	0.2
高級岩 16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4.8	2.81	0.8
高級岩 17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2.4	6.92	1.9
高級岩 18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	19.33	5.4
高級岩 19	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	69.71	19.5
高級岩 20	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	1.55	0.4
总数	1	2	1	2	2	5	3	0	0	22	3	1	0	42	100	357.90	100
組成比 (%)	2.4	4.8	2.4	4.8	11.9	7.1	0	0	0	52.4	7.1	2.4					

砂岩

母岩番号	ナイフ	折器	楔形石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	崩片	その他	総数	数量比 (%)	重量比 (%)	質量比 (%)
砂岩 1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	9	0	14	58.3	196.70	7.5
砂岩 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4.2	8.69	0.3
砂岩 3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	8.3	113.10	4.3
砂岩 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	8.3	19.19	0.7
砂岩 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	8.3	156.05	59.3
砂岩 6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4.2	434.00	16.5
砂岩 7	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	8.3	300.69	11.4
总数	0	0	0	0	0	0	1	2	3	4	10	4	24	100	2632.42	100
組成比 (%)	0	0	0	0	0	0	4.2	8.3	12.5	16.7	41.7	16.7				

黑色頁岩

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	断片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
黒色頁岩 1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9	3	0	13	59.1	67.37	84.3
黒色頁岩 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4.5	0.82	1.0
黒色頁岩 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	22.7	10.75	13.4
黒色頁岩不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	13.6	1.01	1.3
总数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	16	5	0	22	100	79.95	100
組成比 (%)	0	0	0	0	0	4.5	0	0	0	72.7	22.7	0				

珪質粘板岩

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	断片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
珪質粘板岩	0	0	0	0	0	2	0	6	0	3	0	0	5	100	21.08	100
組成比 (%)	0	0	0	0	0	40.0	0	6	0	60.0	0	0				

珪化纖灰岩

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	断片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
珪化纖灰岩	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	100	14.17	100
組成比 (%)	0	0	33.3	0	0	0	0	0	0	33.3	33.3	0				

メノウ

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	断片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
メノウ 1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	33.3	6.37	36.6
メノウ 2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	66.7	11.02	63.4
总数	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	100	17.39	100
組成比 (%)	0	0	0	0	66.7	33.3	0	0	0	0	0	0				

珪化流紋岩

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	断片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
珪化流紋岩	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	100	21.22	100
組成比 (%)	0	0	0	0	0	50.0	0	0	0	0	50.0	0				

黑曜石

母岩番号	ナイフ	削器	楔形 石器	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石錐	剥片	断片	その他	総数	数量比 (%)	総重量 (g)	重量比 (%)
黒曜石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100	0.16	100
組成比 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0				

資料

名	石器番号	ナイフ	削器	楔形	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石核	剥片	断片	その他	総数	数量比(%)	総重量(g)	重量比(%)
真物		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100	0.26	100
組成比(%)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0				

片麻岩

名	石器番号	ナイフ	削器	楔形	石刀	R.F.	U.F.	石核	打削器	石核	剥片	断片	その他	総数	数量比(%)	総重量(g)	重量比(%)
片麻岩		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100	0.94	100
組成比(%)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0				

石器属性表の見方

No 全資料の通し番号。遺物分布図及び遺物実測図、図版の番号と一致する。

遺物番号 遺物に付記してある番号で、調査時に作製した遺物台帳の登録番号。

分類 R.F. (Retouched Flake)・U.F. (Utilized Flake)

打面 C (自然面)・I (平坦面)・II (複剥離)・L (線状)・P (点状)

この内パルプのあるものは○付文字。計測部位は下図参照。

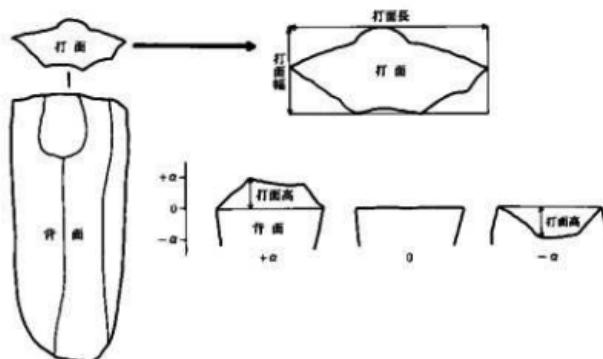
背面構成 C (自然面)・I (上)・II (横)・III (下)・F (筋理面)

末端端 F (Feather end)・S (Step fracture)・O (Outrepasse)

遺存状況 遺存する部位を現す。

完 (完形)・H (頭部)・M (中間部)・B (尾部)

R (背面に対して右)・L (背面に対して左)



第2章 検出された遺構と遺物

調査区内で検出した上層の遺構は、1遺構のみである。

1. 001号遺構(第42図、図版6)

溝状の遺構で、序章で述べたように底面に硬化した面があるため道路跡と考えられる。

東西に長い調査区の西寄りを調査区を縦断するように南北に延びている(主軸N-13.0°-W)。確認面での幅は4.6~6.6mで調査区内では南が広く、北が狭くなっている。深さは確認面から0.85~1.0mである。底面(幅3~3.5m)には、2条または3条の硬化部分があり(幅0.4~1.8m)、南北に80cm前後の間隔をあけて平行に延びている。硬化した部分の横断面は、いずれも両端が僅かに高く中央部が窪んでおり、浅い皿状となる。

覆土は上から1層が耕作土、2層は上面が硬化した黒色の有機質土、3層がローム粒子を僅かに含む黒色有機質土、4層はローム粒子を多量に含んだ褐色土である。5層は硬化面でローム粒子・砂粒を含み、厚さ10cm~18cm。6層も硬化面で5層に類似するが5層よりローム粒子を多く含む。

001号遺構出土遺物(第43図、図版15)

出土遺物は土師器片・須恵器片・陶磁器片(近世)が70点余りである。上層から下層にかけて出土し多くの小破片であるが、そのうち4点が図示出来た。

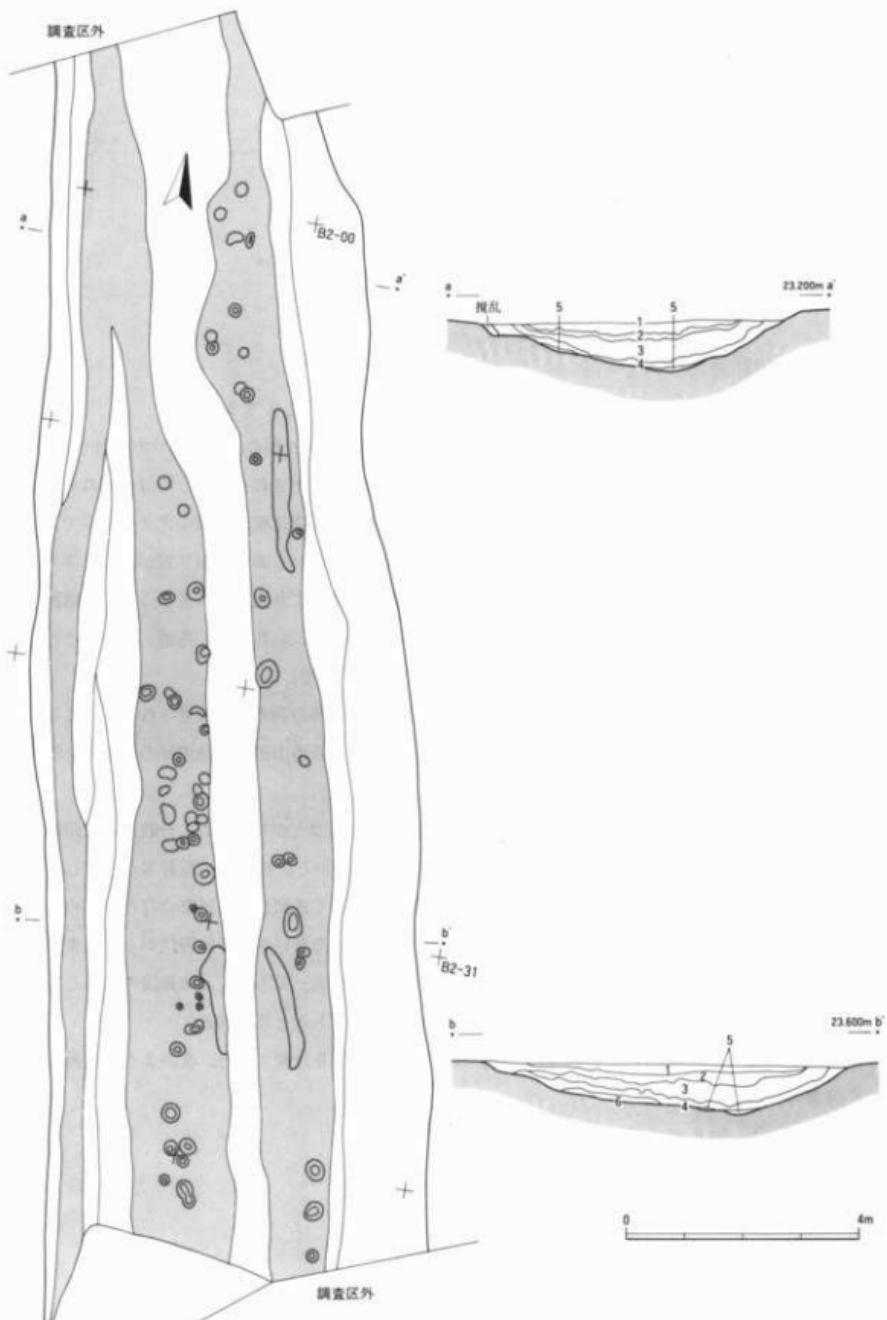
1は須恵器高台付杯。上層出土。体部は直線的に立ち上がる。底部は高台より外方へ張り出す。高台は張り付けており、外方へ開く。体部下端は回転ヘラ削り、底部はヘラ削り後ナデていると思われ、切り離し技法は不明。胎土には細砂粒を多量に含む。焼成はあまり。内面は灰褐色、外面は黒褐色を呈する。高台の径は復原で8.6cm、遺存高2.6cm。

2は須恵器杯。下層から出土した。硬化面からは20cm~30cm上である。遺存するのは全体の5分の1周。平底で外傾しながら立ち上がる。口縁部は横ナデ、体部はロクロ利用のナデを行う。底部はヘラ削り後ナデしていると思われるが器表面が磨耗しつきりしない。胎土に黒灰色の大粒の粒子を含む。色調は灰褐色で焼成はあまり。口径と底径は復原で14.8cm、8.6cm、器高は4.3cmである。

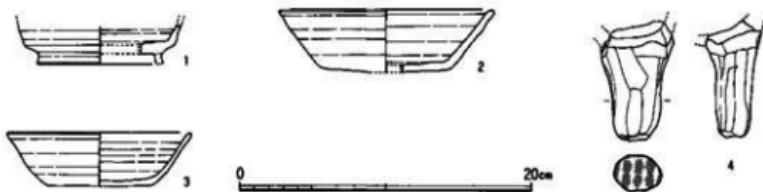
3は土師器杯。口縁部の4分の1周と底部の3分の2を遺存する。平底で体部は外傾しながら立ち上がる。底部はロクロ利用のナデを行う。胎土には細かい砂粒を多量に含む。焼成は良好で、色調は明赤褐色を呈する。口径と底径は復原でそれぞれ12.5cm、8.9cm、器高は4.6cmである。

4は須恵器の脚部。上層出土。縦方向の難なヘラ削りを行う。横断面は橢円形である。脚端部は使用によるためか磨耗が著しい。胎土には砂粒を多量に含んでいる。焼成はあまり。外面は灰褐色を呈し断面はセピアがかった灰色である。

(山口)



第42図 001号遺構



第43図 001号造構出土土器

2. 道路跡について

検出された道路跡（001号跡）について若干の考察を行うこととする。

道路跡はやや不整形であるものの、確認面の上辺で幅約6.0m程の溝状の掘り方を有し、造構の底面や底面付近に、2条または3条の硬化面が連続して検出されるという特徴が認められる。一見して集落内の小径等の道路跡とは異なり、道路跡としては比較的規模の大きなものであろう。また、出土遺物から想定した時期は、8世紀中葉まで通り、溝状の掘り方が完全に埋まるのは近世になってからのようである。更に、序章第1図等により推定されるように、道路跡は本遺跡の立地する台地上に直線的に連続しているようであり、いわゆる「造道」であることが想定される。また本遺跡の南1.5kmに、下総国府推定地が立地している。

近年、県内外で、いわゆる「古代官道」と呼ばれる道路跡の調査例が散見される。ここでは本遺跡の道路跡に類似し共通する点が多く認められる、市原市山田橋表通遺跡の調査例を取り上げたい。（註1）。

山田橋表通遺跡では、幅6.0m主道及び幅3.0mの分岐道などが検出され、分岐道には側溝が伴うとのことである。また付近の航空写真・地図等の資料から、幅12mの畦畔等が現存しており、これらを統合すると、市原市山倉付近から郡本付近まで連続した道路跡の存在が認められる。この道路跡の時期についての詳細は報告書の刊行を待ちたいが、奈良時代から中世までは存続していたようある。この道路跡が、いわゆる「古代官道」であることは異論のないところであるが、古東海道の本道であるかどうかは検討の余地があると思われる。

新山遺跡で検出した道路跡と市原市山田橋表通遺跡の例を比較すると、次のような共通点が認められた。

- ① 幅6 mを基準とした道路跡であること。
- ② 道路跡として時期が8世紀まで遡れること。
- ③ 直線的に連続した痕跡を有すること。
- ④ 道路に関する字名を有すること。
- ⑤ 比較的国府推定地に近い位置に所在すること。

これらの共通点からだけで、両遺跡の道路跡が共通の機能を有したとは考えられないが、県

外の例で、古東山道の発掘例（註2）や、佐賀県吉野ヶ里遺跡の官道の調査例（註3）などを併せて考えると、律令下の尺度で10尺（約3m）・20尺（約6m）・40尺（約12m）という尺度を有する道路の存在が浮かび上がってくる。もちろん令の規定には道路幅の規定についての記載はないものの、県内外の調査例をみると上記のような傾向が認められるのではないか（註4）。

本遺跡の場合も、やや不整気味ではあるものの、20尺という尺度基準の存在が窺え、いわゆる「古代官道」として捕らえられるべきものと判断し、本道以外の支道的要素の強い性格を有するものではないかと推定しておきたい。（田形）

（註1）近藤 敏 「山田橋表通遺跡」『市原市文化財センター年報』 1985年

（註2）坂井 隆 「特別課題 研究動向 4 交通一通じ」『群馬県の考古学』 1988年

（註3）佐賀県教育委員会「吉野ヶ里を掘る」「神崎工業団地内文化財発掘調査概要」 1987年

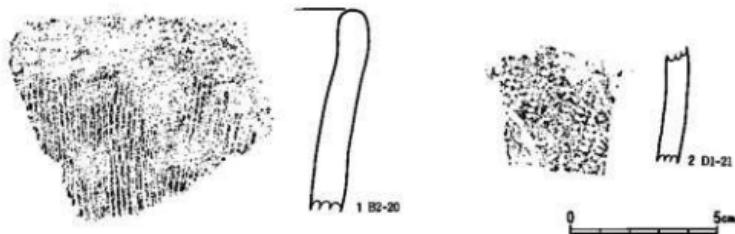
佐々木 一 「神崎郡の駅路と周辺の遺跡 もうひとつの吉野ヶ里遺跡」講演会要旨 1989年

（註4）木下 良氏によると、24m・18m・9m・6mの計画性がみられるとのことである。

木下 良 「東山道など古代道調査研究の意義」 講演会資料 1988年

3. 繩文時代の遺物(第44図1・2、図版15)

確認調査の際に若干の縄文式土器が出土している。そのうちのほとんどがかなりの細片で、時期が判明したのは中期後葉、後期中葉のものである。このうち図示可能な物を2点紹介する。1は口縁部で断面はやや丸味がある。端部に横ナデによる無文帯を作り出し、以下に櫛齒状工具によって縦位に条線文を施している。加曾利E式後半（田式以降）と思われるもので、B2-21区出土。2は胴部で沈線による曲線的な区画がなされ、その内部には縦位にR（上が小単位で充満され、区画文が形成されると思われる。区画外は無文となる。加曾利B式で、D1-21区出土。調査範囲内では從来の知見に中期後葉の遺物が加わったが、いまなお希薄な遺物散布地であるという本遺跡の評価を変えるものではない。（上守）



第44図 縄文式土器

図面・図版

-
- A historical map of the Kita area of Nara, Japan, showing the locations of various ancient archaeological sites. The map includes a legend on the right side listing 18 numbered sites, each with a corresponding location marker on the map. The map also features a grid system, numerous place names in Japanese, and a scale bar at the bottom.
1. 新山遺跡
 2. 爰宕遺跡
 3. 小坂山遺跡
 4. 大橋向山遺跡
 5. 八反削B遺跡
 6. 八反削A遺跡
 7. 彦八山遺跡
 8. イザナギ神社境内遺跡
 9. 桜原原遺跡
 10. 堀之内貝塚
 11. 下總国分遺跡
 12. 須和田遺跡
 13. 天神山遺跡
 14. 栗山古墳群
 15. 丸山遺跡
 16. 国府台城跡
 17. 明戸古墳
 18. 法皇塚古墳



川



第46図 新山遺跡の地形 (1/2,500)

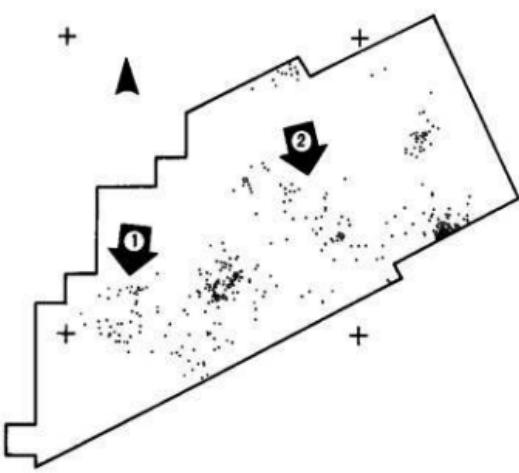




新山道路近景

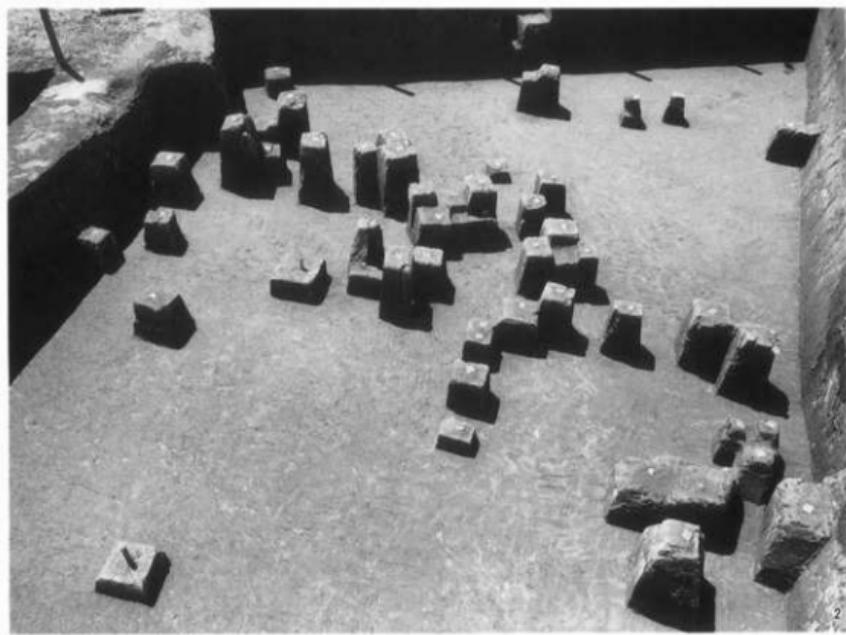


調査区全景

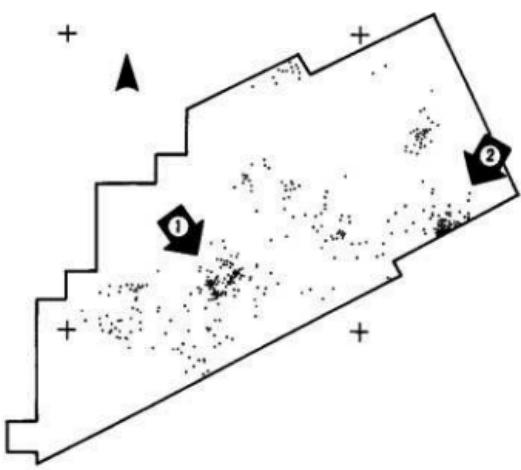




遺物出土状況



遺物出土状況

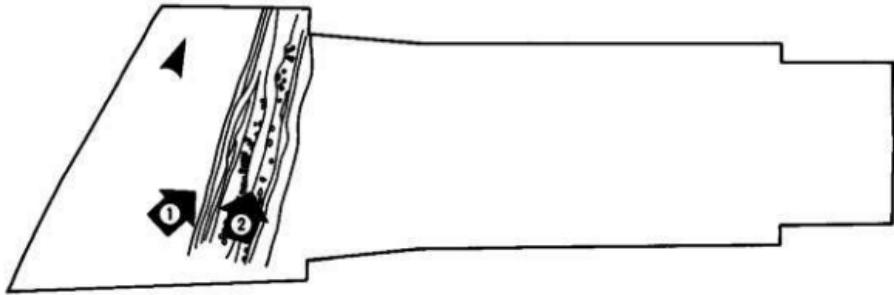




遺物出土状況



2
遺物出土状況

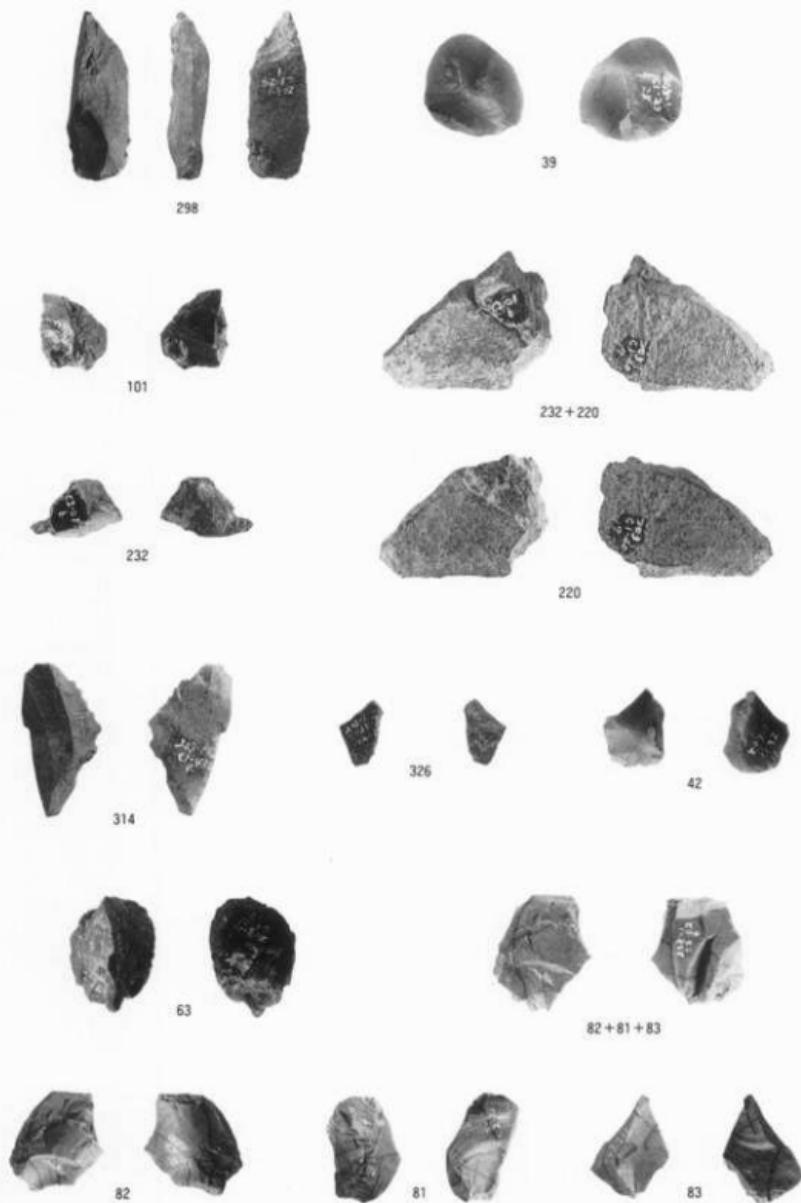




001号遺構全景

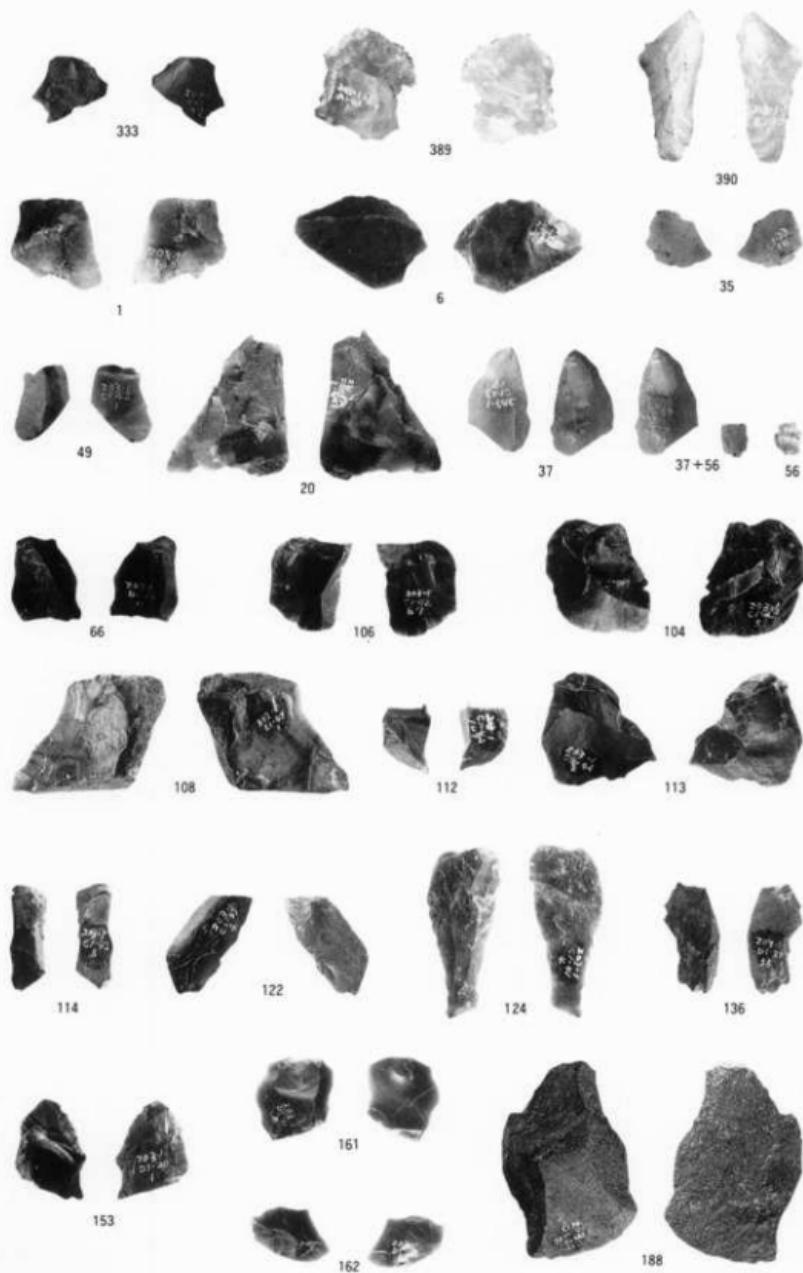


001号遺構近景

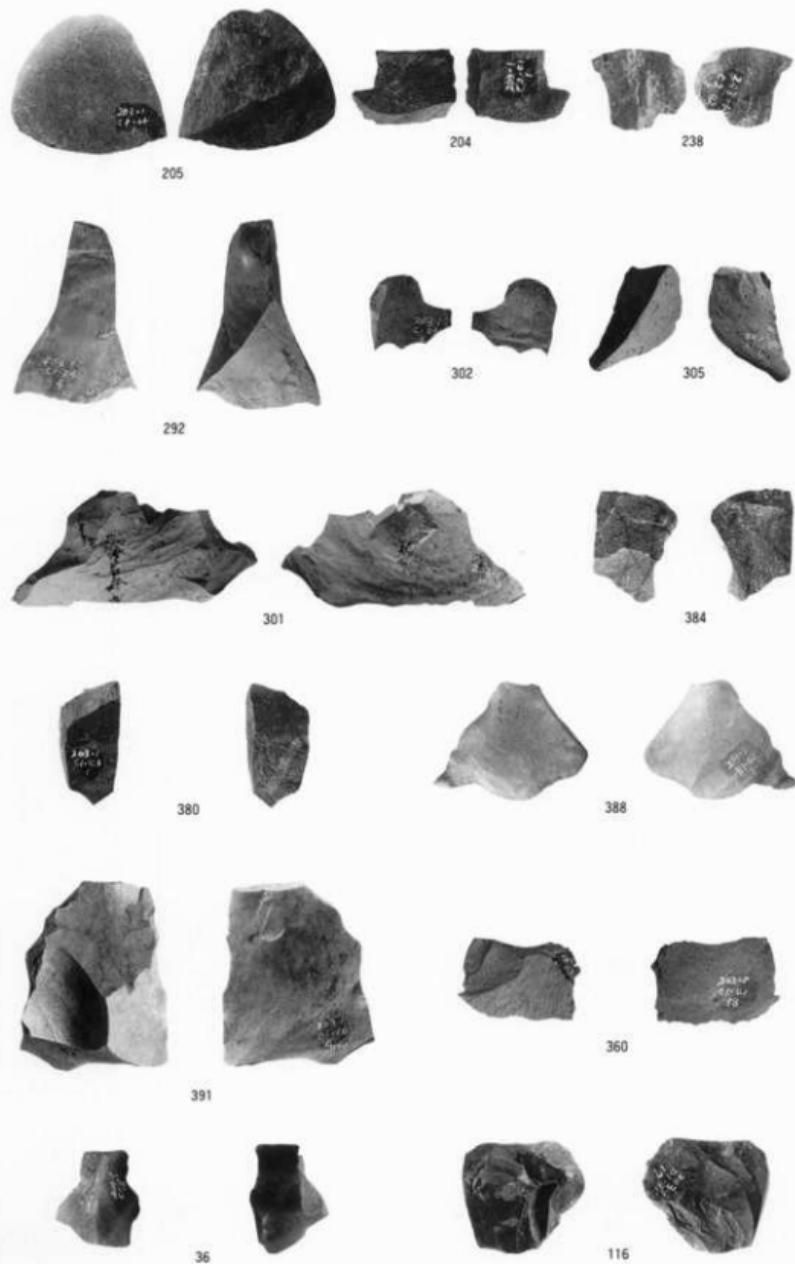




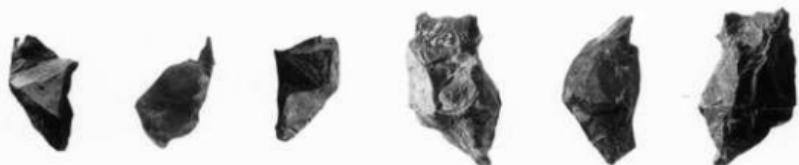
樹形石器・石刃・二次加工のある剥片・使用痕のある剥片



二次加工のある剥片・使用痕のある剥片

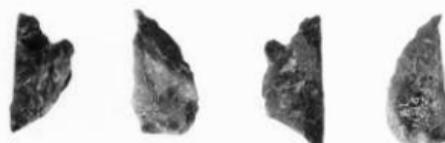


使用痕のある剥片・石核



71

100

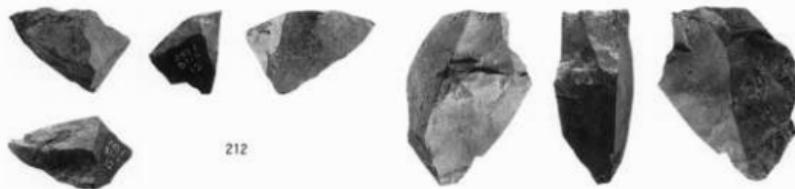


128



142

215



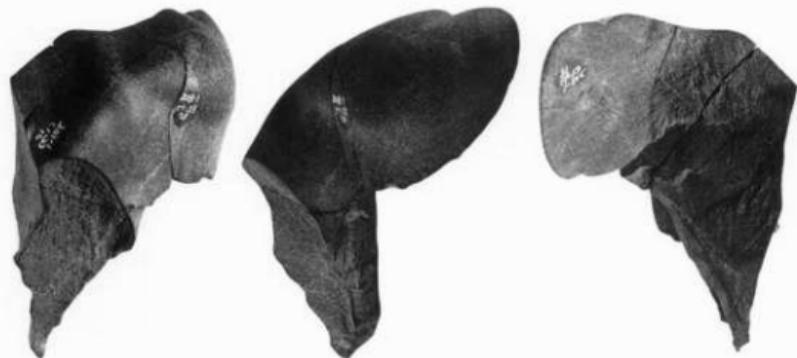
212

293



308

315



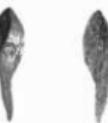
335 + 337 + 336 + 338



335



337



336

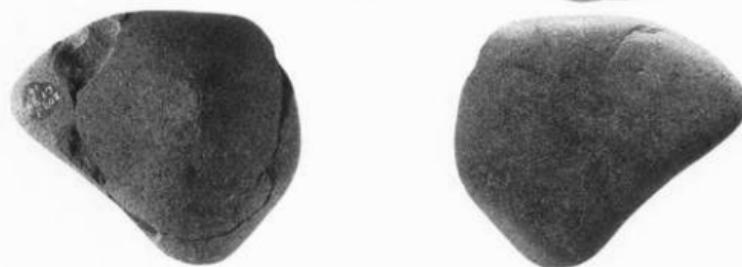


338





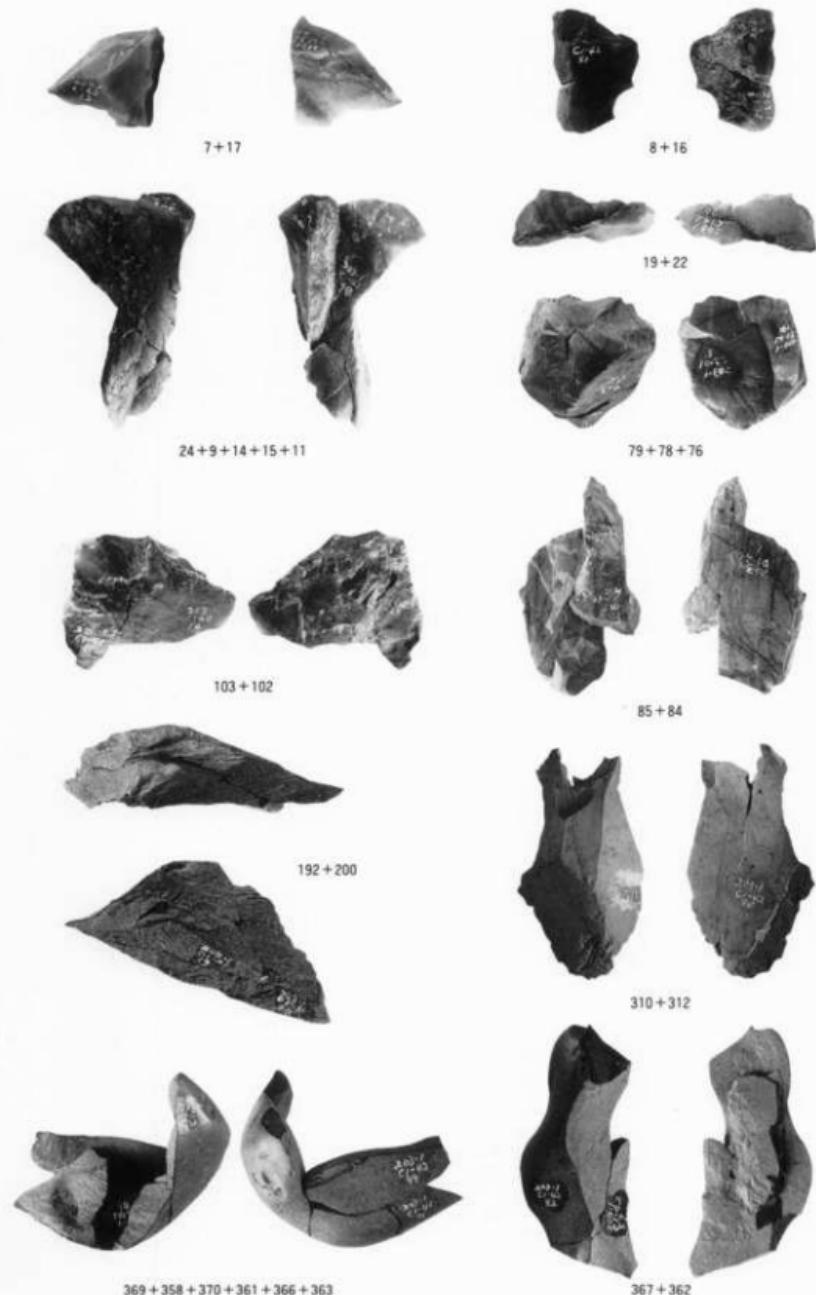
357 + 356



349 + 350



355





353



001-1



001-4



001-2



1



2

縄文式土器

石砧・001号遺構出土土器・縄文式土器

千葉県文化財センター調査報告第173集

市川市新山遺跡

北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書II

平成2年3月26日 印刷

平成2年3月31日 発行

発 行 日 本 鉄 道 建 設 公 团
千代田区麹町4丁目2番

編 集 財団法人 千葉県文化財センター
千葉市葛城2丁目10番1号

印 刷 有限会社 正 文 社
千葉市都町2丁目5番5号
